

月日ノ齟齬シ居ル以上ハ第二審ニ於テ之ヲ更正アルハ當然ナルニ事茲ニ出テサルハ不法ノ裁判ナリト云ヒ同第二點ハ第一審判決書中上告人カ第三第五ノ所爲ハ既發自首トシテ自首減輕ノ法條ノ適用ナシ元來裁判官ノ判定ニ委任シタル事實ノ有無輕重ニ於テハ敢テ容喙シ能ハスト雖トモ本件自首ノ無効ニ歸セシハ戶田高知縣警部長カ宮崎縣警部長ヨリ佐伯カ偽造金貨十五個ヲ抵當ニ入レ河野宗四郎ヨリ金ヲ借り居ル其出所調ヨリ電報ニ接シ上告人ニ第三ノ所爲アルコトヲ看破シタリトノ證言ニ依ルノ外一件ノ記錄中毫モ他ニ因由スルモノナシ然リ而シテ此證言タルヤ單ニ戶田警部長カ當時想像的ノ語ニ止マリシコトハ同官カ豫審判事ヨリ金貨ノ紛失ヲ發見セシハ何時カトノ間ニ十月三十日トノ答辯ニ徵シ明確ニシテ上告人カ十月二十九日同官へ首服スルマテ事ノ未發ナリシコトハ明カナル事實ナリトス然ルニ戶田警部長ノ想像カ偶然上告人ノ自首的の中シタレハトテ之ヲ以テ既發自首トナシタルハ不當ナリ何トナレハ上告人カ河野宗次郎へ抵當トシテ金策シタル事件ハ己ニ發覺シ居タリトスルモ該抵當物件ハ果シテ高知縣警察部ノ保管物ナルヤ將タ他人ノ有セルモノナルヤハ其實物調査ヲ爲サトル以上ハ之ヲ確知スル能ハサルモノナルニ第一審ニ於テ輕々既發自首ト斷了シタルハ疑律ノ錯誤ナリト云ハサルヲ得ス又第一審判決第五ノ所爲ノ前段遠山利直ニ偽造二圓金貨ヲ抵當トシテ金借シタルコトハ上告人ノ自首ニ依テ始メテ發覺シタルハ疑點ナキ事實ナリ故テ以テ豫審ニテハ未發自首ト決定セラレタリ然ルニ第一二審ニ於テ之ヲ後段ナル河野宗四郎ニ對スル既發事件ト併合シ一罪トシテ處斷シタルハ失當ノ裁判ナリト云フニ在レトモ〇原判決ヲ查ス

判旨第二點

ルニ(前略)右列記中第三第五ノ所爲ハ其發覺後即チ明治二十九年十月二十九日高知警察署へ首出シ第一第二第四第六ノ所爲ハ其發覺前即チ同月三十日高知地方裁判所檢事ニ首出シタルモノナリトアリテ其自首ノ年月日及ヒ既發未發ノ區別ハ明カニ判示シアリ而シテ右ノ事實ヲ判定スルハ承審官ノ職權ニ屬スルモノナルヲ以テ原院カ第一審ノ認定ヲ相當ナリトシテ其判決ヲ是認シタルハ不法ニアラサルヲ以テ第一第二論點共不相立モノトス同第三點ハ刑法第二百八十九條第一項ノ罪ヲ犯シ之ニ因テ同條第二項ノ罪ヲ犯シ俱ニ發シタルトキハ其第一項ノ罪ハ第二項ノ罪ニ吸收セラルトモノナルヲ以テ第二項ノ罪ノミヲ論スルハ法條ノ指定スル處ナリトス然ルニ第一審判決中第一第三第四第六ノ所爲ニ對シ各別ニ處斷シタルハ是亦疑律ノ錯誤ナリト云フニアレトモ〇刑法第二百八十九條ノ案スルニ其第二項ニハ因テ官ノ文書簿冊ヲ増減變換シタルトキハ第二十五條ノ例ニ照シテ處斷スルアリ此法意ニ依ルトキハ監守盜罪ト官ノ文書簿冊ヲ増減變換シタル罪トハ別罪ナルコトハ明カナルヲ以テ本件ハ如キ監守盜罪ト犯シ其犯跡ヲ蔽ハシカ爲メ官ノ簿冊ヲ變造シタルハトテ監守盜ハ官文書變造罪ニ吸收セラルヘキモノニアラズ故ニ原院カ之ヲ二罪ト認メ各罪ニ關スル右法條ヲ適用處斷シタルハ相當ニシテ違法ニアラズ同第四點ハ第一審判決主文ニ公訴裁判費用ノ全部ヲ上告人ニ負ハシムルノ旨渡シテ爲シタルニ單ニ刑事訴訟法第二百一條ノミヲ掲ケ刑法第四十五條ヲ適用セサルハ刑事訴訟法第二百六十八條ニ該當スヘキ不法ノ判決ナリト云フニアレトモ〇公訴裁判費用ノ負擔ハ刑ノ旨渡シニアラサルヲ以テ必スシモ法條ヲ摘示スルヲ要セス故ニ原院判決ニ刑法第四

監守盜及官文書變造ノ二罪〇貨幣偽造行使罪ノ成立〇寫本ノ證據

十五條ヲ明示セサルモ違法ナリト云フヲ得ス

第一回上告擴張ノ第一點ハ原判決ハ其主文ニ於テ「押収ニ係ル偽造ノ二圓金貨(中略)ハ其監守者タル高知縣警察部ニ其他ノ證據品ハ各差出人ニ還付ス」ト言渡シ而シテ其法律適用ニハ「云々差押品ハ刑事訴訟法第二百二條云々」ト掲ケシノミニテ刑法第四十三條ヲ適用セザリシハ了解シ能ハサルナリ抑モ偽造貨幣タルヤ法律上禁制シタル物件ナルヲ以テ上告人カ行使シタル偽造貨幣ハ之レカ沒收ノ言渡アルヘキハ當然ナルニ事茲ニ出テス本案事件ニ對シ刑法第四十三條ノ範圍外ナル同法第四十八條末文ノ趣旨ト同シキ即チ不應禁物ナル贓物ト同轍ノ判決ヲ以テ高知縣警察部ニ還付シタルハ違法ノ判決ナリト云フニアントモ○本論旨ハ要スルニ自己不利益ノ上訴ニ係ルヲ以テ上告適法ノ理由トナスヲ得ス『同第二點ハ原判決第五ノ所爲ニ對スル理由中(前略)同年同月(前文ニ同年六月六日)トアルヨリ斯ク記セシナラン(二十六日河野宗四郎ヘ對シ)云々トアリ又第二審判決ニハ(前略)尙ホ同年六月二十六日前記河野宗四郎云々トアルモ上告人カ河野宗四郎ヘ二圓金貨ヲ抵當トシテ金員借入ノ申込ヲ爲シタルハ明治二十九年九月ニシテ六月ニアラサルコトハ河野宗四郎ニ對スル受托判事ノ訊問調書並ニ上告人カ右宗四郎ニ郵送セシ書面ニテ明白ナリ然ルニ承審官ハ未タ上告人カ本案犯罪ノ意思發生セサル六月二十六日ヲ以テ宗四郎ニ對シ金員借入ノ申込ヲ爲シタリトシタルハ理由ノ齟齬アル裁判ナリト云フニ在レトモ○原判文ヲ查スルニ被告カ河野宗四郎ニ對シ金員借入レノ申込ヲ爲シタル年月日ノ記載ハ上告論旨ノ如クナルモ其明治二十九年六月二十六日トアルハ同年九月二十六日ノ誤

記ナルコトハ訴訟記録ニ徴シ認メ得ヘキニ因リ文字ノ誤記ハ以テ上告適法ノ理由トナスヲ得ス『同第三點ハ第一審裁判所ニ於テハ押収ノ證據物件ハ之ヲ示サレ又判決書ニ列記申ノ證據書類十八通ノ内宮崎縣警部長ノ電報並ニ同縣巡查部長桑原佐一郎ノ金貨偽造嫌疑事件急報書戸田恒太郎調書一部ノ三通ヲ讀聞ケラレタルノミニシテ其他ハ一ツモ朗讀ナカリキ故ニ上告人ハ當時裁判官ニ於テ如何ナルモノヲ採用セラレタルカ將々證人其人ハ何人ナルカ素ヨリ識別シ得サレハ上告人ヨリ進ンテ朗讀ヲ請フニ由ナシ而シテ第二審ニ於テハ裁判長ヨリ證據物件ヲ示サントノ問ニ對シ其證據物件ハ御示シテ受クルニ及ハスト答ヘタルニ直ニ辯論ニ移ル旨ヲ宣言サレテ之レ亦證人調書ノ朗讀ヲ省カレタリキ故ニ上告人ニ於テハ各證人ノ證言タル果シテ如何ノ陳述ニ出テタルカ毫モ識ルヲ得サレハ之レカ辯解ヲ爲スノ道ナクシテ遂ニ第一第二審共ニ判決ヲ言渡サレタルハ不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○第一審公判ノ手續上頁シヤ上告論旨ノ如キ瑕瑾アリトスルモ其瑕瑾ハ以テ上告ノ理由トナスヲ得ス況ンヤ本件第一審公判始末書ニハ「裁判長ハ何々ノ豫審調書ヲ讀聞ケタリ其他被告ノ豫審調書以下數多ノ證據書類ヲ指摘シ朗讀スヘキヤトノ問ニ對シ承ルニ及ハスト」答アリテ被告ノ承諾上朗讀ヲ省畧シタルモノナルニ於テチヤ又第二審ノ公判始末書ヲ查スルニ「問本件ノ記録ハ讀聞スヘキヤ答承知ナレハ夫ニ及ハスト」明記シアリテ是亦被告ノ承諾上書類ノ朗讀ヲ畧シタルモノナレハ公廷ニ顯ハレサル證據ヲ採テ斷罪ノ證ニ供シタル違法アリト云フヲ得ス『同第四點ハ上告第一二點ノ論旨ヲ敷衍スルヲ以テ重子テ說明ヲ與ヘス

第二回上告擴張ノ要旨ハ偽造貨幣ノ授受タル常ニ行使罪ヲ構成スヘキモノニアラス封印預ケノ如キハ或ル場合ニ於テ詐欺取財罪ヲ組成セシモノトシテ處斷セラレタル貴院ノ判例アルモ上告人カ原判決第五ノ所爲タル單ニ偽造金貨ヲ以テ骨肉モ及ハサル親友ヘ負債ノ擔保物トシテ一時他ノ債務ヲ彌縫シタルニ止マリシモノニシテ其意思及ヒ手段方法上毫モ他ヘ融通セシムル道ナキハ上告人カ遠山利直河野宗四郎ヘ宛タル書翰並ニ一件記録ニ徴シ明晰ナリトス然ルニ原判決ハ之ヲ他ノ普通行使者ノ如ク直ニ行使罪ヲ以テ處斷シタルハ疑律ノ錯誤ニシテ本件ハ全ク詐欺取財ヲ以テ問擬セラレヘキモノナリト云フニアレトス○偽造貨幣行使ハ罪ハ其偽造貨幣ヲ有用ニ使用シタルトキチ以テ其罪成立スヘキモノナリ本件被告ハ偽造金貨ヲ借金ハ擔保トシテ他人ニ交付シタルハ事實ヲ認めアレハ即チ有用ニ使用シタルモノナルヲ以テ偽造貨幣行使罪ヲ構成シタルハ勿論ナリトス因テ上告論旨ノ如キ違法アルコトナシ

判旨第七點

齊藤辯護士上告擴張ノ第一點原判決證據列記ノ部ヲ查閱スルニ以上ノ事實ハ(中畧)證人遠山利直山元猪平河野宗四郎ニ對スル受托判事ノ訊問調書云々トアリ然ルニ一件記録ヲ調査スルニ右證人三名ノ宣誓書ニハ佐伯寬夫監守盜及偽造金貨知情行使被告事件云々トアルノミニテ官文書變換毀棄被告事件ニ付テハ證人ヲシテ宣誓セシメテ訊問セサルモノナルコト明白ナリ然ラハ即チ此證人ノ訊問調書ヲ探テ直ニ被告ノ官文書變換毀棄被告事件ノ斷罪ノ資料ニ供シタルハ不法ナリト云フニアレトモ○數罪ヲ犯シタル被告事件ノ證人ニシテ其内ノ一罪若クハ二罪又ハ三罪ニ關係スル場合ニ在テハ其證人ニ關係アル罪名ノミチ告知シ被告入ト證人ト身分

判旨第九點

上ノ關係如何ヲ問查シテ宣誓セシメ其證人ニ關係ナキ他罪ハ之ヲ告知セサルモ違法トセス前陳ノ證人三名ハ被告カ官文書變換毀棄ノ點ニハ毫モ關係ナキチ以テ其關係アル監守盜及偽造貨幣知情行使事件ノミ告知シテ宣誓セシメ訊問シタルモノナルヲ以テ其調書ヲ探テ斷罪ノ資料ニ供シタル原院判決ハ違法ニアラス同第二點ハ原判決證據揭記ノ部ヲ查閱スルニ以上ノ事實ハ(中畧)緒方桂二中田直溫ノ手續書云々トアリ然ルニ一件記録ヲ調査スルニ右二名ノ手續書ハ存在セスシテ只々明治二十九年十一月五日高知縣警部長戸田恒太郎ヨリ檢事安藤眞一ニ當テタル書面ニ添付セル寫書アルノミナリトス然ラハ即チ原院ハ存在セサル證據ニ依テ罪ヲ斷シタル不法アリト云フニアレトモ○訴訟記録ヲ查スルニ原院カ採用シタルハ高知縣警部長緒方桂二ヨリ同縣警部長宛ノ手續書寫及ヒ同縣警部中田直溫ヨリ同縣知事宛ノ手續書ハ寫ハカリス而シテ其寫ヲ採用スルト否トハ即チ證據取捨ノ權内ニ屬スルモノナルヲ以テ之ヲ無効ナリト云フヲ得サルモハトス因テ原院カ該手續書寫ヲ探テ斷罪ノ資料ニ供シタルハ違法ニアラス同第三點ハ被告カ第二回擴張書ノ趣旨ヲ反覆陳辯スルニ過キサルヲ以テ右ニ對スル說明ニ依リ了解スヘシ

右ノ理由ナルニ依リ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之ヲ棄却ス
明治三十年六月十五日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事安居修藏立會宣告ス

○移民保護法違反ノ件

明治三十年第四九三號
明治三十年六月十五日宣告

○判決要旨

(判旨第一點) 移民保護法違反事件ニ付移民株式會社ノ社長ヲ處罰スルニ當リ其社長ノ資格ハ業務擔當社員ニ相當スルヤ又ハ取締役ニ相當スルヤ否ノ事實ヲ明示セサル判決ハ理由不備ノ不法アリ

(參照) 本法ノ罰則ハ商會社ニ在テハ其各條ニ掲クル行爲ヲ爲シタル業務擔當社員又ハ取締役ニ之ヲ適用ス(移民保護法第二十七條)

(判旨第二點) 移民保護法第二十四條ノ代理人ニハ官許ヲ得サル代理人ヲ包含セズ

(參照) 移民取扱人行政廳ノ許可ヲ受ケサル代理人ヲシテ其行爲ヲ爲サシメタルトキハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス其行爲ヲ爲シタル代理人亦々同シ(移民保護法第二十四條)

第一審 神戸地方裁判所

第二審 大阪控訴院

被告人 佐藤 岩男
西阪 萬吉
堀尾 新右衛門
藤井 健之助
辻 隆造

明治三十年四月三十日大阪控訴院ニ於テ右岩男隆造健之助萬吉新右衛門外一名ニ對スル移民

保護法違反被告事件ノ控訴ヲ審理シ原判決中控訴ニ係ル部分ヲ取消シ更ニ被告岩男萬吉新右衛門健之助隆造(中略)ヲ各罰金參拾圓ニ處スト言渡シタル判決ヲ不當トシ被告岩男隆造健之助萬吉新右衛門ハ各上告ヲ爲シ原院檢察長林誠一ハ答辯書ヲ差出シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審理判決スルコト左ノ如シ

判旨第一點

被告人岩男上告趣意第六點後段ノ主旨ハ被告カ假リニ原院ノ認メタル行爲ヲ爲シタルモノトスルモ抑移民會社中移民取扱人タル資格ヲ有スル者ハ取締役ニ限ルモノニシテ而シテ被告ハ取締役ニアラサルヲ以テ本案ニ付キ其責ヲ負フヘキモノニ非スト云フニ在リ○因テ原院判決ヲ檢スルニ書中被告人氏名ハ肩書ニ廣島海外渡航株式會社社長ト記載シタルモ其社長トハ業務擔當社員又ハ取締役ニ相當スルヤ否ヤ即移民保護法第二十七條ニ適當スルモノナルヤ否ヤ判文上分明ナラズ或ハ原院カ認ムル所ハ被告ヲ單獨ナル移民取扱人ト爲スニ在ルヤ又ハ全ク取扱人タル資格ヲ有セサルモノト爲スニ在ルヤ是亦其實ヲ明示シタル下ナケレハ判決ハ當否ヲ監査スルニ由ナク結局理由不備ノ不法判決タルヲ免カレズ己ニ此點ニ於テ原院判決ヲ破毀スル上ハ岩男ニ係ル他ノ論旨ニ付テハ一々説明ヲ要セス

被告隆造萬吉辯護士上告趣意書第二點及被告新右衛門上告趣意書ノ要領ハ移民保護法第二十四條ニハ移民取扱人行政廳ノ許可ヲ受ケサル代理人ヲシテ其ノ行爲ヲ爲サシメタルトキハ云々トアリ然ルニ本件ハ資格アル代理人カ更ニ無資格者ニ代理セシメタルモノニシテ此場合ハ法律ニ明文ナキモノナレハ刑法第二條ヲ適用ス○キモノナルニ原院カ前掲保護法第二十四條

移民會社々長ノ資格○移民會社ノ代理人

判旨第二點

移民會社々長ノ資格○移民會社ノ代理人

四十八

ヲ適用シタルハ不法ナリト云フニ在リ○因テ審裁スルニ右保護法罰則中第二十二條第二十三條及第二十五條第二十六條等ニ於テハ現ニ移民取扱人及代理人云々トアリテ第二十四條ニハ代理人ハ文詞ナキニ依レハ上告論旨ハ如ク右第二十四條中ニハ官許ヲ得タル代理人カ更ニ官許ヲ得サル者ニ代理セシメタル場合ヲ包含セサルモハト解釋セサルヘカラス而シテ他ニ此場合ニ適スル法條アルコトナシトス然ルニ原院ニ於テ被告萬吉新右衛門ハ官許ヲ得タル代理人ニシテ被告隆造ハ代理人タル官許ヲ得サルモノナルコトヲ認メナカラ右三名ノ本案ノ行爲ニ對シ前掲第二十四條ヲ適用シテ處斷シタルハ擬律錯誤ニシテ其判決ハ破毀ヲ免カレス己ニ此點ニ於テ原判決ヲ破毀スル上ハ右三名ノ他ノ上告論旨ニ付テハ一々説明ヲ要セス

被告健之助ハ上告趣意書ヲ差出サシルヲ以テ上告ハ成立セス
以上ノ理由ニ依リ被告岩男ニ付テハ刑事訴訟法第二百八十六條ニ從ヒ原判決ヲ破毀シ事件ヲ廣島院訴訟ニ移ス
被告萬吉新右衛門隆造ニ付テハ同第二百八十七條ニ從ヒ尙ホ被告健之助ノ上告ハ成立セス又原院ニ於ケル共同被告藤川惣植及第一審共同被告桂四郎ハ上告ヲ爲サスト雖トモ共ニ同法第二百八十九條第二項ニ從ヒ處斷スヘキモノナルヲ以テ右萬吉新右衛門隆造健之助惣植ニ對スル原判決及四郎ニ對スル第一審判決ヲ破毀シ本院ニ於テ直ニ判決スルコト左ノ如シ

西 阪 萬 吉
堀 尾 新 右 衛 門

辻 隆 造
藤 井 健 之 助
藤 川 惣 植
桂 四 郎

被告萬吉新右衛門隆造健之助惣植ニ對スル原院判決四郎ニ對スル第一審判決ニ認メタル事實ニ依リ刑法第二條刑事訴訟法第二百二十四條ニ從ヒ無罪
明治三十年六月十五日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○詐欺取財ノ件

明治三十年第五一三號
明治三十年六月十五日宣告

○判決要旨

證人ハ躬自ラ見聞シタル事實ヲ證言ス(第二輯第四卷六十二丁登載明治二)

第一審 岡山地方裁判所 第二審 大阪控訴院

被告人 林 亮

明治三十年四月三十日大阪控訴院ニ於テ右亮ニ對スル詐欺取財公印盗用公私文書偽造行使被

證言

四十九

告事件ノ被告ノ控訴檢事ノ附帶控訴ヲ審理シ第一審判決中被告有罪ノ部分ヲ取消シ更ニ被告
 ナ輕懲役六年ニ處ス委任狀ハ之ヲ沒收ス公文書偽造ノ點ハ無罪沒收ニ係ラサル書類ハ差出人
 ニ還付ス被告カ有罪ノ點ニ關スル公訴裁判費用ハ共犯人秋山紋之助ト連帶シテ被告ノ負擔ト
 スト言渡タル判決ヲ不當トシ被告ハ上告ヲ爲シ原院檢事ハ答辯書ヲ差出シタリ因テ刑事訴訟
 法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審理スル處
 上告趣意書第一ハ第一審公判廷ニ於テ裁判長ハ證人仁熊鍋吉外一名ニ對シ單ニ證人ト被告宛
 トノ身分ノ關係ヲ訊問シタルノミニシテ相被告秋山紋之助トノ關係ヲ訊問セザリシハ違法ナ
 ルニ原院カ其證言ヲ採テ證據ト爲シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○原院ハ右仁熊鍋吉等
 ノ第一審廷ノ證言ヲ採テ證據ニ供シタルコトナシ畢竟本論旨ハ被告ノ誤解ニ基クモノナルヲ
 以テ其當否ヲ說明スルノ必要ナシ第二ハ湧川龍太郎星島謹一郎ノ兩人ハ本件公訴ノ起ラサル
 前已ニ民事ノ訴訟ヲ提起セシモノナレハ證人タルノ資格ナキモノナルニ豫審ニ於テ證人トシ
 テ取調ヲ爲シタルハ違法ニシテ其調書ハ無効ノモノナルニ原院カ採テ證據ト爲シタルハ違法
 ナリト云フニ在レトモ○同人ノ豫審調書ヲ檢スルニ刑事訴訟法第二百二十三條ニ記載ノ各事項
 ナリト云フニ其抵觸ノ有無如何ヲ問查セシニ更ニ何等ノ關係ナシト答ヘタル旨記載シアリ而シテ
 他ニ記録中同人カ當時民事原告人タリシコトヲ證スルコトナキヲ以テ本論旨ハ不相立第三ハ
 第一審公判始末書ニハ數回ノ開廷中總テ同一ノ書記カ立會ヒタルモノト如ク記載シアルモ其
 實前二回ト後二回トハ立會書記ニ變更アリタルモノナリ然ルニ該始末書ニ其實事ヲ記載セサ

ルハ不法ナルニモ拘ラス原院カ其始末書ヲ採テ斷罪ノ資料ニ供シタルハ違法ナリト云フニ在
 レトモ○該始末書ヲ檢スルニ前後各其立會ヒタル書記ニ於テ各別ニ之ヲ調製シアリテ上告論
 旨ノ如キモノニアラス畢竟本論旨ハ被告ノ誤解ニ基クモノナルヲ以テ其當否ヲ說明スルノ必
 要ナシ第四ハ原院ニ於テハ公證人關川孝太郎ノ作製シタル公正證書ハ偽造ニアラサルモノト
 認メナカラ被告カ職務上其證書ニ公印ヲ押捺シタル行爲ヲ以テ盜用罪ヲ爲スモノト爲シタル
 ハ理由齟齬ナリト云フニ在レトモ○原院カ認メタル所ハ被告カ職務上該公印ヲ使用シタルモ
 ノト爲シタルニアラスシテ他人ヲ欺キ財物ヲ騙取スル爲メ該證書ニ公印ヲ押捺シタルモノト
 爲スニ在レハ公印盜用ノ罪ヲ成立スルコト論ヲ待タス然レトモ該公正證書ハ公證人關川孝太
 郎カ躬ヲ作製シタルモノニシテ被告カ作爲シタルモノニアラサレハ被告ニ該公正證書偽造ノ
 罪アリト云フヲ得サルヲ以テ原院ハ其理由ヲ說明シ其點ニ對シテハ無罪ノ言渡ヲ爲シタルモ
 ノニシテ前後齟齬スルコトナシ第五ハ高松村ナルモノハ一ノ法人ナレハ本件ヲ告訴スル者ハ
 勿論證人タルモノモ一村ヲ代表スルノ資格ヲ有スル者タラサルヘカラス然ルニ原院ニ於テ有
 代表者タル資格ヲ有セサルモノト爲シタル告訴狀又ハ證言ヲ採テ證據ト爲シタルハ不法ナリ
 ト云フニ在レトモ○告訴狀ハ證據ニ採用シタルコトナキヲ以テ其當否ヲ辯明スルノ必要ナク
 又證人タル者ハ躬ヲ見聞シタル所ヲ證言スルモノナレハ論旨ハ如キ代表者タル資格ハ有無ニ
 關係ナキモノトス故ニ本論旨ハ不相立同辯明書第一ハ原院ノ認メタル事實ニ依レハ第一第二
 ノ所爲中共ニ公印盜用ノ罪ニ從ヒ處斷スヘキモノ云々ト記載シ第二ノ所爲ニ付テノ公印盜

用ノ罪アルモノ、如ク判示シタルハ理由顯赫ナリト云フニ在レトモ○右第二ノ所爲中公印盜
 用云々ト判示シタルハ本件數罪ノ中最モ重シトシテ處斷スヘキ罪名ヲ揭ケタルモノナレハ上
 告論旨ノ如ク第一ノ公印盜用罪ヲ遺脱シタルノ嫌アルコトナシ從テ本論旨モ不相立第二ハ本
 件ノ公印ハ被告カ職務上自由ニ使用シ得ヘキモノニシテ監守スルモノニアラサレハ其職務以
 外ニ之ヲ濫用シタルメリトスルモ決シテ盜用ト云フヘカラス況ンヤ被告ハ職務上使用シタルモノ
 ニシテ濫用シタルニアラサルニ於テオヤト云フニ在レトモ○原院カ認メタル所ハ被告カ右公
 印ヲ押捺シタルハ職務上ノ使用ニアラスシテ犯罪ノ爲メ使用シタルモノト爲スニ在ルハ趣意
 書第四ニ對スル説明前段ノ如シ而シテ其犯罪行爲ニ付キ公印ヲ濫用スルハ即盜用ナルヲ以テ
 本論旨モ不相立第三ハ原院文法律適用ノ部ニ數罪俱發スルニ付同法第百條及第三百九十條第
 二項ニ依リ一ノ重キ云々ト判示シ公印盜用ノ罪ニ迄第三百九十條第二項ヲ適用シタルハ擬律
 錯誤ナリト云フニ在リ○因テ原院文ヲ檢スルニ上告論旨ノ如ク本件ハ第一第二二個ノ公印盜
 用罪ト同第一第二詐欺取財及其第二ノ詐欺取財ニ因テ犯シタル文書偽造ノ罪ト數罪俱發シタ
 ルモノナレハ先ツ第二ノ詐欺取財ニ因テ犯シタル文書偽造ノ行爲ニ付キ刑法第三百九十條第
 二項ヲ適用シ而シテ後其重キモノト第一ノ詐欺取財及二個ノ公印盜用ノ罪ト三付更ニ同第百
 條ヲ適用シテ處斷スヘキモノナルニ原院ニ於テ通シテ第百條第三百九十條第二項ヲ適用シタ
 ルハ擬律錯誤ニシテ此點ニ對スル上告論旨ハ理由アルモノトス第四ハ本件ノ總管工事ハ已ニ
 着手シ其金員モ郡長ニ送致シタルコトハ郡長ノ受領書郡役所ノ回答書等ニ依テ明瞭ニシテ其

他ノ費用モ亦己ニ支拂済ナルコトハ村會決議録支出帳簿等ニ徴シテ明カナルニ原院ニ於テ該
 總管工事ハ未ダ着手セス其他ノ費用ハ故アリテ支出ヲ要セサルコトハナリシモ該決議録及其
 議案ノ其儘現存スルヲ奇貨トシ云々ト判示シタルハ越權ナリ且ヤ岩崎ハ加茂村内ニアリテ高
 松村ノ内ニアルモノニアラサルニ判文ニ村内云々ト判示シ岩崎ハ高松村ノ内ニ在ルモノ、如
 ク説明シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○其シヤ岩崎ハ高松村ノ内ニアラサルモノトスル
 モ本案犯罪構成等ニ毫モ影響ナキ事ナルヲ以テ上告ノ理由ト爲スニ足ラス其他ハ原院ノ職權
 ニ屬スル事實ノ認定證據ノ取捨ヲ批難スルニ過キササルヲ以テ本論旨モ不相立第五ハ押收物件
 中帳簿并ニ書類ノ二種アルコトハ第一審判文ニ依ルモ明瞭ナル所ナリ然ルニ原院ニ於テ沒收
 ニ係ラサル書類ハ差出人ニ還付スト言渡シ帳簿ニ付キ言渡シ欠キタルハ不當ナリト云フニ在
 レトモ○押收還付處分ノ如キハ必スシモ判決ト同様ニ爲サルヘカラサルモノニアラサルヲ
 其テ本論旨モ不相立第二辯明書第一ハ第一辯明書第四ヲ敷衍シタルモノナルヲ以テ重子ヲ説
 明スルノ必要ナシ第二ハ原院ニ於テ各證據ヲ被告ニ示サ、リシハ違法ナリト云フニ在レトモ
 ○原院カ採用シタル證據ニ付テハ總テ取調ノ手續ヲ盡シタルコト公判始末書ニ明瞭ナルヲ以
 テ論旨ノ如ク違法ナシトス第三ハ第一審判文ニハ即時岡山市大字弓ノ町謹一郎事務所ニ至リ
 吉三郎ヨリ金七百圓ノ交付ヲ受ケ之ヲ騙取シタルモノトスアルニ原院ハ何等ノ取調ヲ爲サ
 スシテ判文ニ公證人關川孝太郎役場ニ至リ(中略)同所ニ於テ星島謹一郎代人原吉三郎ヨリ金六
 百圓ノ交付ヲ受ケ以テ之ヲ自家ニ騙取シタリト説明シ謂レナク事實ヲ變更シタルハ理由顯赫

ナリト云フニ在レトモ○原院カ事實ノ取調ヲ爲シタル事ハ公判始末書ニ明カニシテ而シテ原
 院ハ第一審判決ヲ取消シ更ニ判決ヲ爲シタルモノナレハ其認メタル事實ニ異同アルハ當然ノ
 コトナルヲ以テ本論旨モ不相立辯明追伸書ハ訴訟費用ノ言渡ニ付キ法律ノ正條ヲ明示セザル
 ハ理由不備ナリト云フニ在レトモ○訴訟費用ノ言渡ニ付キ法律ヲ明示スヘキ規定ナキヲ以テ
 本論旨モ不相立辯明士上告擴張書ハ原判決ニ認メタル第一ノ所爲中被告カ監守シ居タル高松
 村々長ノ公印ヲ證書ニ押捺シタルコトノ事實ハ村長カ自己ノ監理中ニ在ル印形ヲ以テ之ヲ利
 用シタルニ過キサレハ其監理ノ處置ヲ誤リ之ヲ濫用シタルニ止マリ刑事上ノ罪トナルヘキモ
 ノニアラス然ルニ原裁判所力之ヲ以テ官印盗用トシタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○前掲
 第一辯明書第二ニ對スル說明ニ依リ自ラ了解スヘキヲ以テ別ニ說明セス
 因テ第一辯明書第三論旨ニ基キ刑事訴訟法第二百八十七條ニ從ヒ原判決ヲ破毀シ本院ニ於テ
 直ニ判決スルコト左ノ如シ

右
 林 亮

原院カ認メタル事實ニ依リ第一第二ノ詐欺取財ニ付テハ共ニ刑法第三百九十條第一項第三百
 九十四條ヲ適用シ委任狀偽造行使ノ所爲ハ第二百十條第一項第二百十二條ニ係ルモ右第二ノ
 詐欺取財ニ因テ犯シタルモノナルヲ以テ第二百九十條第二項ヲ適用シ詐欺取財ノ罪ヲ重シト
 ス第一第二ノ所爲中公印盗用ニ付テハ共ニ明治二十三年法律第百號刑法第百九十七條第一項
 第二項第百九十五條ヲ適用シ尙ホ此點ニ付テハ所犯原諒スヘキ情狀アルヲ以テ同第八十九條
 第九十條ヲ適用シ共ニ本刑ニ一等ヲ減ス以上數即俱ニ發スルヲ以テ第百條ニ從ヒ第二ノ所爲
 中ニ在ル公印盗用ノ罪ヲ重シトシ尙偽造ノ委任狀ハ第四十三條第一號第四十四條ニ從ヒ處斷
 スヘキモノトス依テ被告亮ヲ輕懲役六年ニ處シ偽造ノ委任狀ハ之ヲ沒收シ沒收ニ係ラサル押
 取ノ帳簿書類ハ各差出人ニ還付ス他ハ原裁判ノ通り
 明治三十年六月十五日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事安居修藏立會宣告ス

○誣告ノ件

明治三十年第五三〇號
 明治三十年六月十七日宣告

○判決要旨

辯論終結ノ後合議ヲナサヌヲ直ニ言渡シタル第一審裁判ヲ取消サ、ル第二
 審判決ハ不法ナリ

第一審 新潟地方裁判所長岡支部 第二審 東京控訴院
 被告人 田中常敏 辯護人 山口 憲
 合議ヲ爲サル判決

右常敏ニ對スル誣告被告事件ニ付明治三十年五月十九日東京控訴院ニ於テ新潟地方裁判所長
 岡支部ノ判決ヲ相當トシ被告ノ控訴ヲ棄却シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタルニ依リ
 本院ハ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ
 被告辯護人山口憲カ上告趣旨擴張書ノ第一ハ第一審公判始末書ヲ閱スルニ檢事及辯護人ノ辯
 論ヲ終リ被告ニ最終ノ供述ナキヤ否ヤヲ聞キタル直下ニ裁判長ハ直チニ判決ヲ言渡ス可キ旨
 ナ告ケ判決主文ノ朗讀ニ因リ之ヲ言渡シ云々トアリ合議ノ爲メ閉廷セサルモノナリトセハ是
 レ合議ヲ經サル裁判所構成法ニ違背セル不法ノ裁判ナリ若シ之レ合議ノ爲メ閉廷スルコトナ
 ク其席ニ於テ合議ヲ爲シ裁判ヲ言渡シタルモノトセンカ是亦同法第二百一十一條ニ違背セル不
 法ノ裁判ナリ何トナレハ公廷ニ於テ評議ヲ爲スハ裁判ノ評議ヲ公行シタルモノナレハナリ其
 何レヨリスルモ第一審判決ハ不法タルヲ免レサルニ原判決之ヲ認可シ被告ノ控訴ヲ棄却シタ
 ルハ隨テ不法ナリト云フニ在リ○依テ第一審公判始末書ヲ査閱スルニ被告ハ人ナシテ最終ノ供
 述ヲ爲サシメタリトノ記事ハ次項ニ裁判長ハ直チニ判決ヲ言渡スヘキ旨ヲ告ケ判決主文ハ朗
 讀ニ因リ之ヲ言渡シタル旨ハ記載アリテ被告ハ最終ノ供述ヲ爲シタル後ハ判決ヲ爲スカ爲メ
 合議ヲ爲シタル事蹟ヲ認ムヘキ記載ナク直チニ判決ヲ言渡シタルニ依レハ該判決ハ合議ヲ經
 タルモノト認ムルニ由ナキモノニシテ即チ不法ノ裁判ナリ然ルニ原院ハ此不法ナル裁判ヲ認
 可シ被告ハ控訴ヲ棄却シタルハ不法ノ判決タルヲ免レシテ辯護人所論ノ如ク破毀ノ原因ア
 リトス既ニ此點ニ付原判決ノ破毀ヲ認ムル以上ハ他ノ上告論點ニ對シ說明スルノ要ナシトス

右ノ理由ナレバ以テ刑事訴訟法第二百八十六條ニ則リ原判決全部ヲ破毀シ更ニ審判セシムル
 爲メ本件ヲ宮城控訴院ニ移ス

明治三十年六月十七日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事藤堂融立會宣告ス

○謀殺未遂ノ件

明治三十年第五一四號
 明治三十年六月十八日宣告

○判決要旨

殺意ヲ以テ人ヲ殺スニ足ルヘキ劇藥ヲ服用セシメタルトキハ縱令少量ノ爲メ
 死ニ至ラサルモ仍ホ刑法第百十二條ニ所謂意外ノ舛錯ニ因リ遂ケサリシモノ
 ニシテ毒殺未遂罪ヲ成立ス

(參照) 罪ヲ犯サントシテ已ニ其事ヲ行フト雖モ犯人意外ノ障礙若クハ舛錯ニ因リ未
 タ遂ケサル時ハ已ニ遂ケタル者ノ刑ニ一等又ハ二等ヲ減ス(刑法第百)

第一審 奈良地方裁判所 第二審 大阪控訴院
 被告人 楠本末松 辯護人 小林豊太郎

意外ノ舛錯

右謀殺未遂被告事件ニ付明治三十年五月五日大阪控訴院ニ於テ第一審判決ヲ取消シ更ニ被告
 ナ六年ノ輕懲役ニ處シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シ原院檢事長林誠一ハ答辯書ヲ差出
 シタルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ檢事安居修藏辯護士小林豊太郎ノ辯
 明ヲ聽キ判決スルコト左ノ如シ

上告趣意ハ原判決ハ違法ノ裁判ナリト云フニ止マリ○違法ノ點ヲ指示セサルヲ以テ其當否ヲ
 判定スルニ由ナク上告ハ其理由ナシ辯明ノ趣旨ヲ要スルニ被告カ使用シタル輕粉ノ量ハ○七
 四カラムニシテ之ヲ通常體ノ者ニ用ユルモ決シテ死セサルコト及ヒ細ノフハ通常體ナルトハ
 衛生試験所ノ鑑定報告及醫棍見克弘ノ鑑定調書ニ依リ明カナレハ被告ニ殺意アリトスルモ用
 具ニシテ入ヲ殺スニ足ラサルヲ以テ効果ハ當然發生セサルモノニシテ不能犯ナルニ原院カ謀
 殺未遂ノ罪アリトシテ處斷シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○被告カ使用シタル輕粉ハ人
 ナ殺スニ足ルハキ劇藥ナルコトハ原院ハ認定スル處ニシテ殺意ヲ以テ其劇藥ヲ使用シ少量ナ
 ルカ爲メ被害者カ死ニ至ラサハ刑法第百十二條ハ所謂犯人意外ハ外錯ニ因リ遂ケサハシ
 モハニシテ毒殺未遂罪アリトシテ本件ヲ處シタルハ相當ハ判決ニシテ上告ハ其理由ナシ
 右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本按上告ハ之ヲ棄却ス
 明治三十年六月十八日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事安居修藏立會宣告ス

○過失殺傷ノ件

明治三十年第四七二號
明治三十年六月二十二日宣告

○判決要旨

(判旨第十一點) 過失殺ヨリ直接ニ生シタル費用ハ被告人ヲシテ賠償セシムヘ
 キモノトス

(判旨第十二點) 不法行爲ニ原因スル損害賠償ノ債權ハ損害ノアリタル時ヨリ
 發生ス從テ其當時ヨリ利子ヲ生ス

第一審 京都地方裁判所 第二審 大阪控訴院

公訴上告人	奥田幸次郎	辯護人	吉田武夫 菊池佐吉 高木益太郎 小出辨太郎
私訴上告及被上告人	高木文平		
私訴被上告人	高橋澤トヲ	辯護人	岡崎正也
私訴上告及被上告人	高橋梅次郎 安本利三郎		

右幸次郎カ過失殺傷被告事件ニ付明治三十年二月五日四月二十九日大阪控訴院ニ於テ公訴私
 訴ノ第二審ノ判決ヲ爲シタルニ對シ公訴ニ付テハ辯護人吉田佐吉被告幸次郎及原院檢事長林

過失殺ヨリ生スル費用○損害債權ノ利子

誠一ヨリ上告ヲ爲シ私訴ニ付テハ民事被告入高木文平民事原告人高橋龜次郎同高津梅次郎同安本利三郎ヨリ上告ヲ爲シ民事原告人三名ハ私訴上告ニ對シ答辯書ヲ差出シタルニ依リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ檢察事安居修藏辯護士菊池武夫高木益太郎小出鏑太郎岡崎正也ノ辯明ヲ聽キ判決スルコト左ノ如シ

被告幸次郎ノ公訴上告趣意ヲ要スルニ第一ハ被告ハ唯一道ノ線路ヲ取り行フヘキモノナルヲ以テ本件ノ場所タル交叉點ヲ通過スル際モ門扉ノ閉閉ノミニ注意シ開キアレハ通過シ閉チアレハ止ルノミ然ルニ原判決ニハ此注意ノ有無即過失ノ有無ヲ確定スヘキ門扉閉閉ニ付審理判決セサリシハ理由ヲ付セサル不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○原判決ニ被告カ奈良鐵道會社ノ瀛車ノ進行シ來ルヲ知リ得ヘキ場合ナルノミナラス交叉線ニ建設シアル信號柱ノ危害合圖ニ注意セス充分ノ速力ヲ以テ進行セシメタルノ事實ヲ認定シアレハ本件ノ災害ハ被告ノ過失ニ出タルコト明白ナルヲ以テ門扉閉閉ノ事實ノ如キハ之ヲ判文ニ掲擧セサルモ理由ノ不備ナリトセス○第二ハ證人小八木千八同近藤卯三郎ノ證言ハ矛盾スルモノナルニ雙方ヲ採用シテ有罪ノ判決ヲ下シタルハ不法ナリト云ヒ第三ハ證人藤林忠太郎同佐藤久米吉ノ證言ハ被告ニ利益ナルモノナルニ之ヲ排斥シタルハ不法ナリト云フニ在リテ○二點共ニ原院ノ職權ニ屬スル探證ノ當否ヲ論難スルモノニシテ上告ノ理由ナシ第四ハ被告ノ爲メ實地臨檢ヲ請求シタルニ之ヲ排斥シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○該請求ヲ許否スルハ原院ノ職權ニ在ルヲ以テ之ヲ聽許セサリシトテ違法ナリトスルヲ得ス

被告辯護人吉田佐吉ノ上告ハ定期内趣意書ヲ差出サ、ルノミナラス辯護人ハ被告人ニ代リ上訴ヲ爲スコトヲ得ルモノナレハ本件ノ如ク被告本人ヨリ上告アリタル上ハ辯護人ノ上告ハ成立スルコトヲ得サルモノトス

高木小出兩辯護士ノ公訴上告辯明ノ趣旨ヲ要スルニ第一ハ豫審判事ノ檢證調書及警部ノ檢證調書ニ依レハ該判事ハ檢證ノ際警部ノ供述ヲ聽キタルヲ以テ證人訊問ノ規定ニ依リ訊問調書ヲ作ルヘキハ當然ナルニ其手續ヲ履行セサリシヲ以テ檢證調書ハ違法ノ調書ナリ殊ニ右調書ニハ警部ノ供述ヲ錄取シタルノミニシテ同人ヲシテ署名捺印セシメサリシハ欠式ノ調書ナリ然ルニ原院力之ヲ採リテ斷罪ノ資料ニ供シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○右檢證調書ニ依レハ警部ノ指示ニ依リ即死ノ場所ヲ知リタル旨ヲ記載シタルノミニシテ警部ノ供述ヲ錄取シタルモノニ非ス故ニ訊問ノ手續ヲ爲サ、リシモ檢證調書ハ違法ノモノニ非サレハ原院力之ヲ採リテ證據ト爲シタルモ亦不法ニ非ス○第二ハ檢證處分ハ刑事訴訟法第四百十三條ニ則リタルモノナルニ其調書ニ現行ノ重輕罪ナルニトテ記載セサルハ違法ニシテ無効ナルニ之ヲ採リテ證據ト爲シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○訴訟記錄ヲ查閱スルニ本件ハ明治二十八年十一月十九日午後五時五十分過キニ生シタル變事ニシテ同日午後九時四十分發伏見區裁判所檢察ノ急報ニ接シ直チニ現場ニ出張シテ臨檢處分ヲ行フタルモノナレハ現行犯ナルコト明白ナリ既ニ現行犯ナルコト明カナル上ハ假令現行犯ナルコトノ記載ナキモ豫審判事ノ處分ハ正當ナレハ其記載ナキヲ以テ調書ヲ背法ナリト云フヲ得ス從テ原院ノ探證ハ違法ニ非ス○第三ハ

刑事訴訟法第四百十二條ニ依リテ豫審判事カ檢事ノ請求ヲ俟タズ豫審ヲ爲ス場合ハ檢事ヨリ先キニ重罪又ハ地方裁判所ノ管轄ニ屬スヘキ輕罪ノ現行犯アルコトヲ知リタル場合ニ限ルモノトス然ルニ本件ハ前ニ司法警察官ニ於テ檢證處分ヲ爲シ終リタル後豫審判事ニ於テ同一ノ處分ニ着手シタルモノナレハ右法則ニ基キタル處置ニアテス從テ其檢證調書ハ無効ナルニ之ヲ採用シテ證據ト爲シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○刑事訴訟法第四百十二條ニ豫審判事ハ檢事ヨリ先ニ云々現行犯アルコトヲ知リタル場合トアルハ其事件ニ付起訴ノ職責アル檢事ヨリ先ニ現行犯アルコトヲ知リタル場合ヲ謂フモノナリ而シテ本件ハ起訴ノ職責ナキ司法警察官及ヒ伏見區裁判所檢事ハ豫審判事ヨリ先ニ事實ヲ知リタルモ起訴ノ職責アル地方裁判所檢事ハ該判事ヨリ先ニ之ヲ知リタルノ事蹟ナキヲ以テ豫審判事カ刑事訴訟法第四百十二條ニ依リ豫審處分ヲ行ヒタルハ相當ニシテ其處分上ニ作リタル檢證調書ハ正當ノモノニシテ原院カ之ヲ採リテ證據トナシタルハ違法ニ非ス

菊池辯護士ノ公訴上告擴張要旨第一ハ豫審判事ノ檢證調書ハ簡單ナルノミナラス創傷ノ模樣ハ記載ヲ省ク旨ノ明示アリ其他原判決ノ證據中ニハ創傷ノ狀態ヲ示シタルモノ一モアルコトナキニ原院カ諸種ノ創傷ヲ認定シタルハ不當ナリト云フニ在リテ○要スルニ本論旨ハ原院ノ職權ニ屬スル事實認定探證ノ當否ヲ論難スルモノニシテ上告ノ理由ナシ第二ハ原院ノ認定シタル被告ノ行爲ハ法律上如何ナル種類ニ屬スルヤヲ判定セスシテ直ニ刑法第三百十七條ヲ適用シタルハ理由ヲ欠キタル判決ナリト云フニ在レトモ○原判決ノ事實理由ニ依リ被告カ行爲

ハ刑法第三百十七條ノ所謂疎虞懈怠ニ出タルモノナルコト明白ナレハ特ニ其犯罪行爲ニ付法律上ノ名稱ヲ判文ニ記載セサルモ判決ノ理由ニ於テ欠クル所ナシトス

原院檢事長林誠一ノ附帶上告ノ趣意ハ過失殺傷罪ハ結果ニ依リ其刑ヲ定ムルモノナレハ一個ノ過失ニ原因スルモノト雖モ其結果數個生スルモノナルトキハ數罪俱發ヲ以テ論スヘキモノナルニ原院ハ被告ノ過失ニ依リ人ヲ死及癱疾疾病休業ニ至ラシメタル事實ヲ認メナカラ第一審裁判所カ數罪俱發例ニ依リ處分シタル判決ヲ取消シ一罪トシテ處斷シタルハ擬律ノ錯誤ナリト云フニ在レトモ○本件ノ變事ニ因リ戸江ヨリ子外三名ハ死亡シ其他十八名ハ或ハ癱疾ニ或ハ疾病休業ニ至リタルハ被告カ一個ノ過失ニ原因シ同時ニ生シタルモノナレハ過失傷ハ自カラ過失殺ノ中ニ包含セラレ一個ノ過失殺罪ナリトシテ處斷スヘキモノナルヲ以テ原院カ刑法第三百十七條ニ該ル一罪ナリトシタルハ相當ニシテ上告ハ其理由ナシトス

民事被告人高木文平ノ私訴上告趣意ハ要スルニ公訴人ノ公訴上告趣旨ノ如ク公訴判決ハ不法ナルヲ以テ其判決ニ基キ損害賠償ノ義務アリト言渡シタル私訴判決ハ不法ナリト云フニ在レトモ○公訴上告ノ理由ナキコトハ公訴上告ニ對シテ説明スル如クナルヲ以テ本論旨モ亦其理由ナシ菊池辯護士ノ擴張趣旨第一ハ他人ノ過失ニ因リ死ニ致サレタル者ノ親族カ賠償ヲ請求シ得ヘキ損害ハ死亡者カ請求者ニ與フル利益ヲ標準トシテ定メサルヘカラス而シテ高橋龜次郎ニ對スル損害金ハ其亡母ナリノ死體取片付ニ關スル費用ニシテ同人カ亡母ヨリ受ケ得ヘカリシ利益ノ損失ニ非サルノミナラス公訴被告カ龜次郎ノ權利ヲ害シタルコトナキカ故ニ同人

判旨第十一

自己ノ權利毀損ヨリ生シタル損失ニモ非サルナリ然ルニ原院カ死體取片付置ノ賠償ヲ命シタルハ不當ナリト云フニ在レモ〇總次郎ハ實母ハ死亡ハ公訴被告人ノ過失ニ原因シタルモハニシテ其死亡ノ當時ニ要シタル死體運送人夫ハ手當奔走人カ車ハ貸錢釣臺ハ棒若クハ月板ハ代償ハ其過失殺ヨリ直接ニ總次郎ニ對シ生シタルモノナルヲ以テ民事擔當人タル民事被告人ニ其賠償ヲ命シタルハ相當ニシテ上告ハ理由ナシ第二ハ不法行為ニ原因スル損害ハ他ノ債權ニ異リ判決ニ依リテ始メテ定ムルモノナレハ其以前ニ支拂期限ナク隨テ淹滞金ナルモノアルヘカラス然ルニ原院ハ西澤トヲノ請求金ニ利子ヲ付シタルハ不當ナリト云フニ在レトモ〇不法行為ニ原因スル損害賠償ハ債權ハ其損害アリタル時ヨリ生スルモノハナレハ支拂期限ナキニ非ス隨テ淹滞金額ナシト云フヲ得ス故ニ原院カ西澤トヲノ請求金ニ法律上ノ利子ヲ附シタルハ失當ニ非ス

判旨第十二

小出高木兩辯護士ノ擴張趣旨第一ハ公訴附帶ノ私訴ハ例外的ノ訴訟手續ニシテ犯罪者一己人カ被害者ニ與ヘタル損害ノ賠償ヲ此手續ニ依リ請求スルコトヲ許シタルニ過キス然ルニ本件私訴ハ刑事被告人トハ全ク別離シタル京都電氣鐵道株式會社ニ對スルモノナルヲ以テ公訴ニ附帶スルコトヲ得サルモノナリト云フニ在レトモ〇本訴ノ請求ハ刑事被告人カ犯シタル過失殺罪ニ原因スル損害賠償ナルヲ以テ公訴ニ附帶シ此被告人ノ雇主タル京都電氣鐵道株式會社ヲ代表スル上告人ニ對シ之ヲ爲スコトヲ得ルモノトス依テ原院判決ハ失當ニ非ス第二私訴判決ノ理由ヲ當事者以外ニ言渡シタル公訴判決ニ讓リタルハ理由ヲ附セサル違法ノ判決ナリト云

フニ在レトモ〇原院判決ニ刑事被告人奥田幸次郎カ京都電氣鐵道株式會社ニ雇ハレ上告人ノ命ニ依リ運轉手トシテ電氣車ニ乘リ込ミ其職務ニ從事中明治二十八年十一月十九日過失ニ原因シテ奈良鐵道株式會社ノ電車ト衝突シ死傷ヲ生シタルコトヲ說示シ其事實ノ詳細ヲ公訴判決ニ讓リタルモ本件ハ公訴附帶ノ私訴ナルヲ以テ敢テ違法ナリトセス小出辯護士ノ追申書ノ趣旨ハ原院判決ノ理由ニ養育費教育費及損害金ニ付テハ將來ニ係ルヲ以テ將來生活中ノ或ル期間迄ヲ支拂ハシムルコトヲ相當トスル旨ヲ說明シナカラ主文ニ於テハ死ニ至ル迄ノ箇條ヲ付シテ辨濟スヘキノ言渡ヲ爲サリシハ判決ト理由ト相當セサル不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ〇原院ノ命シタル賠償金ニシテ將來ニ係ルモノハ池永増七外二名ノ養料右増七ノ教育費及ヒ高津梅次郎ノ得ヘキ給料ノ損害賠償ナレハ其性質上賠償金ヲ受クヘキ人ノ死亡後ニ繼續スヘキモノニ非サルヲ以テ判決主文ニ賠償ヲ爲スヘキ年限内ニ賠償ヲ受クヘキ人ノ死亡シタルトキハ其賠償ノ義務消滅スル旨ヲ特記セサルモ違法ニ非ス依テ上告ハ其理由ナキモノトス民事原告人高津梅次郎高橋龜次郎ノ辯護士岡崎正也ノ私訴上告擴張趣旨ハ刑事付帶ノ私訴ハ刑事裁判所ノ管轄スル所ニシテ其構成ニハ檢察官ノ立會アルコトヲ要ス然ルニ明治三十年三月二十三日ノ私訴公判ハ檢察官ノ立會ナクシテ結審セリ依テ原院判決ハ構成法ニ背反シタル裁判ナリト云フニ在リ〇依テ原院公判始末書ヲ査閱スルニ明治三十年三月二十三日ノ公判ニ付テハ「檢察官立會セスト」ノ記載アリテ檢察官ノ立會ナカリシコトハ明白ナリ然ルニ公訴附帶ノ私訴ハ刑事裁判所ニ於テ之ヲ審判スルモノナルヲ以テ其公判ハ刑事訴訟法第七十六條ニ從ヒ檢察官

ノ出廷ヲ要スルモノトス故ニ前述ノ如ク原院カ檢事ノ立會ヲクシテ公判ヲ開キ私訴ヲ審理シタルハ規定ニ從ヒ判決裁判所ヲ構成セサリシ違法アルモノニシテ判決モ亦々違法ヲ免カレス上告ハ其理由アリトス既ニ此點ヲ以テ本上告人兩名ノ上告ニ係ル原判決ノ部分ハ之ヲ破毀スヘキモノトスル上ハ他ノ論旨ニ對シ一々説明スルノ要ナシ民事原告人安本利三郎ハ上告申立ヲ爲シタルモ法定ノ期間ニ趣意書ヲ差出サ、ルヲ以テ其上告ハ成立セサルモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ公訴被告人奥田幸次郎ノ公訴上告民事被告人高木文平及民事原告人安本利三郎ノ私訴上告ハ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ之ヲ棄却ス公訴被告人ヨリ上告ノ爲メ豫納シタル金額ハ明治十九年勅令第四十六號ニ依リ其半額ヲ没入シ民事被告人高木文平ヨリ各被告人ニ對スル私訴上告裁判費用ハ各民事被告人ニ於テ民事原告人安本利三郎ヨリ被上告人高木文平ニ對スル私訴裁判費用ハ民事原告人ニ於テ之ヲ負擔スヘシ民事原告人高津梅次郎高橋龜次郎ノ上告ニ付テハ刑事訴訟法第二百八十六條同第二百九十條ニ依リ梅次郎ニ對スル原判決ノ全部及龜次郎ニ對スル原判決中上告ニ係ル部分即チ第二第三ノ請求及ヒ之ニ關スル假執行ノ請求并ニ私訴費用ニ對スル原判決ヲ破毀シ事件ヲ名古屋控訴院民事部ニ移ス

明治三十年六月二十二日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事安居修藏立會宣告ス

○官文書偽造行使ノ件

明治三十年第四二〇號
明治三十年六月二十四日宣告

○判決要旨

合議裁判所ノ一人ノ判事其合議ニ關シ法律ニ違背シ不正ノ所爲アルトキハ他ノ列席判事ヲ訊問シ其評議ノ顛末ヲ陳述セシムルコトヲ得

(參照) 判事ノ評議ハ之ヲ公行セス但シ豫備判事及試補ノ傍聽ヲ許スコトヲ得判事ノ評議ハ其裁判長之ヲ開キ且之ヲ整理ス其評議ノ顛末並ニ判事ノ意見及多少ノ數ニ付テハ嚴ニ秘密ヲ守ルコトヲ要ス(裁判所構成法 第百二十一條)

第一審 新潟地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 堀 小太郎 辯護人 佐々木 茂三郎
飯田 宏作

明治三十年年四月二十三日東京控訴院ニ於テ右小太郎カ官文書偽造行使等被告事件ノ控訴ヲ審理シ第一審判決中有罪ノ部分ヲ取消シ更ニ被告小太郎ヲ重懲役十一年ニ處ス押收ニ係ル偽造印二個ヲ沒收シ其他ノ文書ハ各差出人ニ還付ス公訴裁判費用ハ被告小太郎ニ於テ第一審ノ相被告堀井直吉ト連帶シテ負擔スヘシト言渡シタル判決ヲ不法トシ被告ハ上告ヲ爲シタリ

合議裁判所評議ノ陳述

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審理ヲ送ケル處
 被告カ上告第一要旨ハ参考人兒玉セイノ豫審調査ハ豫審判事カ相川警察署ニ於テ作成シタル
 違法ノモノナルニ原判決之ヲ斷罪ノ資料ニ採用シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○原判決
 書ヲ審査スルニ参考人兒玉セイノ豫審調査ヲ證憑ト爲シタル事跡ナシ本論旨ハ謂ハレナキ論
 旨ナルヲ以テ元ヨリ上告ノ理由ト爲ラズ同第二要點ハ共同被告人福井直吉證人武藤久太郎青
 柳コウ参考人兒玉セイ等ノ豫審訊問調査ノ各署名下ニハ捺印ナク且其事由ノ記載モナキハ法
 則ヲ適用セサルモノナリ抑モ刑事訴訟法ニ所謂捺印トハ即チ印ヲ押捺スルコトニシテ捺印ス
 ルニ非サルコトハ同法第二十條ニ署名捺印シ云々又ハ本人自ラ署名捺印スヘシ云々トアルニ
 依テ明カナリ加之同法及ヒ刑法其他ノ法律ニ捺印ナル名稱ヲ用ヒタルモノ一モ之レナク且又
 普通單ニ印ト稱スルハ官署ノ印公署ノ印及ヒ刑法ニ所謂私印ヲ總稱シ敢テ捺印ヲ指サトルヲ
 見ルモ亦法律上ノ所謂印トハ捺印ト自ラ異ニシテ同視セサルコト明カナリサレハ該訊問調査
 ノ各署名下ニ縱令捺印シアリトモ法律上之チ目シテ捺印シアリト謂フヲ得サルヤ亦明カナレ
 ハ即チ訊問調査作成ノ方式ノ欠ル所ロノモノナルニ之レヲ證憑トナシタルハ違法ナリト云フ
 ニ在レトモ○證人武藤久太郎青柳コウ参考人兒玉セイノ各豫審調査ハ原裁判之レヲ證憑ト爲
 シタルニアラサレハ其豫審調査ニ付テノ論告ハ元ヨリ上告ノ理由ナシ而シテ直吉ノ調査ハ捺
 印セシメアルモ捺印ハ刑事訴訟法第九十五條ノ所謂印ノ一ナレハ其捺印ヲ爲シアル以上ハ法
 律ノ式ヲ履行シアアルモノトシテ別ニ捺印スル能ハサル理由ヲ附記スル等ノ手續ヲ爲シアラサ

ルモ其調査ハ有効ナリ故ニ原院カ其調査ヲ證憑ト爲シタルハ違法ニアラス
 同第三要點ハ共同被告人福井直吉證人小田榮吉其他ノ各豫審訊問調査ニ之レヲ作りタル場所
 ノ記載ナシ是レ明カニ刑事訴訟法第二十條第一項ノ規定ニ背キタルモノナレハ全然無効ノ調
 書ナリ然ルニ之レヲ證據ニ採用シテ有罪ノ判決ヲ下シタルハ違法ナリト云フニ在リ○因テ一
 件記録ヲ査閱スルニ福井直吉其他ノ調査中其末尾ニ新潟地方裁判所相川支部ト記載シアレハ
 即チ調査作成ノ場所ヲ記載シタルモノナレハ調査作成ノ場所ヲ記載セサル無効ノ書類ナリト
 云フヲ得ス因テ原判決之ヲ斷罪ノ證憑ト爲シタルハ不法ニアラス
 同第四ノ要點ハ原判決ニ於テ沒收セラレタル押収ノ印章二個ノ内一個即チ長谷川俊平ノ分ハ
 相被告人福井直吉カ該印章ヲ偽造シタル事件俊平ニ覺知セラレ諾入レタル際該偽造印ヲ俊平
 ニ引渡シ其所有權ヲ俊平ニ歸シタルヨリ俊平ハ之ヲ保存シ置キタル豫審ニ於テ押収セラレ
 タルモノニシテ該偽造印ノ所有主ハ長谷川俊平ナルコトハ一件記録ニ徴シテ明白ナレハ該偽
 造印ハ俊平ヘ還付セラルヘキモノナルニ原判決押収ヲ言渡サレタルハ違法ナリト云フニ在リ
 テ○要スルニ原判決ニ認めサル事項ヲ掲ク事實認定ヲ非難スルニ過キサルヲ以テ上告ノ理由
 ナシ
 同第五要旨ハ原判決第五ノ内長清ノ二字ヲ彫刻シテ使用シタルハ罪トナラサルモノナリ何ト
 ナレハ該印ハ長谷川清ノ印トハ文字字體大サ共ニ全ク別異ナルコトハ同人ノ印鑑ニ照ラシテ
 明カナルノミナラス長清ノ二字ハ長谷川清ノ通稱ニモ實名ニモ家名ニモ家號ニモ非ラス且又

同家ニ是迄長清ノ印ヲ用ヒタルコトモ亦之レナキコトハ一件記録ニ徴シテ明白ナレハ該行爲ハ畢竟出來合印又ハ有合印ヲ使用シタルト毫モ異ナル所ナク即チ私印偽造罪ヲ構成セサルモノナルニ刑法第二百八條第一項ヲ適用シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○原判文ニ認ムル事實ニ依レハ被告ハ長谷川清名義ノ證書ヲ偽造センカ爲メ長清トアル印章ヲ彫刻セシメ其印章ヲ長谷川清ノ印章トシテ使用シタルモノナレハ私印偽造罪ノ成立スヘキハ勿論ノコトニ付刑法第二百八條第一項ヲ適用處斷シタル原判決ハ相當ナルヲ以テ本論旨モ亦上告ノ理由ナシト同第六點ハ原判決ノ第十一ニ三浦小平次ノ紹介ニテ云々中山小四郎ノ罪ヲ曲免セラレンコトノ請托ヲ受ケ小太郎ハ暗ニ承諾ノ意ヲ表シト記載シ小四郎ニ對シ無罪ノ判決ヲ爲シタルハ三浦小平次ノ請托ヲ受ケタルニ基クモノナル旨認定セラレタリ然ル上ハ之レカ證據ナカル可ラサルニ原判決ニハ之レカ證據ヲ掲ケサルハ違法ナリト云フニ在レトモ○原判文ニ以上ノ事實ハ云々ト其列舉ノ證據ニ心證ヲ資リ第十一ニ對スル事實ヲモ判定シタルモノニテ特ニ第十一事實ニ對スル證據ナリト明掲セサルモ違法ニアラス

同第七點ハ根本忠清ノ豫審訊問調書ハ違法ノモノナリ何トナレハ彼ノ何物カ荷モ帝國裁判所ノ判事ニアラスヤ彼レ既ニ判事タル上ハ彼レモ亦裁判所構成法ノ評議ノ模倣各判事ノ意見既ノ多少ハ嚴ニ秘密ヲ守ルヲ要ストノ規定ハ嚴守セサル可カラス然ルニ彼レハ中山小四郎被告事件裁判ノ評議ニハ誰ハ斯ク斯クノ説ヲ主張セル旨供述シタルハ是レ法律上供述ス可ラサル事ヲ供述シタルモノナレハ即チ違法ノ供述ナリ加之凡ソ證據トシテ採用スルニハ被告人ノ辯

解シ得可キモノタラサル可カラス然ルニ該訊問調書ヲ辯解セントスレハ則チ法律ニ背キ秘密ヲ公言セサル可カラサルニ至ルヲ以テ到底辯解スルヲ得サルモノナリ然ラハ該訊問調書ハ其性質ニ於テ既ニ違法ノモノナレハ證據トシテ採用スルヲ得サルモノナルニ原判決之ヲ採用シタルハ違法ナリト云フニ在ルモ○合議裁判事件ニ付若シ列席判事、中法律ニ違背シ、曲庇等不正ハ所爲アル場合ニ於テハ其列席判事ニ對シ其評議ノ模倣等ヲ訊問スヘキハ當然ハコトニシテ從テ其評議ヲ陳述スヘキハ亦勿論ナリ本件被告カ犯罪人曲庇事件ニ付豫審判事カ當時ノ列席判事タリシ根本忠清ヲ訊問シ其調書ヲ作りタルハ當然ノコトニ付之レヲ斷罪ノ證據ニ供シタル原判決モ亦違法ニアラス

同第八點ハ判決ノ第十一ニ於テ中山小四郎被告事件ニ付無罪ノ判決ヲ爲シタルハ是レ小四郎ヲ曲免シタルモノナリト認定セラレタルモ抑モ該被告事件ニ付テノ判決ハ三人ノ判事合議ニ基クモノナレハ假リニ被告ハ無罪説ヲ主張シタリトスルモ元ヨリ被告人ノ意見ヲ以テ左右シ得ヘキモノニ非ラサレハ少クトモ一人ノ判事モ亦同説ナリシコトヲ推測スルニ餘リアリト謂ハサルヘカラス況ンヤ三人共ニ無罪説ニ一致シタルモ亦知ル可カラサルニ於テチヤ然ラハ被告カ無罪説ヲ主張シタリトスルモ亦理由ノ存スルモノナルコト明カナレハ無罪ノ判決ヲ下シタルハ是レ小四郎ヲ曲庇スル爲メ其證據ヲ無視シタルニ非ラスシテ法律上合意ノ結果タルコトハ炳焉トシテノ火ヲ暗ルヨリモ明カナルニ原判決ハ該判決ノ會議ニ基クモノナルヲ認メナカラ其無罪ヲ言渡シタル貴ヲ被告一人ニ歸シ犯罪人曲庇ノ罪アリト爲シタルハ違法ナリト云

フニ在レトモ○被告ハ判事奉職中衆議院議員選舉法違犯ノ被告人トシテ訴追中ノ中山小四郎ノ罪ヲ曲免セラレシコトノ請托ヲ受ケ其審理ヲ爲スニ當リ情ニ徇カヒ小四郎ヲ曲庇スル爲メ證憑不充分ナリト主張シ其結果遂ニ無罪ノ言渡ヲ爲スニ至リシモノトノ事實ヲ認メアレハ他ノ列席判事ノ意見ノ奈何ニ拘ハラズ被告ニ於テハ被告人ヲ曲庇シタルノ制裁ハ免カルコトヲ得サルモノトス故ニ原判決ハ相當ニシテ決シテ違法ニアラス

辯護人佐々木茂三郎飯田宏作カ上告擴張第一要點ハ原判決理由ノ第二第三第五第七ニ官印盜捺又ハ私印盜捺シトアレトモ何レノ場所ニ於テ之ヲ盜捺シタルヤ一モ之ヲ示サズ是レ犯罪ノ場所ヲ示サ、ル不法アリ同第二ノ要點ハ原判決理由ノ第九ニ云々印鑑ヲ裂取シタリトアレトモ何レノ場所ニテ裂取シタルヤ一モ之ヲ示サ、ル不法ナリト云フニ在レトモ○原判文ヲ査閱スルニ理由ノ冒頭ニ被告小太郎ハ相川區裁判所監督判事奉職中左ノ數罪ヲ犯シタリト揭ケ而シテ其第二第五第七共總テ相川區裁判所ノ官印ヲ盜捺シタル事實ヲ認メアリ又第九ノ事實中相川區裁判所ニ備付アル印鑑簿中相川町大字濁川町部ニ貼付シアル長谷川清ノ印鑑ヲ裂取シタリトアルニ依レハ何レモ相川區裁判所ニテ之ヲ行爲ナルコト明カナリ又第三事實ノ根本忠清ノ認印ヲ盜捺シタル場所モ同區裁判所内ナルコト自カラ推知シ得ヘキノミナラス其認印ヲ盜捺シタル偽造證書ヲ行使シタル場所ハ明カニ示シアルヲ以テ犯罪構成ノ事實ハ充分ナリトス因テ犯罪ノ場所ヲ示サ、ル不法アリトノ上告ハ其理由ナシ

同第三點ハ原判決理由ノ第十一ニ云々當時相川區裁判所ニ衆議院議員選舉法違犯ノ被告人ト

シテ訴追中ノ中山小四郎ノ罪ヲ曲免セラレシコトノ請託ヲ受ケ云々同年十月四日相川支部於テ自ラ該被告事件ノ裁判長トナリ審理ノ末云々トアリ前段ニハ相川區裁判所ト云ヒ後段ニハ相川支部ト云フ區裁判所ニ繫屬シタル被告事件ニ裁判長ノアルヘキ筈ナク又支部ニ繫屬シタルモノナラハ區裁判所ニ訴追中タルヘキ筈ナシ即理由ニ齟齬アル不法ノ判決ナリト云フニ在リ○因テ按スルニ相川區裁判所ニ訴追中ノ中山小四郎カ衆議院議員選舉法違犯ノ件カ相川支部ニ移サレタル手續ノ如何ヲ問ハス原院ニ於テ被告カ中山小四郎ノ罪ヲ曲免セラレシコトノ請託ヲ受ケ而シテ其判決ヲ爲スニ當リ情ニ徇カヒ小四郎ヲ曲庇シタルノ事實ヲ認メアレハ理由ノ齟齬アルモノトシ原判決ヲ破毀スルノ原因ト爲スニ足ラス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ則リ判決スルコト左ノ如シ

本案上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十年六月二十四日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事藤堂融立會宣告ス

○詐欺取財ノ件

明治三十年第五五七號
明治三十年六月二十五日宣告

○判決要旨

犯罪ノ原因トシテ損害賠償ヲ請求スル場合ニアリテハ遲滯ノ條件ヲ要セスシテ當然利息ヲ生スヘキモノトス

第一審 岐阜地方裁判所 第二審 名古屋控訴院

公訴私訴上告人 棚橋清四郎

私訴被上告人 棚橋耕十郎

右清四郎カ詐欺取財被告事件ニ付明治三十年五月十九日名古屋控訴院ニ於テ言渡シタル公訴私訴ノ判決ニ對シ清四郎ヨリ上告ヲ爲シタルニ付刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

上告趣意ノ要旨第一點ハ原院ニ於テ上告人カ二重ニ證文ヲ使用シ二重ニ元利金ヲ領收セシモノトシ其實事實ニ對シ刑法第三百九十條ヲ適用シタルハ疑律錯誤ノ裁判ナリ其第二點ハ右ノ事實ヲ認定スルニハ鷲見庄七ノ證言ニ基キタルモノ、如シ然レトモ該證言ハ棚橋與平治ノ證言ト相違スルヲ以テ之ヲ證據トシテ裁判シタルハ理由ノ顯赫セシモノナレハ刑事訴訟法第二百六十九條ニ適當スル不法ノ裁判ナリ其第三點ハ本件二重取ノ證據ハ人證ノミニテ一ノ物證ナシ抑モ人證ナルモノハ法律上許ス所ナルモ物證アル場合ニ於ケル補充證タルヲ得ルニ過キス

況ヤ本件ノ證人ハ何レモ傳聞證據タルノミナラス大野ステノ證言ハ前後不揃ナルヲ以テ其何レヲ眞實ナリトスルカ之カ判斷ニ苦ム所ナリ故ニ此場合ニ於テハ證據不十分トシテ裁判スヘキモノナルニ有罪ノ判決ヲ爲シタルハ不當ナリ其第四點ハ前掲ノ理由ニ依リ私訴請求金ハ辨償ス可キモノニ非ス然ルニ之ヲ償還スヘント判決シタルハ不法ナリト云フニ在リ○然レトモ以上ノ論旨ハ總テ原院ノ職權ニ屬スル恣意ノ取捨事實ノ認定ニ對シテ不服ヲ唱フルニ過キサ

ルヲ以テ適法ノ上告理由トナスヲ得ス
上告趣意辨明書ハ原院ノ認メタル事實ハ誤謬ナリ其誤謬カ原因トナリ上告人ニ有罪ノ判決ヲ與フルニ至リタルモノトシ豫審調書ニ記載セル事項ヲ披記シ其他上告人カ詐欺取財犯ニ非ストノ理由ヲ詳述シ原判決ノ破毀ヲ求ムルニ在リテ要スルニ原院ノ認メタル事實ヲ非難スルニ過キサルヲ以テ上告理由トナラス

私訴上告辯明第一點ハ原院ハ上告人ニ騙取ノ所爲ナキニ之アリトセシハ違法ト云フニ在リテ
○公訴上告論旨ト同一ナルヲ以テ之ニ對シ重テ說明ヲ與フル要ナシ同第二點ハ原院ハ明治二十八年十月ヨリ同三十年三月迄年六分ノ割合ノ利子ヲ付シテ償却スヘント判決セシモ當事者間ニ利息ノ約定ナケレハ之ヲ支拂フヘキ義務ナシ然ルニ之ヲ支拂フ可シト判決セシ以上ハ其理由ヲ付セサル可ラサルニ之ヲ付セサルハ民事訴訟法第四百三十七條第七ニ該當スルモノナリ蓋原院ハ明治六年第九十二號布告ヲ不當ニ適用シタルモノナリト云フニ在リ○然レトモ原

原因トシ其損害ノ賠償ヲ求ムルニアリテ遲滯等ノ條件ヲ要セス當然利息ヲ生スヘキモハレハ其騙取セラレタル金額ニ騙取セラレタル時ヨリ以後ノ法律上ハ利子ヲ付シ請求スルハ當然ハコトナリトアリテ利息ヲ支拂フ可キ理由ヲ明示セルハミナラス明治六年第九十二號布告ハ本件ノ如キ損害賠償ノ場合ニ適用スヘキモハレニ非ス而シテ原判決ハ之ヲ適用セサルヲ以テ原判決ハ上告論旨ノ如キ不法ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件公訴私訴ノ上告ハ共ニ之ヲ棄却ス私訴上告費用ハ上告人ニ於テ負擔ス可シ

明治三十年六月二十五日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○取引所法違犯ノ件

明治三十年第五五九號
明治三十年六月二十九日宣告

○判決要旨

取引所外ニ於テ取引所ノ取引ト同一ノ方法ニ依リ賣買ヲ爲シタル以上ハ賣手買手ノ外取引所ニ代ルヘキ中間者ナキモ之ヲ以テ取引所ノ取引ト同一ノ方法

ニアラスト云フヲ得ス(第三輯第五卷四十四丁登載取引所法)

(參照) 取引所外ニ於テ取引所ノ定期取引ト同一又ハ類似ノ方法ヲ以テ賣買取引ヲ爲スコトヲ得ス(取引所法第二十五條)

第一審 大阪地方裁判所 第二審 大阪控訴院

被告人 大島甚三 辯護人 岡崎正也

右大島甚三カ取引所法違犯被告事件ニ付明治三十年五月二十五日大阪控訴院ニ於テ大阪地方裁判所ノ判決ニ對スル檢事ノ控訴ヲ審判シ原判決ヲ取消シ更ニ被告甚三ヲ罰金二百圓ニ處ス押收ノ金額ハ各差出人ニ還付スト旨渡シタル第二審ノ判決ニ服セス被告人ハ上告ヲ爲シタルニ因リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ被告辯護士岡崎正也ノ辯論及ヒ立會檢事安居修藏ノ意見ヲ聽キ判決ヲ爲スコト左ノ如シ

上告ノ要旨第一取引所法第二十五條ニハ取引所ノ定期取引ト同一又ハ類似ノ方法ヲ以テ云々トアリ此法條ヲ適用センニハ上告人カ賣買シタル方法ヲ明示セサルヘカラス然ルニ原判決ニ於テハ大阪株式取引所ノ定期取引ト同一ノ方法ヲ以テ云々ト法條ノ文字ヲ其儘掲クルノミニシテ其方法ハ如何ナル方法ナリシヤチ示サレス判文ニハ先ツ第一ニ上告人カ斯々ノ方法ニヨリテ賣買シタルト明示スルニ非サレハ其所爲カ果シテ法條ニ所謂取引所ノ定期取引ト同一ナリヤ否ヤチ知ルニ由ナシ而シテ實際上告人ト仲五郎トノ間ニハ取引所ノ定期取引ト同一ノ方

法ヲ用ヒタルコトナク又賣買取引ノアリタルモノニ非ス要スルニ事實ノ理由ヲ明示セサル假
 豫アリト云フニ在レトモ○原判文中ニ同市京區北濱二丁目ノ仲買店ニ於テ自ラ其對手人トナ
 リ株式取引所ノ定期株式賣買相場ヲ標準トシ同取引所ノ定期取引ト同一ノ方法ヲ以テ云々ト
 アリテ被告カ取引所外ニ於テ賣買取引ヲ爲シ而シテ其方法ハ取引所ノ定期取引ト同一ナリト
 ノ事實ヲ認定シタルモノニシテ犯罪成立ノ理由明瞭ナリ第ニ前述ノ如ク原判文ニ事實ヲ明示
 セサルヲ以テ上告人ト仲五郎トノ間ノ取引方法ハ如何ニ認定セラレタルヤヲ知ルニ由ナキモ
 兎ニ角上告人カ仲五郎ノ對手人トナリタリト認メタルハ明ナリ取引所ノ定期取引ハ賣手ト買
 手アリテ取引所其仲間ニ立テ賣手買手雙方ニ對シ義務ヲ負フ一種特別ナル方法ニシテ必ス賣
 手買手取引所ノ三者ヲ要スルナリ故ニ取引所ノ取引ト同一ノ方法ヲ以テ取引センニハ賣手買
 手ノ外ニ中間者ナカルヘカラス此中間者ヲ欠ケハ取引所ノ取引ト同一ノ方法ニ非ス原判決ニ
 於テ上告人ト仲五郎ト兩人ノミノ間ニ爲シタル取引ニ關シテ取引所法第二十五條ニ所謂取引
 所ノ定期取引ト同一ノ方法ヲ以テ云々ノ法律ヲ適用セラレタルハ擬律錯誤ナリト云フニ在
 レトモ○前ニ説明シタル如ク原判決ニ依レハ被告ハ自己ハ仲買店ニ於テ取引所ノ定期取引ト同
 一ノ方法ヲ以テ株式ノ賣買取引ヲ爲シタルモノニシテ其取引ノ方法ハ總テ取引所ノ取引ト同一
 ナリト認定シタルモノナリ而シテ已ニ取引所外ニ於ケル行為ハハ賣手買手ノ外別ニ取引所ニ
 代ルハキ中間者ナキモ之ヲ以テ取引所ノ取引ト同一ノ方法ニ非スト云フコトヲ得サルモノト
 ス第ニ三原判決認定事實ハ上告人カ仲五郎ヨリ定期取引ノ注文ヲ受ケナカラ之ヲ取引所ニ於テ

注文通り取引セスシテ仲五郎ヘハ取引セシ如ク通知セシモノト認メラレタルナラント推察セ
 ラル果シテ然ラハ取引所法第廿五條ニ該當スヘキモノニ非ス同條ハ斯々ノ方法ヲ以テ賣買取
 引ヲ爲スコトヲ得スト規定シタリ即チ同條ハ一種ノ賣買取引ヲ禁シタルナリ而シテ右認定事
 實ハ賣買取引ニ非ス仲五郎ハ上告人ト株式ヲ賣買スル意思ナク又左様ナル意思ノ表示ヲ爲シ
 タルコトナク同人ハ上告人ニ關シ取引所ニテ賣買センコトヲ依頼シタルナリ請ヲ換ヘテ云ヘ
 ハ代理ヲ委託シタルナリ上告人モ亦仲五郎ト賣買スル意思ナリ又意思表示ヲ爲シタルコトナ
 ク唯受ケタル委託義務ヲ盡サ、リシニ過キス仲五郎ニ於テ上告人ヨリ買フ意思ナク上告人ニ
 於テ仲五郎ヘ賣ル意思ナシトセハ此兩者間ニ賣買取引ノ成立スヘキ答ナシ若シ賣買成立セリ
 トセハ何時如何ナル場合ニ成立セシカ上告人カ仲五郎ヨリ委託ヲ受ケタルトキニ於テ成立セ
 リトスルカ此時ハ仲五郎ハ委託ヲ爲シ上告人ハ委託ヲ受ケタルモノナリ假リニ上告人ハ此時
 已ニ之ヲ取引所ヘ差出サ、ルノ決心アリタリトスルモ其對手ニ於テ委託ヲ爲スノ意思アルニ
 於テハ双方ノ意思一致セスシテ賣買ノ成立セサルヤ明ナリ又上告人カ斯々ニ賣レタリト仲五
 郎ヘ通知シタル時ニ於テ賣買成立シタリトセンカ是レ上告人ハ一己ノ意思ヲ以テ委託契約ヲ
 賣買契約ニ變更スルコト、ナリ其不當ナルヲ論テ俟タヌ要スルニ上告人ト仲五郎トノ間ニハ
 賣買上ニ於テモ表面上ニ於テモ賣買アリタルコトナシ故ニ或ル種類ノ賣買ヲ禁シタル法條ヲ
 適用スルヲ得サルモノナリト云フニ在レトモ○原判文ニ藤安仲五郎ヨリ諸株式定期賣買ノ取
 引ヲ委託セラレ云々仲買店ニ於テ自ラ其對手人トナリ云々密ニ諸鐵道株式總計四千八百五十

株ヲ仲五郎ニ賣リ同三千九百十株ヲ同人ヨリ買受ケタリトアリテ仲五郎ハ最初ヨリ株式賣買
 ナ爲サントスル者ニシテ又其賣買ニ付テ對手人ヲ指定シタルニ非ス而シテ被告ハ自ラ其對手
 人トナリ株式賣買ヲ爲シタルモノナレハ其賣買成立セスト云フコトヲ得ス已ニ株式ヲ賣リ又
 ハ買受ケタリトノ事實ヲ認定シアルニ對シ其事實ハ賣買取引ニ非スト論訴スルモ要スルニ事
 實ノ認定ヲ非難スルニ過キスシテ適法ノ理由ナキモノトス
 辯護士カ擴張書ノ要旨ハ第一原裁判前段ニ於テハ藤安仲五郎ヨリ株式定期賣買ノ取引ヲ委託
 シタルニ被告ハ其委託ニ基キ之ヲ取引所ニ提出セサリシトノ事實ヲ認メタリ然ルニ末段ニハ
 自ラ對手人ト爲リ密ニ鐵道株式ヲ仲五郎ニ賣リ又ハ買受ケタリト判示シ即チ被告カ仲五郎ヨ
 リ前段ノ如ク取引所ノ取引ヲ委託セラレタルニ右委託ヲ實行セス私ニ之ヲ自己ニ引受ケ俗ニ
 所謂ノミタル[寫合ニ賣買ノ合意成立シタルモノ、如ク判示セラレタルハ理由齟齬ヲ免カレサ
 ル不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ]○本論旨ハ上告第三點ヲ敷衍スルニ過キス而シテ原判決
 上理由齟齬ノ違法ナキコトハ前説明ニ依リ之ヲ了解スヘシ[第二原判決ニ單ニ諸鐵道株式云々
 ト判示セラレタルノミニシテ如何ナル株式ヲ賣買シタルモノナルヤ其事實ヲ明示セサリシハ
 違法ナリト云フニ在レトモ]○諸鐵道株式ト記載シ其賣買ニ係ル物件ヲ明示シタル上ハ其株式
 ノ名稱等ヲ詳記セサルモ違法ニアラサルモノトス
 右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之ヲ棄却ス
 上告豫納金ハ明治十九年勅令第四十六號ニ依リ其半額ヲ沒收ス

明治三十年六月二十九日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事安居修藏立會宣告ス

○官林盜伐等ノ件

明治三十年第六一〇號
 明治三十一年六月二十九日宣告

○判決要旨

被告人ノ身體ヲ拘束シテ審理シタル裁判ハ不法ナリ

(參照) 被告人ハ公廷ニ於テ身體ノ拘束ヲ受クルコトナシ但守卒ヲ置クコトアルヘシ

(刑事訴訟法第
 百七十七條)

第一審 高知地方裁判所 第二審 大阪控訴院

公訴私訴上告人 岡田伊平

私訴被上告人 大林隆吉
 下村寛耶

明治三十年五月十八日大阪控訴院ニ於テ右伊平外二名ニ對スル官林盜伐等ノ被告事件ヲ審理
 シ原判決申被告伊平(中畧)ニ關スル部分ノ全部(中畧)ヲ取消ス被告伊平(中畧)ヲ重禁錮十月監視六
 月ニ處ス差押ヘアル保證二通木片二個拂下開届書一通ハ各差出人ニ還付ス公訴ニ關スル訴
 訟費用ノ全部ハ被告伊平金之助兩名ニ於テ前審ノ相被告吉村伊三郎ト連帶ニテ負擔スヘシ云
 身體ノ拘束

々ト言渡シ又右公訴ニ附帶セル私訴ニ付キ同年同月三十一日被告伊平ノ控訴ハ之ヲ棄却スル
 旨言渡タル判決ヲ不當トシ被告伊平ハ公訴私訴ニ付上告ヲ爲シ原院檢事ハ公訴ニ付キ答辯書
 チ差出シ民事原告人ハ私訴答辯書ヲ差出サス因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ
 審理判決スルコト左ノ如シ

公訴私訴上告趣意書前段ハ第一審公判始末書ヲ見ルニ被告人カ身體ノ拘束ヲ受クルコトナク
 シテ出廷シタルコトノ記載アルコトナケレハ該公判手續ハ違法ノモノナルニ原院カ其始末書
 チ探テ斷罪ノ證據ト爲シタルハ不法ナリ從テ公訴判決ノ理由ニ基キタル私訴判決モ不法ナル
 チ免カレスト云ノニ在リ○因テ該公判始末書ヲ檢スルニ上告論旨ハ如ク被告カ身體ノ拘束ヲ
 受クルコトナクシテ出廷シタルコトハ見ルヘキモハアルコトナケレハ則該公判手續ハ不法ハ
 モハト爲サイルヘカラス然ルニ原院カ其始末書ヲ探テ斷罪ノ證據ト爲シタルハ不法ナリ從テ
 公訴判決ノ理由ニ基キタル私訴判決モ不法ニシテ共ニ破毀スヘキモノトス已ニ此點ニ於テ原
 判決全部破毀スヘキモノト認ムル上ハ他ハ一々説明ヲ要セス

右ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第二百八十六條ニ從ヒ原判決公訴私訴全部ヲ破毀シ本件ヲ名古屋
 控訴院ニ移ス

明治三十年六月二十九日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事安居修藏立會宣告ス

大審院刑事判決録

大審院刑事判決録

第三輯 第七卷

○誣告ノ件

明治三十年第五九八號
明治三十年七月二日宣告

○判決要旨

誣告罪ハ告訴人ノ外他ニ實行正犯アルコトナシ而シテ告訴人ト共謀シ其代人トナリ告訴狀ヲ檢事ニ提出シタル所爲ハ從犯ナリ(第三輯第五卷四十八丁登載明治三十年第四三九號私印盜用參看ノ件)

(參照) 不實ノ事ヲ以テ人ヲ誣告シタル者ハ第二百二十二條ニ記載シタル偽證ノ例ニ照シテ處斷ス(刑法第三百五十五條)

重罪輕罪ヲ犯スコトヲ知テ器具ヲ給與シ又ハ誘導指示シ其他豫備ノ所爲ヲ以テ正犯ヲ幫助シ犯罪ヲ容易ナラシメタル者ハ從犯ト爲シ正犯ノ刑ニ一等ヲ減ス但正犯現ニ誣告罪ノ正犯

誣告罪ノ正犯

二

刑九條第百九條

行フ所ノ罪從犯ノ知ル所ヨリ重キ時ハ止々其知ル所ノ罪ニ照シ一等ヲ減ス

第一審 秋田地方裁判所大曲支部 第二審 宮城控訴院
被告人 蛭田吉藏 辯護人 沼田宇源太

右誣告被告事件ニ付明治三十年五月二十日宮城控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタルニ付刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ
上告趣意ハ凡ソ誣告罪ヲ構成スルニハ不實ノ事實ヲ以テ相當官吏ニ告訴告發スルヲ以テ一條件トス然ルニ原判決ニ於テ被告吉藏カ被告恒吉ノ相談ニ應シ通謀ノ上恒吉ノ代人トナリテ不實ノ告訴ヲ撰手區裁判所檢事代理ニ差出シタルモノト認定シ以テ被告吉藏ヲ誣告ノ共犯トナシ處罰セラレタルハ疑律ノ錯誤アル不當ノ裁判ナリ何トナレハ告訴本人ハ被告恒吉ニシテ被告吉藏ハ之カ代人トナリ告訴狀ヲ提起シタルモノナレハ吉藏ニ付テハ誣告罪構成ノ一要素ヲ欠クヲ以テナリト云フニ在リ辯護士沼田宇源太ノ上告理由擴張論旨モ亦右ノ旨趣ヲ敷衍スルニ外ナラス
○依テ案スルニ該上告論旨ハ適法ノ理由アルモノトス何トナレハ誣告罪ハ如キハ告訴者本人ハ外他ニ實行正犯者アルハキモハニアラス而シテ原院ハ認メタル所ニ依リハ上告人ハ爾地恒吉ト不實ノ告訴ヲ爲サンコトヲ共謀シタルモ唯其告訴ノ代人トナリ告訴狀ヲ檢事ニ提出シタルハミニシテ告訴本人ハ恒吉一人ナルヲ以テ則チ上告人ハ所爲ハ刑法第九條ニ所謂重罪輕罪ヲ犯スコトヲ知テ云々豫備ハ所爲ヲ以テ正犯ヲ幫助シ犯罪ヲ容易ナラシメタル者ニ該當シ同法第四百四條ニ謂フ所ハ二人以上現ニ罪ヲ犯シタルハト謂フヲ得サレハナリ依

テ原判決ニ於テ上告人ヲ正犯トシテ處斷シタルハ疑律錯誤ノ不法タルヲ免レヌ
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十六條同第二百八十七條ニ依リ原判決ヲ破毀シ本院ニ於テ直チニ判決スルコト左ノ如シ

右

蛭田 吉藏

原院ノ認メタル事實ハ刑法第三百五十五條同第二百二十條第二號及ヒ第九百九條ニ該當ス依テ被告吉藏ヲ重禁錮八月ニ處シ罰金拾圓ヲ附加ス
公訴裁判費用ハ第一審ノ相被告ト連帶負擔ス可シ
明治三十年七月二日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○詐欺取財等ノ件

明治三十年第六〇三號
明治三十年七月二日宣告

○判決要旨

公訴不受理ノ私訴

三

公訴不受理ノ私訴

四

公訴受理スヘカラスト裁判セラレタルトキハ其事件ニ附帯セル私訴ハ當然成立スヘキモノニアラス

第一審 名古屋地方裁判所岡崎支部 第二審 名古屋控訴院

公訴上告人 原田瀨七

公訴私訴上告人 中川莊三郎

私訴上告人 太田治三郎

明治三十年五月二十八日名古屋控訴院ニ於テ右瀨七莊三郎ニ對スル詐欺取財及證書滅盡委託金費消被告事件ノ被告ノ控訴檢事ノ附帯控訴及該公訴ニ附帯セル私訴ニ付民事原告人及各被告入ノ控訴ヲ審理シ公訴ニ付キ被告原田瀨七ヲ重禁錮八月附加罰金六圓ニ中川莊三郎ヲ重禁錮十月附加罰金八圓ニ處ス被告兩名ニ對スル金二十五圓ヲ騙取シタリトノ公訴及瀨七ニ對スル委託金費消事件ハ何レモ無罪トス檢事ノ起訴ナキ被告兩名ニ係ル證書騙取及證書偽造行使事件ハ孰レモ之レヲ受理セス押收書類ハ差出人ニ還付シ公訴裁判費用金ノ全部ヲ被告兩名ニ連帶負擔セシム及私訴ニ付原判決中賣買登記ヲ取消スヘシトノ判決及訴訟費用ノ點ハ之ヲ取消ス被告兩名ニ對スル三河國北設樂郡段嶺村大字松戸字澤尾七番山林一町歩共有持分ノ明治三十年一月二十八日付賣買登記ヲ取消スヘシトノ原告ノ請求ハ棄却ス被告中川莊三郎カ賠償金二圓ニ係ル控訴及原告ノ控訴ハ孰レモ棄却ス被告原田瀨七ニ係ル訴訟費用ハ第一審第二審

共據テ原告負擔スヘシ被告中川莊三郎及原告間ノ訴訟費用ハ一審二審共各自辨タルヘシト言渡タル判決ヲ不當トシ原院檢事ハ公訴判決中公訴不受理ノ點ニ付キ被告兩名ハ有罪ノ點ニ付キ各公訴ノ上告ヲ爲シ又被告莊三郎及民事原告人ハ私訴判決中自己ニ不利益ナル點ニ付キ各私訴ノ上告ヲ爲シ原院檢事ハ被告兩名ノ公訴上告ニ對シ被告兩名及民事原告人ハ私訴ニ付各答辯書ヲ差出シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審判スル左ノ如シ瀨七公訴上告趣意書ノ要領ハ本件ハ證書騙取ノ被告事件ニシテ而シテ證書騙取ト證書滅盡トハ固ヨリ其性質結果ヲ異ニスルモノナルニ原院ニ於テ之ヲ罪名ノ變更ニ過キササルモノト爲シ檢事ノ起訴ナキ證書滅盡ノ罪ヲ附シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○原院カ認メタル所ハ被告ハ最初登記ノ爲メニ太田治三郎ヨリ證書ノ委託ヲ受ケタル後惡意ヲ生シテ其證書ヲ滅盡シタルモノト爲スニ在リ即起訴狀ニ認ムル所ト其意見ヲ異ニシ最初授受セシ行爲ハ犯罪ニアラスシテ後之ヲ滅盡シタル行爲ニ付キ罪ヲ問フヘキモノト爲スニアレハ則同一ノ事實ニ付キ各其見ル所ヲ異ニシ從テ罪名ノ變更ヲ生シタルニ過キササルヲ以テ原判決ハ不法ニアラス○第二ハ被告カ證書ヲ滅盡シタリトノコトハ記録中見ルヘキモノアルコトナケレハ原判決ハ架空ノ認定ヲ爲シタルモノナリト云フニ在レトモ○原院カ認メタル事實ニ對スル證據ハ判文ニ明示スル所ナルヲ以テ架空ノ認定ニアラス畢竟本論旨ハ證據ニ付キ裁判官ト見解ヲ異ニスルニ過キササルヲ以テ上告原因トナラス

公訴不受理ノ私訴

五

莊三郎公訴上告趣意書第一點ハ瀨七ノ上告趣意書第一ト同一ナルヲ重テ説明セス就テ了解スヘ

シ「第二點ハ原院ハ被告ニ委託金費消ノ罪アリト認メタレトモ被告ハ返還スルコト能ハサルモ
 ノニアラサルハ未タ犯罪ヲ構成セサルモノナリ殊ニ被告カ費消シタリトコトハ見ルヘキ證
 據アルコトナキニ原院カ有罪ノ判決ヲ與ヘタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○委託金費消ノ
 罪ハ費消ニ依テ直ニ成立スルモノニシテ返還シ得ヘキ實力ノ有無ニ關係ナキモノトス他ハ事
 實ノ認定ヲ批難スルニ過キササルヲ以テ總テ上告ノ理由トナラス
 原院檢事上告趣意書ノ要領ハ本件ニ付キ檢事ノ起訴狀ニ掲記シタル事項ニ唯被告カ犯罪着手
 後ノ一端ヲ揭ケタルニ止マリ之ヲ以テ起訴ノ事項ヲ制限シタルモノニアラス殊ニ第一審裁判
 所カ認メタル總テノ犯罪ハ事實上相率聯シテ分ツヘカラサル事件ナルニモ拘ラス原院カ起訴
 ノ事項ハ起訴狀ニ掲記シタル事項ニ制限セルモノト爲シ從テ一部ノ犯罪ニ付キ公訴不受理ノ
 判決ヲ爲シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○本件詐欺取財事件ノ起訴狀ヲ檢スルニ其起訴
 ノ事項ト題スル欄内ニ金二拾五圓ト二圓ノ二口及山林賣渡約定書ヲ騙取シタルモノト明記シ
 アル上ハ本件ノ起訴ハ右ニ記載シアル事項ニ止マルモノト爲スヘキハ當然ナリ而シテ右起訴
 ノ事項ト原院カ公訴不受理ノ判決ヲ與ヘタル山林賣渡證書ノ騙取及證書偽造行使ノ行爲ハ事
 實上多少ノ關係ヲ有スルモノナルモ決シテ分ツヘカラサルモノニアラサルヲ以テ上告論旨ハ
 不成立

莊三郎私訴上告ノ要旨ハ本件ノ金八拾錢ハ勿論一圓二拾錢モ共ニ犯罪ニ因リ生シタル損害金
 ニアラサルニ原院カ私訴トシテ被告ニ損害賠償ヲ命シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○右

金壹圓貳拾錢ニ付テハ公訴判決ニ於テモ已ニ委託金費消ノ罪アリト爲シタルモノナレハ犯罪
 ニ因ル損害タルハ論ヲ待タス又同八十錢ニ付テハ原院文ニ説明セル如ク原院ニ於テ審理ノ未
 送ニ之ヲ委託金ニアラスシテ登記ノ爲メニ要スル日當金ナリト認メタルモ本ト犯罪ト認メタ
 ル公訴ニ附帶シテ請求シタルモノナルヲ以テ私訴トシテ判決ヲ與フヘキモノト爲シタルハ相
 當ナルニ付キ本論旨ハ不成立

治三郎私訴上告ノ要旨ハ一旦私訴トシテ裁判所ニ繫屬シタルモノハ公訴ノ成立若クハ消滅及
 犯罪ノ有無等ニ關係ナク其私訴ニ付キ本案ノ判決ヲ與フヘキハ刑事訴訟法第二百二十五條ノ
 規定ナルニモ拘ラス原院ニ於テ判文第一ニ於テ其公訴カ不受理ト爲タル理由トシテ私訴
 ノ請求モ受理スヘキモノニアラスト判決シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○其公訴ニシテ
 檢事ハ起訴ナキヲ以テ受理スヘカラサルモノト爲シタル場合ニ於テハ之ニ附帶セル私訴ハミ
 成立スヘキ理由アルコトナシ而シテ右刑事訴訟法ノ法條ハ此場合ヲ包括シタルモノニアラサ
 ルハ論ヲ待タス「第二ハ原院文第二ニ付キ原院ハ民事原告人ノ請求ヲ却ケタレトモ抑モ本件ハ
 山地タル不動産ノ騙取ナレハ其山地ハ贓物ナリ已ニ贓物ナル上ハ之カ登記ヲ取消又ハ登記ノ
 付替等ハ贓物返還ノ方法ニ過キササルモノナルニ原院ニ於テ本件賣買登記ノ請求ハ私訴トシテ
 訴フヘキモノニアラスト爲シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○原院文ニ詳説スル如ク本件
 被告ノ所爲ハ蓋ニ其自ラ太田治三郎ニ交付シタル不動産賣渡約定書即後日登記ヲ爲シ得ヘキ
 證書ヲ滅盡シタルニ過キササルモノナレハ其犯罪ヲ原由トシテ新ニ其賣買ノ登記ヲ爲サシメン

トスルハ附帶私訴ノ範圍ヲ脱スルモノナルヲ以テ原院カ其請求ヲ許容セザリシハ相當トス
以上ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件公訴私訴ノ上告ハ總テ之ヲ棄却ス
私訴上告費用ハ各上告人ニ於テ各其上告ニ係ル部分ヲ辨償スヘシ
明治三十年七月二日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○官印盜用山林盜伐ノ件

明治三十年第五八九號
明治三十年七月五日宣告

○判決要旨

正犯ノ實行シタル場所ヲ判示シタル以上ハ從犯ノ器具ヲ給與シタル場所ヲ判
示スルノ要ナシ

第一審 靜岡地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 小林徳太郎 辯護人 關 幸太郎
高木益太郎

明治三十年五月二十六日東京控訴院ニ於テ右徳太郎カ官印盜用山林盜伐被告事件ノ控訴ヲ審
理シ第一審判決ヲ取消シ更ニ被告徳太郎ヲ重禁錮四年六月監視一年六月ニ處スト言渡シタル

判決ヲ不法トシ被告ヨリ上告ヲ爲シタルニ因リ大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定
式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ

被告カ上告ノ要旨ハ本件ニ於ケル被告人徳太郎カ官印盜用罪ニ關スルコトハ一件記録中見ル
ヘキモノナシ然ラハ認定ノ材料ナキカ故ニ之ニ有罪ノ判決ヲ下サルハ無根據ノ事柄ヲ臆セ
ラルト一般ナルヲ以テ正當ノ判決ニアラス因テ原判決ノ破毀ヲ請求スト云フニ在リテ
○原
承審官ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ非難スルニ過キサルヲ以テ上告ノ理由ト爲ラス
辯護人關幸太郎カ上告擴張書ノ要旨ハ被告徳太郎ニ對スル判決ノ理由ニ依レハ被告入悔一奉
二島五郎等ハ如何ナル手續ヲ以テ徳太郎ニ對シ其情ヲ明シタリヤ又如何ナル方便ヲ以テ官ノ
字ノ記號アル印章ヲ借り受クルコトヲ徳太郎ヲシテ承諾セシメタルヤ又悔一等三名ノ内一人
カ徳太郎ニ對面シタリヤ又二名或ハ三名トモ對面シテ以テ其事ヲ談シタルヤノ事實ノ見ルハ
キモノナシ是レ判決ニ理由ヲ附セサルモノト云ハサルヘカラス抑モ犯罪ノ事柄ヲ他人ニ明シ
其人ノ幫助ヲ受クル等ノ事ハ店頭ニ物品ヲ買フ如ク容易ニ云ヒ出ツヘキモノニアラス必ラス
利ヲ以テ誘フカ又ハ其他ノ方便ヲ以テ其同意ヲ要メサル可ラス否ラサレハ容易ニ同意ヲ求ム
ヘカラサルヤ勿論ナレハナリ然ルニ原判決理由ヲ見ルニ只徳太郎ニ其情ヲ明シ印章貸與ヲ要
メタルニ徳太郎ハ右印章ヲ貸與シタリトアリテ其手續即チ理由ヲ明示セス恰モ店頭ニ物品ヲ
買フ如ク容易ク其貸與ヲ要メ乃チ貸與ヲ得タルモノ、如ク爲シタリ斯クノ如キ事柄ハ有リ得
ヘカラサル筋ナルヲ以テ之ヲ爲シタリトセハ其事情ヲ明示スルヲ要ス而シテ其事由ノ明示ナ

シ是レ判決ニ理由ヲ付セサル失當アリト云フニ在レトモ○原判決ヲ査閱スルニ被告徳太郎ハ被告恠一外二名カ御料地ノ樹木ヲ盜伐セント共謀シタル其情ヲ知テ其保管ニ係ル印章ヲ貸與シ以テ恠一等カ犯行ヲ容易ナラシメタル事實ヲ認メアレハ犯罪構成ノ事實ハ充分ナルヲ以テ理由ヲ付セサル不法アリト云フヲ得ス要スルニ名ヲ理由不備ニ籍リ事實認定ノ非難ニ外ナラスシテ上告適法ノ理由ナシ

辯護人高木益太郎カ辯明書ノ第一ハ官印盜用罪ハ其官印ヲ盜捺シテ他人ニ之ヲ行用シタル事實アルコトヲ要ス然ルニ原判決事實理由ニ依レハ何人カ盜捺ノ官印ヲ目撃シタル乎又何人カ之ヲ他人ニ對抗シタル乎毫モ盜印ヲ第三者ニ行用シタル事實ヲ説明セサルニモ拘ラス雖ス刑法第百九十七條等ヲ適用シタルハ理由不備ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○本件被告恠一等カ御料地ニ生立スル樹木ヲ盜伐センカ爲メ御料局カ拂下ノ樹木ニ押用スル印章ヲ盜捺シ拂下ヲ受ケタルモノト如ク爲シタルト同時ニ官印盜用罪ハ成立シタルモノニ付原判決ハ理由不備ニアラス因テ本論旨モ上告ノ理由ナシ

同第二ハ上告人カ犯情ヲ知テ器具ヲ給與シタル場所ヲ説明シアラス乃チ事實理由ヲ缺キタル裁判ナリト云フニ在レトモ○原文ニ正犯タル被告恠一等カ官印盜用ノ場所ヲ明カニ示シハ以上ハ其從犯タル被告徳太郎カ器具ヲ給與シタル場所ハ如キハ之レヲ示スハ要ナシ

同第三ハ官印盜用罪ニ就テハ其官印ハ即チ罪體ニシテ犯罪ヲ容易ナラシムル物件ニアラス然ルニ刑法第百九條ニ所謂器具ノ給與ハ犯罪ヲ容易ニスル器具ヲ給與シタル場合ニ限ルモノナ

レハ本件ノ場合ニ上告人ヲ器具給與ノ從犯トシテ處斷シタルハ違法ノ裁判ニシテ刑法第二條ニ依リ無罪タルヘキモノナリト云フニ在レトモ○被告カ保管スル所ノ印章ヲ貸與シ以テ恠一等ノ犯罪ヲ容易ナラシメタルモノナレハ刑法第百九條ニ所謂器具ノ給與タルコト勿論ナリ故ニ同法條ヲ適用シタル原裁判ハ相當ニシテ毫モ不法ニアラス

同第四點ハ上告人ニ對シテハ官印盜用ノ起訴アリシモノニアラス然ルニ原判決カ有罪トナシタルハ不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○明治二十九年三月十日付テ被告徳太郎ニ對シ恠一外數名ノ共犯者トシテ起訴アリシコトハ一件記録ニ徴シ明瞭タレハ本論旨モ亦上告ノ理由ナシ

右ノ如クナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ則リ本案上告ハ之ヲ棄却ス
 明治三十年七月五日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス

○監守盜ノ件

明治三十年第六二四號
 明治三十年七月五日宣告

○判決要旨

意思繼續ノ事實ヲ認定スルハ裁判官ノ職權ニ屬ス

意思ノ認定

公訴私訴上告人 花井源兵衛 辯護人 志賀 盛
私訴被上告人 青山五郎右衛門

右源兵衛カ監守盜被告事件及附帶私訴事件ノ控訴ニ付明治三十年五月二十七日東京控訴院ニ於テ審理ノ未公訴ニ付テハ原判決中監守盜ニ關スル部分ハ之ヲ取消ス被告源兵衛ヲ輕懲役七年ニ處ス差押品ハ差出人ニ還付スト言波シ私訴ニ付テハ本件控訴ハ之ヲ棄却ス控訴ニ關スル訴訟費用ハ控訴人ノ負擔トスト言波シタル判決ニ對シ被告源兵衛ハ上告ヲ爲シタリ
大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ
公訴上告趣意書ノ要旨第一點ハ本件ニ付被告カ明治二十九年十二月八日捧呈シタル精算書ノ如クナルヲ以テ犯罪ノ事實ナキハ明白ナルニ原院ハ其事實ヲ誤認シ之ヲ有罪ナリト斷定シ地方裁判所ノ判決第一ヨリ第三ニ至ル數罪ヲ一罪ナリト認メ刑法第百條ヲ適用セサルハ不當ナリト云フニ在リテ
○原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ非難スルニ過キス適法上告ノ理由ナシ
同第二點ハ公借金利息百二十四圓四十八錢ヲ消費セリトノ點ニ付テハ審理不盡且法律ニ違背シタル裁判ト云ハサルヘカラス其理由ハ第一明治二十九年七月二日公判廷ニ於テ公借金ニ付テハ郡役所カ關係アルニヨリ北豐島郡役所ヘ照會アラントテ請求セシ處原院ハ其要點ヲ取糺シ檢事ノ意見ヲ聽カレ而シテ會議ノ上許否ヲ決定スヘキ旨ヲ以テ閉廷シタリ然ルニ次回ノ開廷ニ於テ照會セシヤ否ヤ何等ノ示シモナク且其許否何レニ決セシヤ其言波ヲ爲サルハ違

法ナリ第二二十四年公借金利息四十圓ハ二十四年五月十四日收入後藤源兵衛ヨリ受取同日直ニ三井銀行ヘ回送シアルニヨリ其領收證ヲ以テ立證シ被告カ消費ノ事實ナキ旨疏明セシニモ拘ハラス之ヲ非認シタルハ探證法ヲ誤リタルモノナリ第三二十三年度ノ公借金利息八十四圓四十八錢ニ付テハ其精算ノ當否ヲ參考人青山五郎右衛門ニ問ヒナカラ二十四年度分四十圓ニ付テハ何等ノ意見ヲモ問ハサルノミカ被告カ立證シタル其領收證ヲ參考人ニ示サス直ニ裁判ヲ爲シタルハ不當ナリト云フニ在レトモ
○原院ハ明治三十年三月二十五日ノ公判ニ於テ全ク審理ヲ更改シタルモノナンハ其前回ノ公判ニ於ケル被告ノ請求ニ付許否ノ決定ヲ與ヘザリシモ決シテ適法ニ非ス此他ノ論旨ハ原院ノ職權ニ屬スル證憑ノ取捨又ハ審理ノ方法ニ付漫ニ非難ヲ試ムルニ過キス一モ適法上告ノ理由ト爲ラス
第三點ハ豫審判事ハ證人藤原源兵衛吉川勝次郎ト民事原告人青山五郎右衛門ト親屬ノ關係アルヤ否ヤヲ取調ヘス然ルニ原院カ此違法ノ證人ノ證言ヲ以テ裁斷セラレタルハ違法ナリ又被告ニ送達セラレシ豫審終結決定書第四ノ點ニ板橋學校共有金ト其學校ノ二字ヲ欄外ニ記入シナカラ之ニ證印ナキハ刑事訴訟法第二十一條ニ背キ其効ナク不完全ノ豫審終結決定書ナリト云フニ在レトモ
○證人吉川勝次郎等ノ豫審調書ヲ査閱スルニ刑事訴訟法第二百二十三條第百二十四條ニ記載セル條件ニ付取糺シタル處其抵觸ナキヲ認メタルヲ以テ證人トシテ訊問スヘキ旨ヲ告ケ式ニ從テ宣誓セシメタリト明記シアレハ前段ノ論旨ハ其謂レナキモノトス又後段ノ論旨ニ基キ豫審終結決定原本ヲ査閱スルニ板橋學校共有金百二十圓云々ト記載シアリテ其學校ノ二字ハ欄外ニ記入シタルモノニ非

ス故ニ被告ニ送達シタル決定正本中其所論ノ如キ瑕癘アリトスルモ以テ原本ノ効力ヲ減殺スルニ足ラス殊ニ右決定ノ確定シタル今日ニ至リ此ノ如キ苦狀ヲ唱フルモ固ヨリ以テ適法上告ノ理由ト爲ラサルナリ同第四點ハ被告カ明治二十九年十二月八日付テ以テ精算書ヲ捧呈シ立證スル書類ハ總テ板橋町役場ノ公書ナルニ原院ハ之ヲ不當ニ認メ民事原告人ヨリ差出シタル決算表ヲ真正ナリトシ而シテ其理由ヲ付セサルハ不當ノ裁判ナリ右立證ノ書類ニ付テハ參考人青山五郎右衛門ニ示シ認否ヲ問フヘキハ其事ナカリシハ不當ナリ又參考人ノ陳述ニ付テハ參考人ニ被告ノ意見ヲ問フヘキニ之ヲ問ハサリシハ違法ナリト云フニ在レトモ○前段ハ證據ノ取捨ヲ非難スルニ過キス中段後段ハ原院ハ青山五郎右衛門ノ原院公延ニ於ケル陳述ヲ證據ニ採用セサリシヲ以テ假ニ其審理ノ手續ニ失當ノ際アリシトスルモ以テ原判決破毀ノ理由ト爲スニ足ラス因テ以上ノ論旨ハ執レモ相立タス

上告趣意擴張書ノ要旨第一點ハ原院ハ本件ヲ繼續犯ナリトシタルモ町村制施行ニ付テハ從來ノ戸長ハ其町村ト共ニ廢滅シタルヲ以テ其意思カ繼續スヘキ謂レナク被告カ新ニ町會ニ於テ町長ニ公選セラレシハ偶然ノ結果ニ外ナラス而シテ町村制ニ依リ收入役ヲ公選シ金錢ノ收支ハ一切收入役ノ職務ニ屬スルヲ以テ町長自ラ監守スルヲ得ス然レハ意思カ繼續スル謂レナキハ條理上明ナリ加之法律ノ改廢ニ依リ三時代即チ第一ハ戸長第二ハ公吏第三ハ公吏カ官吏ノ資格ヲ得タル時代ヲ經過セシモノニシテ二十三年四月以後收入役藤原源兵衛ノ囑託ヲ受ケ金錢ヲ取扱ヒタルハ偶然ノ出來事ナレハ意思ノ繼續シタリト云フヲ得サルハ勿論ナリト云フニ

在レトモ○意思ノ繼續シタリト云フヲ得サルハ勿論ナリト云フニ

旨ハ原院カ數罪トセス一罪トシテ處斷シタルヲ非難シ結局被告ノ不利益ニ歸スルモノナレハ到底上告ノ理由ト爲スコトヲ得ス同第二點ハ被告カ費消シタリト云フ百二十圓ニ付テハ第一審判決ハ明治二十三年三月二十六日被告カ受取リタリト認定シタルニ原院ハ明治二十二年三月二十六日受取リタルモノ、如ク改メ又第一審判決ハ板橋學校共有金ト認定シタルニ原院ハ之ヲ板橋共有金ト變更シタルニ拘ハラズ第一審判決ヲ取消サス且其理由ヲ說明セサルハ不當ナリ之ヲ證據ニ徵スルモ板橋學校共有金ヲ費消シタル事實ハ存在スルモ板橋共有金ヲ費消シタル事實ナキニ付原判決ハ不當ナリト思惟スト云フニ在レトモ○第一審判決原本ニモ明治二十二年三月二十六日云々トアリテ原判決ノ認定シタル時日ト異ナル所ナシ唯第一審判決ハ板橋學校共有金トシ原院ハ板橋共有金トシタルノ差アルモ其月長ノ管理ニ屬スル公金タルコトハ同一ナレハ毫モ犯罪成立上ニ影響ヲ及ホスコトナシ況ンヤ原院ハ他ノ理由ヲ以テ第一審判決ヲ取消シタルモノナレハ此變更ニ付別ニ說明ヲ與フルノ要ナキカ故ニ旁々以テ原判決ハ不當ニ非ス餘ハ事實認定ノ非難ニ止マリ固ヨリ適法上告ノ理由ト爲ラス同第三點ハ原院ハ某鴨村ハ送致スヘキ金五十九圓九十五錢四厘ヲ町長ノ職務トシテ執行ノ爲メ役場ヨリ受取云々ト說明スルニ二十三年度ニ在リテト云ヒ其月日ヲ明記セサルハ不當ナリ證據ニ依レハ被告カ右金圓ノ内若干ヲ費消シタルハ十一月以前ナルカ故ニ二十三年法律第百號ヲ適用スヘキモノニアラス然ルニ之ヲ適用シタルハ不當ナリ又原判決ハ板橋町ノ内元金井筵及ヒ中村ヨリ徵取シ

町ノ歳入中云々ト説明セラレシモ該金五十九圓九十五錢四厘ハ菓鴨村會ノ議決スル處ニ係リ
 同村役場ヨリ囑託セラレタルモノナレハ性質上町ノ歳入ニ加フルコト能ハサルモノナリ故ニ
 原判決ハ誤謬ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○被告カ此所爲タル假ニ明治二十三年法律第百號
 施行以前ニ在リタリトスルモ原院ハ之ヲ以テ則ニ一罪ヲ構成スルモノト認メス同法律施行後
 ノ所爲ト相合シテ一罪ヲ構成スルニ過キスト爲シタルモノナレハ其最後ノ所爲即チ純然タル
 監守盜ニ對シテ適用スヘキ同法律ヲ適用シタリトテ之ヲ被告ニ不利益ナル失當ノ裁判ト論ス
 ルコトヲ得ス隨テ其所爲ノ二十三年度ニ在リタルコトヲ明示スル上ハ其月日ヲ記載セサルモ
 事實理由ノ不備ナリト云フヘカラス後段ノ論旨ハ事實認定ノ非難ニ過キサレハ適法上告ノ理
 由ト爲ラス同第四點ハ原判決カ第二第三ノ所爲ヲ監守盜ナリトシテ處斷シタルハ不當ナリ町
 長ハ収支命令ノ職權アルモ金錢ノ保管ハ收入役ノ職務ニ屬スルカ故ニ縱令被告カ金錢ヲ預ル
 モ收入役間トノ私ニ歸スルモノニシテ法律上町長ノ職務ト云フコトヲ得ス又原判決ニハ三井
 銀行ヘ支拂トシテ執行ノ爲メ町長ノ職務上受取云々トアルモ收入役カ三井ヘ支拂トシテ仕出
 シタル證據ナシ收入役ハ徵收シタル現金ヲ自ラ保管スヘキヲ私交上被告ニ預ケ未タ三井ヘ支
 拂トシテ仕出チ爲ササル以前被告ハ他ニ立替アル方ヘ充用セン爲メ收入役代理青山五郎右衛
 門ノ承諾ヲ得テ一時借受ケ其儘精算ヲ滞リタルカ故收入役ハ三井ヘ支拂ノ手續ヲ爲スコト能
 ハス數月經過シタル譯ナリ又原院カ説明スル旨趣ハ第一審判決ト全ク事實ヲ異ニスルニ拘ラ
 ス之ヲ取消ノ理由ト爲サハルハ不當ナリト云フニ在レトモ○原判決ノ認メタル如ク町長ノ職務

トシテ町會ノ決議執行ノ爲メ金圓ヲ役場ヨリ請取リタル上ハ其金圓ヲ保管シ監守スヘキ責任
 アルコト勿論ナレハ原判決カ監守盜トシテ處斷シタルハ相當ニシテ前段ノ論旨ハ相立タヌ又
 原判決ハ此點ニ付第一審判決ト事實ノ認定ヲ異ニシタルコトナケレハ後段ノ論旨ハ固ヨリ其
 理由ナク中段ノ論旨ハ事實認定ノ非難ニ外ナラサレハ是レ亦相立タサルモノトス同第五點ハ
 原判決第一第三ノ所爲ニ付キ檢察ノ公訴ナキニ附帶私訴ヲ受理シ且豫審ヲ爲シ而シテ其豫審
 調書ニ依リ裁判ヲ爲シタルハ不當ナリト云フニ在レトモ○右第一第三ノ所爲ハ繼續犯中ノ一
 部分ニ過キサレハ假ニ檢察ノ豫審請求書及ヒ之ニ添付シタル書類中何等記載スル所ナシトス
 ルモ是等ノ所爲ハ當然右豫審請求書ニ記載シタル監守盜事件ノ公訴ニ包含セラレトモトス
 因テ本論旨モ亦相立タヌ

辯護士志賀盛カ上告趣意擴張ノ要旨ハ原判決第一ニ被上告人ハ云々明治二十二年三月二十六
 日云々トアリ又第三ニ被告人ハ明治二十三年度ニ在リテ云々トアリテ何レモ明治二十三年法
 律第百號實施前ノ犯罪ナルコトヲ認メナカラ該條ヲ適用セシハ擬律ノ錯誤ナリ且單ニ明治二
 十三年度ト記載セシ迄ニテ月日ヲ明示セサルハ理由ノ不備ナリト云フニ在レトモ○右ハ被告
 カ上告擴張論旨第三點ニ對スル辯明ニ依テ了解シ得ヘキニ付茲ニ復説セス私訴上告趣旨書ノ
 要旨ハ本件ニ付被告カ明治二十九年十二月八日付チ以テ捧呈シタル精算ノ如ク被告ニ於テ發
 消ノ事實ナキハ勿論若シ之アリトスルモ被告ハ收入役藤原源兵衛ヨリ私ニ預リタルモノナレ
 ハ同人ニ對シ辨償ノ義務アリトスルモ板橋町ニ對シテハ更ニ責任ナキニ依リ原判決ハ不當ナ

リト云フニ在リテ○事實ノ認定ヲ非難スルニ過キス適法上告ノ理由ナシ
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ則リ本件公訴私訴ノ上告ハ共ニ之ヲ棄却ス
私訴上告ニ關スル費用ハ被告之ヲ負擔スヘシ

明治三十年七月五日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス

○監守盜ノ件

明治三十年第五八一號
明治三十年七月六日宣告

○判決要旨

(判旨第二點) 民事原告人タル檢事ニシテ裁判長ノ指示スル相當ノ座席ニ着席
セザルトキハ出頭セザルモノト見做スコトヲ得(第三輯第三卷二十七丁登載明
件私訴ノ
私訴ノ)
(判旨第三點) 斷獄則例ハ檢事カ檢察事務ヲ執ル場合ノ規定ニシテ民事訴訟人
トシテ出廷スル場合ヲ包含セズ

(參照) 斷獄ノ位置右ヲ上トシ刑事審判部ヲ距ルコト五尺解部判事ノ左リ中階ニ在リ檢
事判事ノ右斜メニ面ス(下署)斷獄則例(第六則)

(同) 上 檢事ニシテ民事訴訟人トシテ出廷スル場合ニアリテハ國庫ノ代
表者タル資格ヲ有スルトキト雖モ一般民事訴訟人ノ座席ニ於テ辯論スヘキモ
ノトス

第一審 神戸地方裁判所 第二審 大阪控訴院

公訴私訴被告 堀江清美

私訴上告人 大坂控訴院檢事 柿原義則

明治三十年五月十三日大阪控訴院ニ於テ右清美ニ對スル監守監被告事件ノ公訴ノ控訴及公訴
ニ附帶セル私訴ニ付キ檢事ノ控訴ヲ審理シ公訴ニ付キ原判決ヲ取消シ更ニ被告清美ヲ無罪ト
ス差押物ハ差出人ニ還付ス公訴ニ關スル訴訟費用金三十錢ハ國庫ノ負擔トスト言渡シ又私訴
ニ付キ本件控訴ハ之ヲ棄却ス私訴ニ關スル訴訟費用ハ控訴人之ヲ負擔スヘシト言渡シタル判
決ヲ不當トシ原院檢事ハ公訴私訴ニ付キ上告ヲ爲シ對手人被告清美ハ公訴ニ付キ答辯書ヲ差
出シ私訴ニ付キハ答辯書ヲ差出サス因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審理判決
スルコト左ノ如シ
公訴上告趣意ハ被告事件無罪ナルトキト雖トモ刑事訴訟法第二百三條第二項ニ從ヒ其理由ヲ

檢事ノ民事原告人トシテノ座席○斷獄則例ノ適用

明示セサルヘカヲサルニ原判決ハ單ニ犯罪ノ證據充分ナラストノミ説示シ其理由ヲ明示セサルハ理由不備ノ判決ナリト云フニ在レトモ○原判決ニ犯罪ノ證據充分ナラスト説示シタルハ則無罪ノ理由ヲ掲ケタルモノナルヲ以テ理由不備ニアラス

私訴上告趣意書ノ要領ハ本件ニ付キ公判期日民事原告人タル當該檢事カ檢事席ニ着席シ居リタルコトハ公判始末書ニ明記スル所ナルニ原院カ之ヲ出頭セサルモノト爲シタルハ事實ノ捏造ナリ若シモ檢事カ下段ノ席ニ着席セサリシヲ以テ欠席者ト看做シタルモノナレハ其理由及法條ヲ明示セサルヘカヲサルニ之ヲ爲サルハ不法ナリト云フニ在レトモ○民事原告人タル檢事カ裁判長ハ指示シタル相當座席ニ着席セサルヲ以テ之ヲ不出頭ト爲シタルモノハナルコトハ公判始末書ニ明カナルヲ以テ原院ハ事實ヲ捏造シタルモノニアラス而シテ其欠席者ト爲シタル理由等ハ之ヲ判文ニ明示スルノ必要ナキモノトス同擴張書ノ要領ハ檢事ノ職席ハ斷獄則例及司法大臣ノ訓令ニ依リ既ニ一定ノ座席アリテ何人モ之ヲ變更スルヲ許サズ故ニ檢事カ國ヲ代表シ民事上原告又ハ被告タル職務ヲ行フトキト雖トモ裁判長ニ於テ擅ニ之ヲ左右シ得ヘキモノニアラス假リニ此場合ニ於ケル一定ノ成規ナシトスルモ裁判長カ檢事ノ座席ヲ變更シ檢事方之ニ從ハサルヲ以テ直ニ欠席者ト爲シタルコトハ全國中一モ其慣行アルヲ見ス却テ大審院其他ニ於テ裁判長ノ諾否ヲ待タスシテ上段檢事席ニ於テ民事原告人又ハ被告入トシテ檢事カ其職務ヲ執行シタル實例アリトス然ルニ原院ニ於テ自ラ以テ慣行ナリトシ檢事カ下段ニ着席セサルヲ以テ出頭セサル者ト爲シ欠席判決ヲ爲シタルハ不法ナルニ依リ其判決ハ破毀セ

判官第二點

判官第三點

ラルヘキモノナリト云フニ在レトモ○斷獄則例ハ單ニ檢事カ檢察事務ヲ執ル場合ニ付テハ規定ニシテ民事訴訟人トシテ出廷スル場合ヲ包含セズ其他此場合ニ對スル法令又ハ一定ノ慣例ト認ムヘキモノナキヲ以テ法令檢事カ司法省令ニ依リ國庫ハ代表者トナルトキト雖トモ已ニ民事訴訟人トシテ訴訟ニ立ツ上ハ裁判長カ便宜其座席ヲ變更シタル場合ハ外一般民事訴訟人ハ坐席ニ着席シテ辯論スルヲ相當トス故ニ原院ニ於テ民事原告人タル檢事カ裁判長ノ指示ニ從ハスシテ一般民事訴訟人ノ座席ニ於テ辯論セサルヲ以テ之ヲ期日ニ出頭セサルモノト爲シ欠席判決ヲ爲シタルハ違法ニアラス

以上ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件公訴私訴ノ上告ハ總テ之ヲ棄却ス私訴上告費用ハ上告人ノ負擔トス

明治三十年七月六日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事安居修藏立會宣告ス

○水利妨害ノ件

明治三十年第五一七號
明治三十年七月八日宣告

○判決要旨

水利工事ノ毀廢

他人カ舊慣ニ背キ擅ニ施シタル水利ニ關スル工事ヲ破壊スルモ刑法第四百十三條ニ謂フ所ノ水利妨害ノ罪ヲ構成セズ

(參照) 他人ノ便益ヲ損シ又ハ自己ノ便益ヲ圖ル爲堤防ヲ決潰シ水開ヲ毀壞シ其他水利ヲ妨害シタル者ハ一年以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス(刑法第四百十三條)

第一審 横濱地方裁判所 第二審 東京控訴院

公訴私訴被上告人

勝俣澤次郎
市川文次郎
須永傳藏

私訴上告人

小林由太郎
横山健吉
服部大輔
平井喜十郎

杉山利十郎
菅沼佐太郎
佐久間信久

訴訟代理人 鈴木充美

右澤次郎外二名ニ對スル水利妨害被告事件及之ニ附帶スル私訴ニ付明治三十年三月三十一日及同年四月十九日東京控訴院ニ於テ言渡シタル公訴及私訴ノ判決ニ服セス公訴判決ニ對シテハ原院檢事長野村維章ヨリ私訴判決ニ對シテハ小林由太郎外六名代理人鈴木充美ヨリ各上告ヲ爲シタルニ依リ裁判所構成法第四十九條ニ依リ本院刑事部聯合シ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審理スル左ノ如シ

ケ村ニ於テ田地灌溉ノ爲メ幕府ノ許可ヲ受ケ云々兼テ湖水ノ水量ヲ過度ニ減少セシメサル爲メ逆川口即湖水ノ早川ニ落ッル所ニ堰留工事ヲ施シ云々爾來水開ハ勿論堰留工事モ亦深良村外二十八ヶ村ノ管理ニ屬シ被告等町村ニ於テハ之ニ干與シタルコトナカリシ云々ト掲ク又被告澤次郎文次郎傳藏カ協議ノ上明治二十九年四月二十三ノ兩日多數ノ人夫ヲ使役シテ神奈川縣足柄下郡箱根ノ湖水尻ナル逆川口ニ靜岡縣駿東郡深良村外六ヶ村ニ於テ湖水ノ早川ニ流下スルヲ防ク爲メ野面石ヲ以テ蒲鉾形ニ築キ置タル甲ヲ伏セ又ハ總服ト稱スル堰留ニケ所ノ内一ハ之ヲ埋立テ一ハ之ヲ破壊シタル事實ハ明白ナルモ云々ト掲ケタル所ヲ正當ニ解釋スルハ當院ハ第一逆川口ニ於テ甲ヲ伏水利工事ハ駿東郡深良村外六ヶ村ノ築造ニ係リ同工事ニ付テノ管理權ハ即チ駿東郡深良村外六ヶ村ニ專屬スル事實第二被告等ニ於テ逆川口ニ於ケル甲ヲ伏水利工事ヲ駿東郡民ノ承諾ヲ得スシテ擅ニ破壊シタル事實ヲ認メタルモノト看做サトルヲ得ス而シテ本院カ右ノ認定ヲ爲シタルニモ拘ハラス被告等ノ所爲ヲ罪トナラスト爲シ之ニ對シテ無罪ヲ言渡シタル理由ハ左ノ四項ニ歸着ス第一項駿東郡民ハ湖水ノ專用權ヲ得タルモノニアラス即被告等町村ハ古來自然ニ有スル湖水ノ使用權ヲ全ク喪失シタルモノニアラサルコト第二項近年ニ至リ駿東郡民ノ自己ノ管理内ニ在ルヲ奇貨トシテ舊慣ニ背キテ平時ト雖モ水開ノ戸一枚開放シ置キ以テ湖水ノ早川ニ流下スルヲ阻害シタル形跡アルコト第三項近年ニ至リ駿東郡民ハ自己ノ管理内ニ在ルヲ奇貨トシテ舊慣ニ背キ修繕ト稱シテ漸次逆川口ノ甲ヲ伏セ水利工事ヲ高クシ以テ湖水ノ早川ニ流下スルヲ阻害シタル形跡アルコト第四項被告等ハ

其町村ノ水利委員トシテ其町村ノ有スル湖水使用權ヲ保護スル意思ヲ以テ本案ノ行爲ニ及
タルコト然ルニ右四項ノ理由ハ被告等本案ノ所爲即管理權カ駿東郡民ニ專屬スル逆川口甲
伏セ水利工事ヲ同郡民ノ承諾ヲ得スシテ擅ニ破壞シタル被告等ノ所爲ヲシテ刑法上無制裁
ヲシムルニ足ラス其所以左ノ如シ

右第一項ニ付駿東郡民カ湖水ノ專用權ヲ得タルモノニ非ス若クハ被告等町村カ自然ノ湖水使
用權ヲ全ク喪失シタルモノニ非ストノ認定ハ絶對的無證據ノ認定ナリ何トナシハ本案ニ關ス
ル證據ヲノ證據方法中絶テ此認定ヲ資クルモノナキノミナラス被告等町村ハ往時ハ實ニ湖水ノ
需用ヲ有セサリシ處近年ニ至リ耕牧舎ノ開設等ニヨリ頓ニ其需用ヲ惹起シタルモノナルコト
明白ナレハナリ而シテ今特ニ此不當ノ認定ヲ基礎トシテ立論センニ被告等町村ヲ駿東郡民ト
齊シク湖水使用ノ權利ヲ有スルコトハ被告等ニ駿東郡民ヨリ水利上ノ損害ヲ受ケタリト信シ其救
濟ヲ得ント欲セハ民事裁判所若クハ刑事裁判所ニ向テ駿東郡民ヲ訴追スヘキ一途アルノミ然
ルニ被告等ニ於テ事此ニ出テス願フニ民事訴訟上被告ノ位置ニ立ツノ利益ヲ占メン爲メ白晝
多數ノ人夫ヲ指揮シ暴行ヲ以テ駿東郡民ノ甲ヲ伏水利工事ヲ破壞シタルハ法治國ノ秩序ヲ紊
亂スルモノニシテ其無政府的所爲ハ疑モナク水利妨害ノ罪ヲ構成スルモノナリ
第二項ニ付近年ニ至リ駿東郡民カ舊慣ニ背キ平時ニ於テ水門ノ戸一枚ヲ開放シ置キ隨テ湖水
ノ早川ニ流下スルヲ阻害シタリトノ事實ハ之ヲ眞實ナリト爲スモ依テ以テ被告等本案ノ所爲

カ罪トナラスト結論スルヲ得ス今駿東郡民カ水門ヲ廣メテ例ヘハ幅員數十間ノモノト爲シタ
リト假定センニ其出來事ハ或ハ被告等カ同郡民ニ對シテ民事ノ訴訟ヲ提起スル原因トナルモ
被告等ノ逆川口甲ヲ伏水利工事ニ對スル法律的關係ハ舊モ變更スルコトナシ即被告等ハ爲メ
ニ俄ニ甲ヲ伏水利工事ヲ破壞スルノ權利ヲ取得スルコトナシ

第三項ニ付近年ニ至リ駿東郡民カ舊慣ニ背キ修繕ト稱シテ漸次逆川口ノ甲ヲ伏水利工事ヲ高
クシテ湖水ノ早川ニ流下スルヲ阻害シタリトノ事實ハ之ヲ眞實ナリトナスモ亦依テ以テ被
告等本案ノ所爲ヲ罪トナラスト認定スルヲ得ス抑モ修繕ト稱シテ漸次逆川口ノ堰留ヲ高クシ
云々形跡アルニ因リトノ認定ハ亦絶對的無證據ノ認定ナリ當院ハ其判決ヲ爲ス便宜ノ爲メ此
ノ如キ架空ノ事項ヲ想像シタルニ過キス而シテ其想像サレタル事實ニ基キテ立論センニ被告
等ハ暴行ニ對抗スルニ暴行ヲ以テシタルモノト論斷スルノ外ナシ若クハ被告等ハ個人的争件
ヲ私擅ニ裁判シタルモノト論斷スルノ外ナシ我法治國ニ在テ被告等ノ所爲カ犯罪トナラサル
ニ於テハ個人ハ自ラ隨意ニ其争件ヲ裁判シ自ラ隨意ニ強制執行ヲ爲シ司法制度カ多數ノ場合
ニ無用物タルノ結果ヲ生ス可シ故ニ被告等ノ所爲ハ犯罪的行爲ト見做サル可カラサルナリ
殊ニ云々漸次逆川口ノ堰留ヲ高クシテ諸ニ據レハ當院ハ第一甲ヲ伏ニ駿東郡民カ近年ニ至リ
不當ニ高クシタル部分アルコトヲ認メ第二甲ヲ伏ニ舊慣ニ依ル正當ノ部分アルコトヲ認メタ
ルヲ見ルナリ則此認定ノ趣意ヲ推ストキハ駿東郡民カ近年ニ至リ不當ニ高クシタル甲ヲ伏ノ
部分ニ付テノ被告等ノ破壞行爲ハ罪トナラサルモ其舊慣ニ依ル正當ノ部分ニ付テノ被告等ノ

破壞行為ハ罪トナルト論斷セサルヘカラサルナリ然ルニ當院カ被告等ノ破壞行為ヲ區別スル
 コトナクシテ一括罪トナラスト判決シタルハ違法ノ最モ明白ナルモノトス
 第四項ニ付被告等カ町村ノ委員トシテ町村ノ利益ヲ保護スル意思ヲ以テ本案ノ所爲ニ及ヒタ
 リトテ其所爲水利妨害ノ罪ヲ構成セスト斷言スルヲ得サルコトハ言ヲ待タズ即惟私利ノ爲メ
 ニ行動シタルモノニ比シ犯情或ハ輕シトナスモ他人ノ水利工事ヲ擅ニ破壞スルノ意思ヲ實行
 シタルハ明白ニ水利妨害ノ罪ヲ犯シタルモノナリ之ヲ要スルニ被告等ハ近年ニ至リ水ノ需用
 チ感シ明治二十六年中御料局ニ逆川掘下ノ事ヲ出願シタルモ許容サレズ乃至近年意ヲ決シテ甲
 ラ伏水利工事ヲ破壞シタルモ神奈川縣廳ハ靜岡縣廳ノ嚴談ニ接シ復舊工事ヲ施シ而シテ他ノ
 一方ニ在テ駿東郡民ノ水利權ハ其證據充分ニシテ侵ス可カラサルカ故ニ先ツ駿東郡民ノ有形
 的水利工事ヲ破壞シタル上民事訴訟上被告ノ位置ニ立ツ利益ヲ占メンコトヲ企圖シ更ニ意ヲ
 決シテ本案ノ所爲ニ及ヒタルモノニシテ其所爲刑法第四百十三條ニ該ルコト等フ可カラサル
 ニモ拘ラス當院ハ強テ反對ノ判決ヲ下シタル爲メ其判決ニハ到底適法ノ理由ヲ附スルヲ得ス
 即チ當院ハ前段ニ論述シタル通り適法ニ理由ヲ附セスシテ被告等ノ無罪ヲ言渡シタルモノニ
 シテ其判決ハ違法ノ判決タルヲ免レス依テ原判決ヲ破壞シ更ニ相當ノ判決アラントテ希望
 スト云フニ在リ

民事原告人訴訟代理人鈴木充美上告趣意第一點ハ原院ニ於テ被告等カ原告ノ設置シタル共有
 物ナル甲ラ伏チ破壞シタル事實ヲ認メナカラ公訴ニ於テ其所爲罪トナラサルトノ理由ヲ以テ

原告ノ請求ヲ排斥セラレタルハ不當ニ法律ヲ通用シタル不法ノ裁判ナリ依テ原判決ノ全部ヲ
 破毀セラレンコトヲ請求スト云フニ在リ

依テ案スルニ原判決ハ理由ニ於テ「偶寛文年度ニ至リ深良村外二十八ヶ村ニ於テ田地灌漑ハ爲
 メ幕府ノ許可ヲ受ケ駿河津峠字四ッ留ニ隧道ヲ穿テ湖水ヲ引キ兼テ湖水ハ水量ヲ過度ニ減
 少セシメサル爲メ逆川口即湖水ハ早川ニ落ツル處ニ堰留メ工事ヲ施シ云々堰留工事モ亦深良
 村外廿八ヶ村ハ管理ニ屬シ云々然ルニ近年雙方共湖水ノ需用ヲ増シタルト同時ニ深良村等ニ
 於テハ自己ノ管理内ニ在ルチ奇貨トシ蓄積ニ背キ云々修繕ト稱シテ漸次逆川口ハ堰留チ高ク
 シ以テ湖水ハ早川ニ流下スルチ阻害シタル形跡アルニ因リ云々トアルチ以テ逆川口ニ於テ堰
 留工事ヲ施シタル舊慣ハ存セシコトハ明カニ認ムル所ナレハ其舊慣アル丈ケハ即チ民事原告
 村ハ水利工事ナルコトモ從テ明カナリ果シテ然ラハ被告等カ甲ラ伏セト稱スル堰留チ破壞シ
 タル所爲ニシテ右舊慣ニ存スル部分ニ達スルニ於テハ其水利妨害ノ所爲タルコト勿論ナリ然
 ルニ原判決ニ於テ其前段ニ堰留ニケ所ノ内一ハ之ヲ埋立テ一ハ之ヲ破壞シタルトアリテ堰留
 全部チ破壞シタルモノト認メタルモノハ如クナルニ其後段ニ至リ深良村等ニ於テハ自己ハ管
 理内ニ在ルチ奇貨トシ蓄積ニ背キ云々修繕ト稱シ漸次逆川口ハ堰留チ高クシ以テ湖水ハ早川
 ニ流下スルチ阻害シタル形跡アルニ因リ云々トアリテ被告等カ破壞シタル堰留ハ右舊慣ニ背
 キ高クシタル部分ニ止マルカ如ク結局原判決ハ有罪無罪ハ分ルハ重要ノ事項ヲ確定セサルモ
 ハニシテ即チ理由不備ハ不法アルモノナレハ原院ハ言渡ル公訴ハ判決ハ全部破毀チ免カレ

サハモハトス

原院ノ言渡タル私訴ノ判決ヲ見ルニ其理由ハ公訴ノ判決ニ據リタルコト明カナルヲ以テ前項説明ノ如ク公訴ノ判決ノ全部破毀ヲ免レサルモノナル以上ハ隨テ私訴ノ判決モ亦全部破毀ヲ免レサルモノトス

右ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第二百八十六條ノ規定ニ從ヒ判決スル左ノ如シ
原判決ハ公訴私訴共全部之ヲ破毀シ更ニ審判セシムル爲メ本件ヲ名古屋控訴院ニ移送ス
明治三十年七月八日大審院刑事聯合部公廷ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス

○官印盜用等ノ件

明治三十年第六三三號
明治三十年七月八日宣告

○判決要旨

公訴不受理ノ裁判ハ其起訴ノ手續適法ナラサル等ノ場合ニ適用スヘキモノニシテ本案ニ對スル判決ニアラス從テ檢事ハ更ニ適法ノ手續ニ基キ再ヒ其事件ノ公訴ヲ提起スルコトヲ得

(參照) 檢事及ヒ被告人ハ第一審第二審ヲ問ハス本案ノ判決アルマテ何時ニテモ管轄

遼又ハ公訴受理スヘカラサル申立チナスコトヲ得裁判所ニ於テハ職權ヲ以テ管轄遼又ハ公訴受理スヘカラサル言渡チ爲スコトヲ得(刑事訴訟法第百八十六條)

第一審 新潟地方裁判所

第二審 東京控訴院

被告人 鳥羽名三次

巖越市平

辯護人

高木益太郎

山口

憲

右兩名カ官印盜用等被告事件ノ控訴ニ付明治三十年六月七日東京控訴院ニ於テ公訴受理ス可ラサル申立ハ之ヲ却下スト言渡シタル中間判決ニ對シ被告兩名ハ上告ヲ爲シタルニ依リ本院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ審判スル左ノ如シ

被告兩名カ上告趣意ノ要旨ハ原院ニ於テ被告辯護人ヨリ時効中斷ノ事跡ナキ旨ノ申立ヲ爲シ且ツ此點ニ付證據調ノ申請ヲ爲シタルニ拘ハラス何等ノ理由ヲモ示サス却下ノ判決ヲ爲シタルハ越權ノ處分ナリト云フニ在レトモ○證據調ノ申請ニ對シテハ不必要ト認ムル旨ノ理由ヲ示シテ却下ノ決定ヲ宣告シタルコト公判始末書ニ明記アリ又公訴受理スヘカラストノ申立ニ對スル判決ニモ之カ却下ノ理由ヲ明示シアレハ原判決ハ所論ノ如キ不法アルニアラサルナリ辯護人高木益太郎山口憲カ上告趣意擴張書ノ第一ハ原判決第二判旨ニ於テハ公訴期滿免除ノ場合ニハ免訴ノ言渡チ爲スヘキモノニシテ公訴不受理ノ言渡チ爲スヘキモノニ非ストノ理由ヲ以テ被告等カ公訴不受理ノ申立チ却下セラレタルトモ刑事訴訟法第六條ニハ公訴チ爲ス權ハ左ノ事項ニ因テ消滅スル規定シ其第六項ニハ「時効」ト記載シアレハ公訴期滿免除ハ公訴權チ消滅セシムルモノタルハ一點ノ疑ナシトス既ニ然リトセハ公訴期滿免除トナリタル事件ニ在

公訴不受理ノ裁判

トテハ裁判所ハ公訴トシテ受理シ得ヘキモノニアラストス何トナレハ公訴權ナキ以上ハ公訴トシテ提起シ得ラル道理ナク公訴トシテ提起ス可ラサルモノヲ公訴スルモ裁判所ハ之ヲ受理スヘキ條理ナクナリ果シテ然ラハ公訴期滿免除ノ場合ニハ公訴不受理ノ言渡ヲ爲スヘキハ刑事訴訟法第六條ノ規定ヨリ生スル自然ノ結果ナリトス然ルニ原判決並ニ出テサリシハ不法ナリト云フニ在レトモ○公訴不受理ノ言渡ハ其公訴提起ノ手續適法ナラサル等ハ場合ニ爲スヘキモノハニシテ且ツ其本案ニ對スル判決ニアラサルカ故ニ檢事ハ更ニ適法ノ手續ニ依リ再ヒ本案公訴ヲ提起スルコトヲ得ヘキナリ今本件ハ其公訴ノ手續如何ヲ争フニアラスシテ適法ニ起訴セラレタル事件カ公訴ノ時効ニ罹リタルコトヲ争フニ在リ果シテ時効ニ罹リタリトセシテ其判決ハ本案ノ判決タラサル可ラサルハ勿論ナルノミナラス既ニ刑事訴訟法第二百二十四條ニ公訴ノ時効ニ係リタル時ハ判決ヲ以テ免訴ノ言渡ヲ爲スヘシトアルニ依リ此場合ニ於テ公訴不受理ノ言渡ヲ爲スヘキモノニ非ルコト益々明確ナリ然レハ原院カ辯護人ノ論旨ハ公訴受理ス可ラサル理由ト爲ス可ラスト説明シテ申立テ却下シタルハ相當ノ判決ナリトス同第二ハ原判決第三判旨ニ於テハ刑ノ期滿免除ノ場合ニ於テモ免訴ヲ言渡スヘキモノニシテ公訴不受理ノ言渡ヲ爲スヘキモノニ非スト判示セラレタレトモ刑ノ期滿免除ヲ得ル時ハ茲ニ公訴權ハ消滅シ執行權ニ屬スルモノナレハ前同一ノ筆法ニ依リ公訴不受理ノ言渡ヲ爲スヘキモノト思料スト云フニ在レトモ○前項ノ説明ニ依リ本論旨ノ理由ナキコトハ了解シ得ヘキニ付キ特ニ復説セス

右ノ理由ナルニ付刑事訴訟法第二百八十五條ニ則リ本案上告ハ之ヲ棄却ス
 明治三十年七月八日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス

○誣告ノ件 明治三十年第六二二號
 明治三十年七月十六日宣告

○判決要旨

誣告罪ノ手段ハ必スシモ告訴告發ニ限ルモノニアラス

(參照) 不實ノ事ヲ以テ人ヲ誣告シタル者ハ第二百二十二條ニ記載シタル偽證ノ例ニ照シテ處斷ス(刑法第三百五十五條)

第一審 秋田地方裁判所大曲支部 第二番 宮城控訴院
 被告人 高橋 喜左衛門 辯護人 關 幸太郎

右誣告被告事件ニ付明治三十年五月二十二日宮城控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタルニ付刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ
 上告趣意ノ要旨ハ凡ソ誣告罪ヲ組成センニハ惡意ヲ以テ不實ノ事柄ヲ構造シ相當官署ニ告訴

誣告罪ノ手段

告發セシ事實カカルヘラス何トナレハ告訴告發ハ証告罪ヲ構成スヘキ要素ナレハナリ而シテ
 告訴告發ハ刑事訴訟法上ノ法式ヲ履行セサル可ラス若シ其方式ヲ履行セサルニ於テハ告訴告
 發ノ効力ヲ有セサルコト勿論ナリ然ルニ原院カ認メタル事實ノ如ク被告ハ假令藤澤喜一郎ナ
 ル者ヲ重罪ニ陷レント惡意ヲ以テ不實ノ事柄ヲ構造シ官署ニ申告シタリトスルモ其申告ノ方
 法タルヤ唯一片ノ葉書ヲ以テ藤澤喜一郎ハ云々ノ行爲ヲ爲シタリトコトヲ注意的ニ大曲支
 部檢事局ニ對シ發信シタル迄ニシテ其葉書タルヤ體裁ト云ヒ毫モ刑事訴訟法上ノ告發書タル
 要件ヲ具備セサルノミナラス此等ノ申告ニ關シ尤モ必要ナル申告者ノ氏名ヲモ記載ナキモノ
 ナレハ一ノ紙片ニ過キス故ニ原院カ此ノ如キ不確實ナル一葉ノ紙片ヲ採テ証告ノ罪アルモノ
 トナシタルハ不法ノ裁判ナリト云フニ在リ然レモ○刑法第三百五十五條ニハ不實ハ事ヲ以テ
 人ヲ誣告シタル者ハ云々トアリ故ニ其告ケル所ノ事項カ不實ニシテ他人ヲ誣フルハタルニ
 於テハ則チ同條ノ罪ヲ構成スヘキモノニシテ其告ケル所ノ手續ハ必スシモ告訴告發ニ限ルモ
 ハト云フヲ得ス左レハ原院ノ認メタル事實ニ對シ刑法第三百五十五條ヲ適用シ有罪ノ判決ヲ
 爲シタルハ相當ナリトス

辯護人關幸太郎上告趣意擴張第一點ハ刑事訴訟法第二百三十九條ニ被告入其罪ヲ自白スト雖
 トモ尙ホ證據ヲ取調ヘサル可ラストアリ況ンヤ自白セサルモノオヤ抑モ原院公判始末書ヲ閱
 スルニ被告入カ喜一郎ノ妻ノアト密通ノ事及ヒ分焼シタル女兒ノ死體ハ果シテ殺害ニ係ルモ
 ノナルヤ否ノ點ニ付テハ絶テ訊問ヲ爲サス又證據ヲ取調ヘタル事ナシ然ルニ原院判決理由ニ於

テ被告人ハノアト密通シタリト爲シ又死體ヲ分焼シタリト爲シタルハ適法ノ裁判ト云フヲ得
 スト云フニ在レモ○本案被告事件ニ付キ相當ノ取調ヲ爲シタルコトハ原院公判始末書ノ明示
 スル所ナルヲ以テ原院判決ハ適法ニ非ス同第二點ハ原院ハ鑑定人ニ對シ刑事訴訟法第二百二十三
 條ノ事項ヲ訊問シタルモ同法第二百二十四條ノ事項ヲ訊問セス直チニ宣誓ヲ命シタルハ適法ナ
 リト云フニ在レトモ○右第二百二十四條ノ事項ハ之ヲ訊問スヘキ規定ナキヲ以テ其訊問ヲ爲サ
 ハリシハ相當ナリトス同第三點ハ原院判決ニハ公訴裁判費用全部ハ被告ノ負擔トストアリ(第一
 審判決ニ於テ公訴費用ヲ被告人ニ負擔セシメス)元來本件ハ被告人ノミノ控訴ナルニ右ノ如ク
 被告人ニ不利益ノ判決ヲ與ヘタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○原院ハ本件控訴ハ之ヲ棄却
 スト云ヒ毫モ第一審判決ヲ變更セス唯其控訴申特ニ生シタル公訴裁判費用ノ負擔ヲ命シタル
 ニ過キス故ニ原院判決ハ相當ナリトス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス
 明治三十年七月十六日大審院休暇部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○私印盗用等ノ件

明治三十年第五九二號
明治三十年七月二十日宣告

○判決要旨

被害者ヲ欺キ其承諾外ニ係ル證書ニ捺印セシメタル所爲ハ印影盗用罪ヲ構成ス

(参照) 他人ノ私印ヲ偽造シテ使用シタル者ハ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス若シ他人ノ印影ヲ盗用シタル者ハ一等ヲ減ス(刑法第

條)

第一審 浦和地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 岡野儀助 辯護人 熊野敏三

右私印盗用私書偽造行使詐欺取財未遂被告事件ニ付明治三十年五月二十八日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ原院檢事長及被告ヨリ上告ヲ爲シタルニ付刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

檢事長上告趣意ハ原院ハ本案ニ於テ被告人岡野儀助カ鈴木倉吉ヲシテ任意上問題ノ紙業ニ署名捺印セシメテ之ヲ受取置キタル事實ヲ認メタルニモ拘ハラヌ私印盗用ノ罪アリトシ刑法第二百八條ヲ適用シタルハ不當ナリト云フニ在レトモ○原判文ニハ倉吉カ金四百三十圓ヲ年八分ノ利息付ニテ被告ヨリ預カリタルコト及ヒ同年七月十五日ヲ以テ返済スヘキコト等ヲ記載

セル被告宛ノ約定證書ヲ作り之ヲ事件委託ノ約定書ナリト欺キ其文言ヲ讀聞ケルト稱シ徒ラニ假設ノ文言ヲ口誦シ倉吉ヲシテ債務證書ニアラサルモノト如ク信用セシメ且其名下及ヒ印紙貼用ノ所并ニ欄外等ニ捺印セシメ云々右偽造ノ約定證書ヲ裁判所ニ提出シ之ニ基キ倉吉ニ對シ預金アル旨ノ自己ノ主張ヲ立證シトアリ由是觀之被告ハ倉吉ヲ欺キ其豫期シタル意外ハ證書ニ捺印セシメタルモノハニシテ則チ倉吉ハ該證書ニ捺印ス可キ意思アリタルニ非ス之ヲ詳言スレハ被告ハ倉吉カ事件委託ノ約定證書ニ捺印セントスル印影ヲ取テ之ヲ金圓返済ノ約定證書ニ用キ該證書ニ因リ金圓ハ返済ヲ請求シタルモノハナリ左ハ原院カ該事實ニ對シ刑法第二百八條ヲ適用シタルハ相當ニシテ上告ハ理由ナキモノトス

被告ノ上告趣意ハ原院ハ被告カ私書ヲ偽造シテ詐欺取財ヲ爲サントシタルモノナリトノ事實ヲ認メ之ニ對シ私書偽造及詐欺取財未遂ノ二罪俱發ナリトセリ然ルニ私書ヲ偽造シタルトスルモ是レ詐欺取財ノ用ニ供セントスルモノニシテ詐欺取財ノ罪ト獨立シテ一罪ヲ成スヘキモノニ非ス原院ハ二罪トシテ刑ヲ科シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○原判文ニハ詐欺取財未遂ノ點ト證書偽造行使ノ點ハ刑法第三百九十條第二項ニ依リ云々トアリテ單ニ一罪トシテ刑ヲ科シタルコト明瞭ナルヲ以テ上告論旨ノ如キ違法ナシ

辯護人熊野敏三上告趣意擴張第一點ハ偽造證書ハ法律ニ違背シテ作成セルモノニシテ社會ノ有害物ナレハ刑法ニ所謂禁制品タリ然ルニ原判決ハ被告カ偽造セリト認メタル約定證書ヲ犯罪ノ用ニ供シタルモノトシ刑法第四十三條第二號ニ擬シタルハ不當ナリト云フニ在リテ○此

承諾外ノ押印

論旨ハ適法ノ理由アルモノトス何トナレハ既ニ偽造證書タル上ハ所謂法律ニ於テ禁制シタル物件ナルコト勿論ナルヲ以テナリ故ニ此點ニ係ル原判決ハ現違タルヲ免レス同第二點ハ原院ハ被告ハ約定證書ヲ偽造シタルモノト認定シ刑法第二百十條第一項ヲ適用シタリ然ルニ該約定證書タルヤ其文言ニ付テハ倉吉ノ想像以外ニ出テタリトスルモ證書自體ヲ作成スル點ニ付テハ承諾ヲ與ヘタルモノナリ既ニ證書作成ニ付テ承諾アリタリトセハ文言ノ異ナル所以ヲ以テ直ニ文書偽造罪ト認ムルヲ得スト云フニ在レトモ○凡ソ證書ハ文言ヲ以テ組成スルモノナレハ荷モ證書ノ文言ニシテ本人ノ承諾シタル以外ノ事タルニ於テハ之ヲ真正ノ證書ト謂フヲ得ス故ニ原院カ認メタル前掲ノ事實ヲ以テ私書偽造罪ト判定シタルハ相當ナリ同第三點ハ私印盗用并ニ私書偽造罪ハ單ニ印影ヲ押用シ又ハ私書ヲ偽造シタルノミヲ以テ成立セス之レヲ行使シタル事實ナキヲ得ス然ルニ原院ハ行使ノ事實ナキニ拘ハラス之ヲ有罪トナシタルハ不當ナリト云フニ在レトモ○原院文ニハ前掲ノ如ク印影ヲ押用シタル約定證書ヲ裁判所ニ提出シ之ヲ證據ニ供シタル旨ヲ明示セルヲ以テ行使ノ事實ナシト謂フヲ得ス同第四點ハ被告人ヲ訊問スルニ付テハ檢察先ツ事實ノ陳述ヲ爲シ而シテ後裁判長ハ其事實ニ就キ訊問ス可キモノナルコトハ刑事訴訟法第二百十八條并ニ第二百五十八條ノ命スル所ナリ然ルニ原院公判ニ於テハ此手續ヲ爲サス從テ原判決ハ手續ニ違背セル不法アリト云フニ在レトモ○原院カ本件ノ公訴ヲ受理シタルハ被告ノ控訴ニ基ツクヲ以テ先ツ被告ヲシテ其控訴ノ旨趣ヲ陳述セシメ引續キ事實ノ訊問ヲ爲シタルモノナリ則チ此場合ニ在テハ刑事訴訟法第二百十八條ニ所謂檢察

ハ被告事件ヲ陳述ス可シトノ規定ヲ通用スヘキモノニ非サルヲ以テ原判決ハ訴訟手續上現違アルコトナシ

右ノ理由ナルヲ以テ檢察長ノ上告ニ付テハ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ之ヲ棄却ス被告ノ上告ニ付テハ同法第二百八十六條ニ依リ原判決中證書沒収ノ一部ヲ破毀シ同法第二百八十七條ニ依リ本院ニ於テ直チニ判決ヲ爲スコト左ノ如シ

右

岡野 儀助

原院ノ認メタル事實ニ基キ金高四百三十圓ノ約定之證ト題スル證書ハ刑法第四十三條第一號同第四十四條ニ依リ之ヲ沒收ス

明治三十年七月二十日大審院休暇部公廷ニ於テ檢察岩野新平立會宣告ス

○故殺ノ件

明治三十年第六三二號
明治三十年七月二十日宣告

○判決要旨

宣誓書ノ作成

宣誓書ハ證人ノ署名捺印ヲ要スルノミニシテ證人自ラ之ヲ作成スヘキモノニアラス

(参照) 裁判所書記ハ證人ニ宣誓書ヲ讀聞セ之ニ署名捺印セシム若シ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其旨ヲ附記ス可シ(刑事訴訟法第百二十二條第二項)

第一審 山口地方裁判所 第二審 廣島控訴院

被告人 桑田幸雄 辯護人 牧野充安

右故殺被告事件ニ付明治三十年六月九日廣島控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ
上告趣旨ハ被告カ猛野但長ヲ死ニ致シタルハ同人カ無根ノ事ヲ言觸シ被告ノ品行ヲ傷ケタルニ付之カ事實ヲ吐カシメ尙ホ其然ラサリシ旨ヲ言解カシメント爲シタルニ容易ニ之ニ應セサルヨリ暴力ヲ示サハ應スルコトモアルヘシト思料シ賤ナカラ有合ノ手拭ヲ首ニ巻付ケ假リニ引絞リ居タルニ或ハ手拭ノ當リ所惡シカリシカ又ハ覺エス力ノ入りシモノカ其儘望息シタルモノニシテ被告ニ於テモ實ニ意外ノ事ニシテ其爲ス所ヲ知ラス百方手ヲ盡シタルコトハ證人田屋岡ミ子ノ申立ニ依ルモ推知スルコトヲ得可シ然ラサレハ同縣人ニシテ殊ニ親密ニ交際スル朋友ヲ故ヲニ殺害スルノ謂レナシ然ルニ原院ハ犯罪ノ原因ヲ討究セス故殺罪ト判決シタルハ

不法ナリト云フニ在テ○原承審官ノ職權ニ存スル事實ノ認定ヲ非難スルニ過キサレハ上告ノ理由トナル可キモノニアラス

辯護人牧野充安カ擴張論旨ノ第一點ハ原院カ證據トシテ掲ケタル證人藤井フサノ豫審調書ニ添付セル宣誓書ヲ閱スルニ其日付ハ明治三十年一月十五日トアルヲ十六日ニ變更シ之ニ裁判所書記ノ認印アルノミニシテ證人フサノ認印ナシ抑モ宣誓書ナルモノハ裁判所書記ノ作ル可キ書面ニアラスシテ證人ノ署名捺印ス可キモノナレハ右變更ノ部分ニ書記ニ於テ認印ス可キモノニアラスシテ署名者ニ於テ認印ス可キモノナリ已ニ署名者ノ認印ナキ上ハ刑事訴訟法第二十一條ノ規定ニ違フヲ以テ其變更ノ效ナキモノトス然ラハ則宣誓書ノ日付ハ明治三十年一月十五日トナリ檢事カ豫審請求ヲ爲シタルハ同十六日ナレハ豫審判事ハ檢事ノ請求ニ先ダテ證人ノ取調即チ豫審ニ取掛リタルモノナレハ刑事訴訟法第六十七條ノ規定ニ違フヲ以テ右證人ノ豫審調書ハ無効ナリ然ルニ原院カ之ヲ斷罪ノ資料ニ供シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○刑事訴訟法第百二十二條第二項ニ裁判所書記ハ證人ニ宣誓書ヲ讀聞カセ之ニ署名捺印セシム云々トアルニ依レハ宣誓書ハ證人ノ署名捺印ヲ要スルハミニシテ證人自ラ之ヲ作成ス可キモノニアラス故ニ其日附チ變更シタル部分ニ證人ノ認印ヲ要セサルニ付裁判所書記ノ認印アル上ハ刑事訴訟法第二十一條ノ規定ニ違フ所ナキヲ以テ固ヨリ其變更ノ效アルモノトス隨テ檢事ノ豫審請求以前ニ於テ豫審判事カ證人藤井フサノ取調ニ取掛リタルモノニアラサレハ其豫審調書ノ有效ナルコト勿論ナリトス故ニ原院カ之ヲ斷罪ノ資料ニ供シタルハ不法ニア

フサルナリ

同第二點ハ原院ニ於テ被告ノ情狀ヲ原諒ス可キモノト認メタル上ハ其法律ノ適用ニ付テハ本刑ニ一等又ハ二等ヲ減シタル範圍内ニ於テ處斷ス可キモノナルニ原判文ニ單ニ一等ヲ減シタル範圍内ニ於テ云々トアルハ法律ヲ適用スルニ當リ被告ニ利益トナル可キ部分ヲ示サ、ル不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○原院ハ所犯情狀原諒ス可キモノアルニ付刑法第八十九條第九十條ニ依リ一等ヲ減輕シタルノミニシテ二等ヲ減輕シタルモノニアラス故ニ原判文ニ本刑ニ一等ヲ減シタル刑ノ範圍内ニ於テ云々トノ理由ヲ付シタルハ固ヨリ當然ニシテ毫モ不法ノ點アルコトナシ

同第三點ハ被告ニ故意アリトノ事實ハ原判文ニ列擧シタル證據中其文字ニ於テモ又其意義ニ於テモ示サ、ル所ナルニ此證據ニ依リ故意アリト認定シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○本論旨ハ要スルニ原承審官ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ非難スルニ外ナラサレハ上告ノ理由トナル可キモノニアラス

同第四點ハ被告ノ第四回豫審調査ニ依レハ豫審判事ハ殺ス時ニ故意アリシコトハ云々充分デア、ルニ今更左様殺ス種、リテ較メ、テハ御座イマセン(ニ申替テ致スハ却テ不利益ヲハナキヤトノ間ヲ發セリ被告ヲシテ爾、ク答テハ不利益ナリトシ他ノ答ヲ俟ツカ如キハ正當ナル訊問方法ニアラスシテ恐嚇又ハ詐言タルヲ免カ、レス即チ刑事訴訟法第九十四條ニ違背シタル訊問ニシテ其調査ハ無効ナルニ原院カ、之ヲ斷罪ノ資料ニ供シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○右

豫審調査ヲ熟讀シ其訊問ノ趣旨ヲ審查スルニ決シテ刑事訴訟法第九十四條ニ所謂恐嚇又ハ詐言ヲ用ヒタルモノニアラサルコト明白ナリ隨テ其調査ハ無効ニアラサルコト勿論ナレハ原院カ、之ヲ斷罪ノ資料ニ供シタルハ不法ニアラサルナリ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本案ノ上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十年七月二十日大審院休暇部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○詐欺取財ノ件

明治三十年第六二七號
明治三十年七月二十三日宣告

○判決要旨

豫審終結決定書ト第一審判決ト犯罪ノ日時ヲ異ニスルモ公訴ノ時効等ニ關係
ヲ及ホサ、ル場合ニアリテハ一審判決ヲ取消スノ必要ナシ

第一審 東京地方裁判所
被告八 近藤常作

第二審 東京控訴院

右詐欺取財被告事件ニ付明治三十年六月十二日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告
ハ上告ヲ爲シタリ

犯罪ノ日時

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ
 上告趣旨ハ被告ハ被害者ト共ニ賭博ヲ爲シタルモノナルニ被害者ハ村松長吉等ノ教唆ニ因リ
 不實ノ申立ヲ爲シタルニ付原院ニ於テ證人ノ喚問ヲ申請シタルニ之ヲ許可セスシテ詐欺取財
 ト判決シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○證人喚問ノ必要アルヤ否ヲ判斷シテ其申請ヲ
 許否スルハ原承審官ノ職權ニ存スルモノナレハ右申請ヲ採用セスシテ有罪ノ判決ヲ與ヘタル
 ナリテ不法ナリト爲スコトヲ得ス
 同擴張論旨ハ本案犯罪ノ月日ハ豫審終結決定書ニ十月十日トアリテ第一審判文ニハ十一月十
 日トアリ果シテ原院ノ認メタル如ク十月十日ナリトスレハ第一審判決ヲ取消サハル可カラサ
 ルニ其爰ニ出テサリシハ不法ナリト云フニ在レトモ○犯罪ノ月日ハ明治二十九年十月十日ナ
 リトスルモ又ハ同十一月十日ナリトスルモ公訴ノ時効等ニ何等ノ關係ヲ及ホサハルヲ以テ隨
 テ質問ハ有無ニ毫モ影響ナキモノトス故ニ原院ニ於テ第一審判決ヲ取消スハ必要ナキニ付原
 判決ハ不法ナリト爲スコトヲ得ス
 右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本案ノ上告ハ之ヲ棄却ス
 明治三十年七月二十三日大審院休暇部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○偽證ノ件

明治三十年第六三八號
明治三十年七月二十三日宣告

○判決要旨

民事原告人ノ私訴ヲ裁判スルニ當リテハ民法ノ法則ニ遵據スヘキモノニシテ
 公訴判決ノ理由ニ拘束セラルルニキモノニアラス

(参照) 被告人免訴又ハ無罪ノ言渡ヲ受ケタルト雖トモ民法ニ從ヒ被害者ヨリ賠償返
 還ヲ要ムル妨礙トナルコトナカルヘシ(刑事訴訟法第五條)
 第一審 青森地方裁判所 第二審 函館控訴院

私訴上告人

葛原萬之助
相馬佐助

私訴被上告人

葛原大助
境澤彌太郎

右當事者間ノ刑事附帶ノ私訴ニ付明治三十年六月五日函館控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ服
 セス葛原萬之助外二名ヨリ上告ヲ爲シタルニ依リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ
 審理スル左ノ如シ

葛原萬之助上告趣旨ハ被上告人カ還給ヲ請求スル係争杉小切千二百十六本ハ公訴ノ第一審判決
 ニ依リ上告人ニ還付スル旨言渡サレ既ニ確定シテ動カスヲ得サルニ至リシモノナリ即チ公訴
 ノ第一審判決ハ係争杉小切木ヲ竊取シタルモノニアラスト爲シ從テ贓物ニアラサルカ故ニ上告

私訴ノ裁判

人ニ還付シタルモノニ外ナラス刑事ノ確定判決ハ總テノ民事關係ノ訴訟ヲ羈束シ絶對的ノ効力ヲ有シ決シテ之ニ向テ反對ノ判決ヲ許ササルハ言テ俟タス然ルニ原判決カ公訴ノ確定判決ヲ以テ上告人ノ還付ヲ受ケタル杉小切木ヲ贓物ナリト認メ被上告人ニ還給ス可シト言渡シタルハ不法ナリ如何トナレハ杉小切木千二百十六本ヲ竊取シタルモノニアラスト認メタル公訴ノ判決確定シ茲ニ該小切木ニ對シテハ犯罪ノアラサルコトヲ證明スルニモ係ハラス原判決ハ上告人ニ對シ該小切木ヲ竊取シタリト爲シ公訴判決ノ基本タル事實ヲ非認シ反對テ言渡シタルハナリト云フニ在レトモ○刑事訴訟法第五條ニ被告ノ免訴又ハ無罪ハ言渡シ受ケタリト雖トモ民法ニ從ヒ被害者ヨリ賠償返還ヲ要ムル妨礙トナルコトナカル可シトアリハ杉小切木千二百十六本ハ請求ハ相立タストハ第一審判決ニ對スル民事原告人ハ控訴ヲ受理シ審理スルニ當リ原院ハ專ラ民法ハ法則ニ從ヒ其請求ハ當否ヲ判定スヘクシテ第一審公訴判決ノ理由ニ拘束セラルヘキモノニアラスト而シテ第一審公訴判決ニ於テ領置ニ係ル杉末木小切千二百十六本ハ被告萬之助ニ還付スト言渡シタルモ其所有權ノ被告萬之助ニ在ルコトヲ確定シタルニアラサレハ原院カ右物件ヲ民事原告人ニ還給スヘシト言渡シタルモ決シテ相抵觸スルモノニアラス又原院カ原裁判所ニ於テ萬之助ニ還付シタル係争木モ萬之助外十一名カ他ノ盜伐木ト等シク遠部澤官林ヨリ切取シタル事跡ヲ認メ得ルニ於テハ云々ト説明シタルハ即チ係争物ハ民法上民事原告人ニ還給スヘキモノトスル事實上ノ理由ヲ明示シタルニ過キスシテ第一審公訴判決ニ於テ竊取シタリトノ證據十分ナラストノ理由ト相抵觸スル無罪ノ確定判決ニ反シ有罪ノ

判決ヲ爲シタルニモアラサルヲ以テ本論旨ハ上告適法ノ理由ナシ

葛原大助相馬佐助上告趣意第一點ハ葛原萬之助上告趣意ト同一ニシテ其上告適法ノ理由ナキコトハ同趣意ニ對スル說明ニ依リ了解シ得ヘキヲ以テ再說セス第二點ハ原判決理由ニ「被控訴人萬之助名義ヲ以テ拂下々タル杉末木ハ云々山中土場兩檢印ヲ受ケ其請書ヲ差出シアルコトハ押收ノ該請書云々ニ依リ明カナレハ係争杉末木小切ハ萬之助ノ拂下木以外ニ屬スルヤ争フ可カラサル事實ナリトスト判セラレ請書ノ有無ニ依リ其盜否ヲ定ムル理由トセラレタルモ請書ノ有無ハ本案基礎タルヘキ公訴判決ニ採用シタル理由ニアラス寧ロ請書ハ毫モ信用ヲ置カサリシモノナルコトハ一件記録ニ依リ明カナルノミナラス一件記録ニ徵スレハ却テ係争杉末木小切ハ請書中ノ物件ニシテ該物ヲ措キ他ニ請書中ノ物件アルヲ見サルニ恰モ請書中ノ物件ハ正當存在スル如ク判セラレタルハ理由不備ナリト思考スト云フニ在レテ○本論旨ハ原院ノ職權ニ專屬スル事實ノ認定證據ノ取捨ヲ批難スルニ過キスシテ上告適法ノ理由トナラス其第三點ハ原判決理由ニ「本件公訴ニ對スル判文證據ノ部ニ記載スル各徵憑ニ依レハ原判決ニ於テ萬之助ニ還付シタル係争末木モ萬之助外十一名カ他ノ盜伐木ト等シク遠部澤官林ヨリ切取シタル事跡ヲ認メ得ルニ於テハ之ヲ控訴人ニ還給セサル可カラサルヤ勿論ナリト判セラレタルモ抑本案ノ基礎タル杉末木千二百十六本竊取件ノ公訴ハ第一審ニ確定シテ第二審ニ控訴セラレタルモノニ非サレハ第二審公訴判文ノ證據ハ控訴セラレタル公訴事件ノミニ對シ審理ノ効力ヲ有スヘキモ控訴ナキ本案末木千二百十六本ニ對シ審理ノ効ナキモナルニ該審理ナキノ

證據ヲ以テ本私訴ニ適用シタルハ不法ノ判決ナリト思考スト云フニ在レトモ○一件記録ヲ閱スルニ右杉末木千二百十六本ハ本件係争物ノ一部ニシテ證據モ此一部ニ限リタルモノニアラサルノミナラス既ニ公訴ノ事實ヲ認定シタルト同一ノ徵憑ヲ以テ此事實ヲ認定シタルモノナレハ本論旨ハ結局原院ノ職權ニ專屬スル事實ノ認定證據ノ取捨ヲ批難スルモノニシテ上告適法ノ理由トナラス

右ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第二百八十五條ノ規定ニ從ヒ判決スル左ノ如シ
本件上告ハ之ヲ棄却ス

私訴上告費用ハ上告人ノ負擔トス

明治三十年七月二十三日大審院休暇部公延ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○私印偽造私書變造詐欺取財未遂ノ件

明治三十年第六三六號
明治三十年七月三十日宣告

○判決要旨

證人申請ノ許否ニ關シ公廷内ニ於テ密議シ之ヲ決定スルコトヲ得從テ公廷内

ニ於ケル密議ヲ以テ評議公行ノ事實アリトナスヲ得ス

(參照) 刑事ノ評議ハ之ヲ公行セス但シ豫備判事及試補ノ傍聽ヲ許スコトヲ得(裁判所
條第一百二十一
條第一項)

第一審 水戸地方裁判所下妻支部 第二審 東京控訴院

被告人 木村友三郎

明治三十年六月十二日東京控訴院ニ於テ右友三郎ニ對スル私印偽造私書變造詐欺取財未遂被告事件ノ控訴ヲ審理シ本件控訴ハ之ヲ棄却スト言渡タル判決ヲ不當トシ被告ハ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審理判決スルコト左ノ如シ
上告趣意被告ハ他人ノ實印ヲ偽造シタルコトナク又淺野正造ノ豫審調書等ニ依レハ被告カ無料ニテ本件地所ノ小作ヲ爲シ來リタル事實明ニシテ此事實ニ依ルモ右地所賣戻期限ノ尙ホ存セルモノナリシコトヲ證スルニ足ル然ルニ原院ニ於テ地所賣戻期限經過ノ後尙ホ其期限存在セルモノトシテ如ク其證書ヲ變造シ且少藤田新左衛門ノ偽造印ヲ押捺シテ之ヲ行使シタルモノト認定シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○事實ノ認定ハ原院ノ職權ニ在ルヲ以テ上告ノ原因トナラス

辯護士上告理由擴張書第一點ノ要旨ハ豫審請求書及證人ノ宣誓書等ヲ見ルニ何レモ私印私書偽造行使云々トアルノミニシテ其他ノ罪名ノ記載アルコトナケレハ本件ノ起訴ハ單ニ私印私書偽造行使罪ニ止マルモノナルニ第一、二審共詐欺取財未遂ノ罪ヲ併セテ處斷シタルハ請求ヲ

受ケサル事件ニ對シ判決ヲ與ヘタル不法アルモノナリト云フニ在レトモ○本件ノ如キ私印並
 書偽造行使ノ罪ト詐欺取財ノ罪ハ互ニ相牽聯シテ密着ノ關係ヲ有スルヲ以テ詐欺取財ノ罪ハ
 私印私書行使罪ノ起訴中ニ包含シタルモノト爲スヘキヲ以テ豫審以來併セテ之ヲ審理シタル
 ハ相當ニシテ請求ヲ受ケサル事件ニ付キ判決ヲ爲シタルモノニアラス同第二點ハ第一審公判
 始末書ヲ見ルニ(前略)判決言渡ノ爲メ開廷本件ハ公行セリ被告人ハ身體ノ拘束ヲ受ケス出廷ス
 但シ守卒ヲ置テ裁判長ハ合議ノ上別紙判決書ノ通り判決ヲ言渡シ云々トアリテ公廷ニ於テ合
 議ヲ爲シタルコト明カナリ又同第一審廷ニ於テ證人喚問ノ請求ニ對シ公廷ニ於テ直ニ合議ヲ
 爲シ決定言渡ヲ爲シタル事跡アルハ共ニ評議ヲ公行シタル違法アルモノナリト云フニ在レト
 モ○公廷内ニ於テモ尙ホ密議スルコトヲ得ルヲ以テ假令公廷ニ於テ爲シタルモ其事實ハミチ
 以テ直ニ之ヲ評議ヲ公行シタルモノト爲スヲ得ス同第三點ハ原判決ハ被告人ノ所有ナリトシ
 テ犯罪供用ノ變造證書ヲ沒收スルニ付キ單ニ刑法第四十三條第二號ヲ適用シタルノミニシテ
 同第四十四條ヲ適用セザリシハ理由不備ナリト云フニ在レトモ○現ニ第四十三條ノ明示アル
 上ハ別ニ第四十四條ヲ記載スルノ必要ナキヲ以テ法律ノ理由ヲ缺キタルモノトセス同第四點
 ハ第一審判決ニハ裁判言渡ニ立會ヒタル檢事ノ官氏名ノ記載アルノミニシテ辯論ニ立會ヒタ
 ル檢事ノ官氏名記載アルコトナケレハ該辯論ノ際裁判所カ適法ニ構成セラレタルヤ否ヤヲ知
 ルニ由ナキ不法アルモノナルニ原院カ其判決ヲ是認シ控訴ヲ棄却シタルハ違法ナリト云フニ
 在レトモ○辯論ノ際裁判所カ適法ニ構成セラレタルヤ否等ハ公判始末書ニ依テ證明スヘキモ

ノニシテ且ツ檢事ハ一體ナルヲ以テ判決書ニハ之ニ立會ヒタル檢事ノ官氏名ヲ記載スレハ是
 ルモノトス故ニ本論旨モ不相立

以上ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十年七月三十日大審院休暇部公廷ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス

○偽造紙幣行使ノ件

明治三十年第七一二號
 明治三十年八月三日宣告

○判決要旨

模造ノ兌換銀券ヲ使用シテ釣銭ヲ騙取シタル所爲ハ詐欺取財罪ヲ構成ス

第一審 仙臺地方裁判所 第二審 宮城控訴院

被告人 大橋 玄回

右大橋玄回カ偽造紙幣行使被告事件ニ付明治三十年六月十二日宮城控訴院ニ於テ仙臺地方裁
 判所ノ判決ニ對スル被告人ノ控訴ヲ審判シ原判決ハ之ヲ取消ス被告玄回ヲ重禁錮三年罰金十
 五圓監視十月ニ處ス押收ノ模造ニ係ル五圓ノ日本銀行兌換銀券ハ之ヲ沒收シ其他ノ書類ハ差
 出人ニ還付スト言渡シタル第二審ノ判決ニ服セス被告人ハ上告ヲ爲シタルニ因リ刑事訴訟法

模造兌換銀券ノ行使

第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決ヲ爲スコト左ノ如シ
 上告ノ要旨ハ本件ニ付刑法第三百九十條ヲ適用シ重禁錮三年罰金十圓監視六月ニ處シタルハ
 相當ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡シタル不當ノ裁判ニシテ擬律ノ錯誤アリトス被告ハ五圓紙幣ノ偽
 造タル情ヲ知ラスシテ受取リ眞正ノ紙幣ト信シテ他人ニ交付シタルモノナレハ詐欺取財罪ヲ
 構成セス抑モ詐欺取財ハ惡意ヲ以テ人ヲ欺罔シ又ハ恐喝シテ財物ヲ騙取スルニ非サレハ犯罪
 ノ成立スヘキモノニ非ス原判文ニ記載シタル被告カ止宿料等ヲ支拂フ爲メ五圓紙幣ヲ交付シ
 釣銭ヲ受取リタル事實ハ毫モ欺罔ノ手段ナク又騙取ノ所爲ナシ止宿料ヲ支拂ヒ釣銭ヲ受取リ
 タルハ雙方合意ノ取引上ヨリ成立シタルモノナレハ欺罔ノ意思ナキヲ以テ詐欺取財ノ責ヲ受
 クヘキモノニ非ス元來無意ノ所爲ハ刑ヲ科スヘキモノニ非サレハ無罪ノ言渡ヲ爲スヘキハ相
 當ナルニ原裁判官ハ此事實ヲ認メナカラ刑ノ言渡ヲ爲シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ
 被告カ模造ハ兌換銀券ヲ使用シ金圓ヲ騙取セント企テ人ヲ欺罔シ眞正ノ紙幣ト誤認シ釣銭ヲ
 差出サシメ之ヲ騙取シタル事實ハ原判文ニ詳記スル所ニシテ其詐欺取財罪ハ成立スルハ明白
 ナレハ此事實ニ對シ刑法第三百九十條ヲ適用シ處斷シタルハ相當ハ判決ナレハ本論旨ハ要スル
 ニ裁判官ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ非難スルニ過キスシテ適法ノ理由ナキモノトス
 右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之ヲ棄却ス
 明治三十年八月三日大審院休暇部公廷ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス

○詐欺取財ノ件

明治三十年第六五一號
明治三十年八月六日宣告

○判決要旨

判事ノ評議ヲ公行セサル法則裁判所構成法第二百一十一條ハ當事者其他傍聽人
 等ニ評議ノ顛末並ニ各判事ノ意見等ヲ知ラシムルコトヲ禁スルニアリ是故ニ
 筆談ノ方法ニ依リ其事ヲ秘密ニシタル上ハ公廷ニ於テ評議スルモ之ヲ以テ評
 議公行ノ不法アリト云フヲ得ス

(參照) 判事ノ評議ハ之ヲ公行セス但シ豫備判事及試補ノ傍聽ヲ許スコトヲ得(裁判所
 法第二百一十一條第一項)

第一審 神戸地方裁判所

第二審 大阪控訴院

公訴私訴上告人 吉見春藏

辯護人 高木益太郎

私訴被上告人 小森鹿藏

右春藏カ詐欺取財被告事件及附帶私訴ニ付明治三十年五月二十九日大阪控訴院ニ於テ審理ノ
 未公訴ニ付テハ原判決ヲ取消シ更ニ被告ヲ重禁錮十月罰金十圓監視六月ニ處ス檢事ノ附帶控
 訴ハ之ヲ棄却ス押収ノ賍金千四百六十五圓ハ被害者ニ其他ノ書類ハ各差出人ニ還付ス公訴裁

評議ノ筆談

判費用ハ被告等ノ負擔トスト言渡シ私訴ニ付テハ原判決ヲ廢棄シ控訴人等ハ被控訴人ニ對シ
金五百十一圓ヲ賠償スヘシ私訴費用ハ一二審トモ控訴人等ノ負擔トスト言渡シタル判決ニ對
シ被告ハ上告ヲ爲シ原院檢事長代理檢事山下雄太郎ハ公訴ノ判決ニ對シ附帶上告ヲ爲シ原判
決ノ破毀ヲ要求シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ
原院檢事附帶上告ノ要旨第一點ハ原判決ニ於テ當院檢事ハ被告カ返リ證書ヲ騙取シタルモノ
トノ理由ヲ以テ附帶控訴ヲ爲シタルモノトシ其附帶控訴ハ之ヲ棄却スト判決シタリ然ルニ檢
事附帶控訴ノ主旨ハ被告カ明治二十九年八月三日小森鹿藏ヨリ金八百圓ヲ騙取シタル際先キ
ニ同人ニ交付シタル賣渡證書ハ當時他人ノ手ニアリ之ヲ取返シ能ハサルヨリ其證書ハ無効ナ
リトノ返リ證書ヲ受取り更ニ曖昧ノ文字ヲ記シ且ツ杉檜若林植込ヲ除ク云々ト書シタル賣渡
證書ヲ同人ニ渡シタル處翌四日右證書ニアル曖昧ナル文字訂正スヘキ様鹿藏ヨリ申込マレ被
告ハ同人方ニ赴キ之ヲ訂正シタルモ實印持參セサルニ付明日來リテ押印ス可シト偽リ歸宅シ
前日同様曖昧ナル文字ヲ記入シ且杉檜並若林植込ヲ除ク云々ト書キ改メタル證書ヲ作り翌五
日鹿藏方ニ至リ同人ヲ欺キ其契約條件ヲ異ニシタル證書ヲ以テ同月三日交付シタル賣渡證書
ト引交ヘ詐取シタルハ證書騙取ノ所爲アルモノト爲スニアリテ返リ證書騙取ニ付附帶控訴ヲ
爲サルニ拘ハラス原判決ハ檢事ノ請求スル處ニ對シテハ何等ノ判決ヲ與ヘス却テ請求セサ
ル件ニ付判決ヲ爲シタルハ違法ナリト云フニ在リ○因テ原院公判始末書ヲ査閱スルニ檢事曰

(中略第一ノ事實ノ内八月四日ニ證書ヲ與ヘ居リナカラ翌五日ニ至リ杉檜井ニ若林植込ヲ除ク
外ト書キアル證書ヲ後ニ引替ヘタル事モ明了ニシテ此點ニ付テ附帶控訴ヲ爲ス證書騙取ノ所
爲ハ刑法第三百九十九條第三百九十四條ヲ適用處分スヘキモノナリト論告シタリトアリテ原院
檢事カ附帶控訴ノ旨趣ハ甲ノ證書ヲ以テ乙ノ證書ト引替ヘ其交付ヲ受ケタルハ即チ乙ノ證書
ヲ騙取シタルモノナリト爲スニ在リテ被告カ別ニ小森鹿藏ヨリ前ノ證書ハ無効ナリトノ返リ
證書ヲ請取リタル點ニ付附帶控訴ヲ爲シタルモノニ非サルコト明瞭ナリ然ルニ原院ハ此返リ
證書受取ノ點ニ付附帶控訴アリタルモノトシ檢事ノ附帶控訴ハ之ヲ棄却スト判決シタルハ一
面ニ於テハ請求ヲ受ケサル事件ニ付判決ヲ爲シ一面ニ於テハ請求ヲ受ケタル事件ニ付判決ヲ
爲サル違法アルモノニシテ本論旨ハ其理由アリトス已ニ此點ニ於テ公訴ニ關スル原判決ノ
破毀ヲ認ムル上ハ他ノ論旨及ヒ被告カ公訴上告論旨ニ對シテ々々説明ヲ與フルノ必要ナシ
被告カ私訴上告趣意書ノ要旨ハ原院ハ被告ノ所爲ヲ詐欺取財ナリト判定セシヨ山林賣買ハ正
當ニ成立シタルモノナレハ私訴トシテ提出スヘキモノニ非サルニ私訴トシテ判定ヲ與ヘタル
ハ不法ナリト云フニ在リテ○原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ批難スルニ過キス適法上告ノ
理由ナシ

辯護士高木益太郎カ上告辯明ノ要旨第一點ハ證人田中徳之助ノ豫審調書ハ前後二回ニ分レ其
第一回調書成立ノ際ニハ民事原告人ナク第二回調書成立ノ前ニ民事原告人ヲ生シタルニモ拘
ハラス豫審判事ハ更ニ宣誓ノ式ヲ爲サシメスシテ引續證人トシテ取調ヲ爲シタルハ欠式ノ措

置タリ從テ同人ノ第二回調書ハ證言ノ効力アルモノニアラス然ルチ原判決カ其調書全部ヲ證言ノ効力アルモノト認メ證據ニ採用シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○證人田中徳之助ノ第二回豫審調書ニ其方ハ小森鹿藏ト親戚同居人雇人等ノ關係ナキヤ答何ノ關係モナシトアリテ豫審判事カ同人ト民事原告人トノ間身分上何等ノ關係ナキコトヲ確證シタル上ハ更ニ同人チシテ宣誓ヲ爲サシムルノ必要ナシ何トナレハ同人ハ第一回訊問ノ際已ニ本件ニ付適式ノ宣誓ヲ爲シタルモノナレハナリ故ニ原院カ同人ノ調書全部ヲ本件公訴判決ノ資料ニ供シ而シテ其公訴判決ノ理由ヲ私訴判決ニ採用シタルハ相當ニシテ毫モ違法ノ廉アルコトナシ同第二點ハ豫審判事ヨリ梅原裁判所判事ニ對スル證人訊問囑托書ニ單ニ被告入ノ氏名ヲ掲ケ民事原告入ノ氏名ヲ掲ケアラサルチ以テ囑托ヲ受ケタル判事ハ民事原告入ノ氏名ヲ知ルノ途ナク從テ證人金子彌之助ニ對シ民事原告人ノ氏名ヲ告知シタルモノト看做ス能ハス左スレハ右證人ハ現實民事原告人トノ間ニ於ケル身分上ノ關係ヲ取調ヘタルモノニ非サルコト明白ナルチ以テ同人ノ調書ハ證言ノ効力アルモノニ非ス然ルチ原判決之チ證據ニ採用シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○證人金子彌之助ノ訊問調書ニ依レハ受托判事ハ同人ニ對シ民事原告人トノ身分上ノ關係ヲ問糺シ同人ニ於テ一切關係ナキコトヲ答ヘタル旨明記シアレハ本論旨ハ到底相立タス同第三點ハ原院ニ於テ辯護人ノ爲シタル證據調申請ニ對スル裁判チ爲スニ當リ公開ノ法廷ニ於テ筆談ヲ以テ合議シタル事ハ公判始未書ニ裁判長ハ筆談合議ノ上墨色鑑定ハ採用セスト決定チ告クト掲ケアルニ依リ明白ナリ右ハ裁判所構成法第百十九條第百二十一條ニ違反

シタルモノナリト云フニ在レトモ○法律ハ憲ハ評議チ公行シ當事者其他傍聽人等ニ其觀未並ニ各判事ハ意見等ヲ知ラシムルコトヲ禁スルニ在リ左レハ筆談ハ方法ニ依リ其事ヲ秘密ニシタル上ハ評議ハ場所ハ公開ハ法廷ナルモノチ以テ直ニ評議チ公行シタル違法アルモノト論スハカラス因テ本論旨モ亦相立タス
右ノ理由ナルチ以テ刑事訴訟法第二百八十六條ニ則リ公訴ニ關スル原判決ヲ破毀シ本件ヲ廣島控訴院ニ移送シ更ニ適法ノ審判ヲ爲サシム私訴上告ハ同法第二百八十五條ニ依リ之ヲ棄却ス

私訴上告ノ費用ハ被告ノ負擔トス

明治三十年八月六日大審院休暇部公廷ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス

○竊盜私書偽造行使等ノ件

明治三十年第七一四號
明治三十年八月十七日宣告

○判決要旨

他人ニ宛タル爲替券封入ノ信書ヲ竊取シタル所爲ハ竊盜罪ナリ從テ其爲替券

爲替券ノ竊取

ニ虚偽ノ記入ヲ爲シ郵便局ニ提出シテ金圓ヲ領收シタル所爲ハ竊盜罪ノ結果ニシテ他ノ犯罪ヲ構成セス

第一審 東京地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 安部正人

右正人カ竊盜私書偽造行使詐欺取財被告事件ニ付明治三十年六月十五日東京控訴院ニ於テ東京地方裁判所ノ判決ニ對スル被告ヨリノ控訴ヲ審理シ本件控訴ハ之ヲ棄却スト言渡シタル判決ヲ不法ナリトシ原院檢察長野村維章ハ上告ヲ爲シ被告正人モ亦附帶上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ遂審理處

檢察長上告ノ要旨ハ當院ノ判決ハ被告人カ他人ニ宛タル郵便爲替ヲ竊取シ他人ノ名義ヲ詐リ郵便局ニ至リ右替爲券ヲ提出シ金圓ヲ騙取シタルノ事實ヲ認め之ニ竊盜罪私書偽造詐欺取財罪ノ刑ヲ適用シタルハ違法ノ裁判ナリト信ス何トナレハ郵便爲替竊取ノ所爲中ニハ右爲替ヲ處分スル權ヲモ包含スルヲ以テ本件ニ刑法第二百六十六條ヲ適用シ尙ホ同法第三百九十條ヲ適用シタルハ不法ニシテ本件ハ第一第二共疑律錯誤ノ判決ナリト云フニアリ○因テ原院文ヲ査閱スルニ其第一第二ノ所爲共ニ他人ニ宛タル郵便爲替金券在中ノ郵便信書ヲ竊取シ其中ニアリシ爲替券面爲替金受取人記名調印トアル欄内ニ受取人ナル他人ノ住所氏名ヲ記入シ其名下ニハ有合印ヲ捺捺シ郵便電信支局ニ至リ本人ノ如ク裝ヒ右ノ爲替券ヲ提出シテ同局員ヲ欺キ金員ヲ差出サシメ之ヲ騙取シタルハ事實ヲ判示シアルモ其爲替券ニ虚偽ノ記入ヲ爲シ之

ヲ郵便電信支局ニ提出シテ金員ヲ領收シタルハ要スルニ爲替券在中ノ郵便信書ヲ竊取シタルヨリ生ズル結果ニシテ別ニ犯罪ヲ構成スヘキモノニアラス故ニ原院カ右ノ事實ニ對シ竊盜ノ右法條ヲ適用シタルノ外尙ホ私書偽造行使詐欺取財ノ二罪アリトシテ右ニ關スル各法條ヲ適用處斷シタルハ疑律錯誤ノ判決タルヲ免レサルモノトス

被告カ附帶上告要旨ノ第一點ハ本件ニ對スル原院ノ判決ハ事實ヲ不當ニ認め不法ニ手續ヲ作爲シテ裁判ニ理由ヲ付シタルモノナリ則第一第二共其郵便爲替券ハ如何ナル場所ニアリタルモノヲ竊取セシヤ甚々詳カナラス朝比奈正ノ爲替券ハ一月七日頃二松學舎ノ信書函ニアリタルモノヲ竊取シタリト明示セリ然レトモ其信書函ニアリタルモノヲ竊取シタル事實ノ證據トシテ觀ルヘキモノナク第二田中治三部ノ爲替券ハ二月六日二松學舎ノ幹事室ニ掛ケアル信書函中ニアリタルモノヲ竊取シト判示シアルモ是亦不當ノ理由ナリ而シテ前兩項ニ於ケル爲替券ヲ飯田町郵便電信支局ニ提供シテ金員ヲ騙取シタリトノ手續モ敢テ證據トスルモノ之ナシ然ルチ不當ニモ錯誤ナル理由ヲ付シ判決シタルハ違法ナリト云フニアリテ○本論旨ハ要スルニ原院ノ職權ニ屬スル證據ノ取捨事實ノ認定ニ對シ徒ラニ批難ヲ試ムルモノニ過キササルヲ以テ上告適法ノ理由ナシ同第二點ハ原院カ裁斷ノ證據トセシ他人ノ供述ハ如何ナルモノナルヤ何等ノ差示シモナクシテ之ヲ證據ノ部ニ明示セリ想フニ差示シナキ證據ヲ採テ直ニ裁斷ノ證據トナセシハ被告ノ辯護權ヲ侵害シタル不當ノ判決ナリト云フニアレトモ○原院公判始末書ヲ査スルニ裁判長間フ本件記録一切ノ朗讀ヲ省畧シテ異存ナキヤ被告并ニ辯護人共異存ハア

マセムト答ヘタル旨明記シアレハ被告ニ示サ、ル證據ヲ探テ斷罪ノ資料ニ供シタル不法アリト論争スルヲ得サルモノトス

右ニ説明セシ如クナルヲ以テ被告正人ノ附帶上告ハ其理由ナシト雖トモ原院檢察長ノ上告ハ其理由アルニ依リ刑事訴訟法第二百八十六條同第二百八十七條ノ規定ニ則リ原判決ヲ破毀シ本院ニ於テ直チニ判決スルコト左ノ如シ

安部 正人

原院カ認メタル事實ニ依リ之ヲ法律ニ照スニ被告カ第一ノ所爲ハ屋外竊盜ニシテ其贓金五圓以下ナルヲ以テ明治二十三年法律第九十九號第一條ニ該當シ第二ノ所爲ハ刑法第三百六十六條同第三百七十五條ニ該當ス右數罪俱發スルヲ以テ同法第百條ヲ適用シ犯情重キ第二ノ所爲ニ從ヒ被告正人ヲ重禁錮六月ニ處シ監視六月ニ付ス其他ハ原判決ノ通りタルヘシ

明治三十年八月十七日大審院休暇部公延ニ於テ檢察安居修藏立會宣告ス

○官吏侮辱官吏抗拒ノ件

明治三十年第六九一號
明治三十年八月二十四日宣告

○判決要旨

(判旨第二點) 第二審ニ於テ第一審カ制裁ノ基本トナシタル犯情重キ所爲ヲ無罪トナシ犯情輕キ所爲ニ對シ重キ犯情ニ科シタルト同一ノ刑ヲ科スルモ之ヲ以テ不利益ノ變更ト云フヲ得ス

(判旨第三點) 刑事訴訟法第二十一條ニ所謂欄外ノ記入トハ其本文ニ入ルヘキ文詞ヲ欄外ニ記入スルヲ謂フニアリテ削除シタル字數ヲ欄外ニ記載スルノ謂ニアラス

(參照) 官吏其他何人ニ限ラス訴訟ニ關スル書類ノ原本正本又ハ謄本ヲ作ルニ付文字ヲ改竄スヘカラス若シ挿入削除及ヒ欄外ノ記入アルトキハ之ニ認印スヘシ文字ヲ削除スルトキハ之ヲ讀得ヘキ爲メ字體ヲ存シ其數ヲ記載スヘシ此規定ニ背キタルトキハ其變更増減ノ効ナカルヘシ(刑事訴訟法第二十一條)

第一審 水戸地方裁判所下妻支部 第二審 東京控訴院

被告人 倉持要吉 辯護人 花井卓藏
倉持龍三郎 高木益太郎

右兩名カ官吏侮辱官吏抗拒被告事件ノ控訴ニ付明治三十年六月十七日東京控訴院ニ於テ言渡

犯情ノ輕重○欄外ノ記入

シタル判決ヲ不法トシ被告ヨリ上告ヲ爲シタルニ依リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ

被告兩名カ上告趣意書ノ第一ハ被告等ハ原院判定ノ如キ犯罪行爲ヲ爲シタルコトナシ赤澤龜吉ノ巡查タル事實ハ全ク之ヲ知ラス又同人ノ行働ハ巡查ノ官職ヲ帶フル者ノ爲スヘキ所爲ニ非サル事ハ一件記録ニ徴シテ明瞭ナルニ拘ラス同人等ノ供述ノミヲ證據トシ侮辱罪ヲ構成スルモノトシ有罪ノ言渡ヲ爲シタルハ擬律ノ錯誤ナリト云フニ在リテ

〇要スルニ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定證據ノ取捨ニ對シ不服ヲ唱フルニ過キサレハ上告ノ理由トナラス

〔同第二ハ原院ハ第一審裁判所ニ於テ認メタル二個ノ犯罪中其一(其重シト認メタル官吏抗拒ノ所爲)ヲ無罪トシ其判決ヲ取消シタルニ拘ラス被告ニ同一ノ刑ヲ科シタルハ結局被告人ノミノ控訴ヲ不利ニ變更シタル不法アルチ免レスト云フニ在レ

〇第二審ニ於テ第一審裁判所カ重シト認メタル罪ヲ無罪トナシ其同一ハ刑ヲ殘餘ハ罪ニ科シタリトテ之ヲ不利ニ變更ト云フ可カラサルナリ何トナレハ只其論スル罪ニ異動ヲ生シタルノミニシテ被告カ現實執行ヲ受クヘキ刑ニ至リテハ毫モ異ナル所之レナケレハナリ故ニ本論旨モ上告ノ理由ナシ

辯護人花井卓藏カ擴張書ノ第一ハ被告上告第二ノ趣旨ヲ布衍スルニ過キサレハ其理由ナキコト右說明ニ依リ了解スヘキチ以テ覆説ノ要ナシ

〔同第二ハ原院文ヲ見ルニ右被告共カ官吏侮辱ノ所爲ハ各刑法第二百四十一條第一項ニ該當ス云々〕

トアリ然レトモ該罪ハ第四百四十一條第一項ヲ適用スヘキモノニ非ス乃チ右ハ擬律錯誤

判旨第二點

ノ不法アルモノト信ス但シ原院文中二ノ字ヲ削リ欄外ニ「一字削」ノ文字アリト雖モ右欄外ノ記入ニハ認印ナキチ以テ刑事訴訟法第二十一條ノ規定ニ基キ該削除ハ無効ニ歸スヘキモノナリト云フニ在レトモ

〇原院文ヲ查閱スルニ刑法第二百四十一條第一項トアル二ノ字ヲ削除シテ之ニ認印シ且ツ其削除シタル字數ヲ欄外ニ記載シアリテ刑事訴訟法第二十一條ノ規定ニ則リアレハ其削除ノ効アル勿論ニシテ原院判決ノ擬律上毫モ不法ノ點ナシ本論旨ハ右判決書ノ欄外ニ「一字削」トアルチ指シテ刑事訴訟法第二十一條ニ謂フ所ノ欄外記入ナリト爲スモノナレトモ同法ハ所謂欄外記入トハ其本文ニ入ルヘキ文詞ヲ欄外ニ記スルチ云フニ在リテ彼ハ削除シタル字數ヲ欄外ニ記載スルチ云フハ謂ニアラス要スルニ本論旨ハ法文ノ誤解ニ出ルチ以テ固ヨリ取ルニ足ラス

辯護人高木益太郎カ辯明書ノ要旨ハ官命抗拒事件ニ就テ原院ハ無罪ノ判決ヲ與ヘタルニ不拘公訴裁判費用ハ第一審判決ト等ク全部負擔ヲ命シタルハ不法ナリ若シ全部負擔ノ裁判ヲ相當ナリトセン乎被告ノ控訴申立書ニ依レハ此點ニ付控訴ナカシ事明亮ナルチ以テ原院カ被告ノ不服ナキ點ニ向ツテ審及シタルハ違法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ

〇本案官吏侮辱事件ト官吏抗拒事件ハ相牽連シ特ニ官吏抗拒事件ニ付要シタル費用之レアルニ非ス故ニ原院カ抗拒事件ニ對シ無罪ヲ言渡シタルニ不拘尙ホ費用全部ノ負擔ヲ被告ニ命シタルハ敢テ不法ニ非ス又被告カ第一審判決ノ全部ニ對シ控訴ヲ爲シタルモノナル事ハ載セテ原院公判始末書ニ明カ

ナレハ被告ハ裁判費用ノ點ニ付テハ控訴ヲ爲サストノ論告ハ其謂レナシトス論旨後段ヨ相立
 ナス
 右ノ理由ナルニ依リ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之ヲ棄却ス
 明治三十年八月二十四日大審院休暇部公廷ニ於テ檢事安居修職立會宣告ス

○火藥密造ノ件

明治三十年第六八八號
 明治三十年八月卅一日宣告

○判決要旨

刑法第九條ニ從犯ハ正犯ノ刑ニ一等ヲ減ストアルハ正犯カ現ニ受ケタル刑
 ヨリ一等ヲ減スヘキモノニアラスシテ法律ニ定メタル正犯ノ刑ヨリ一等ヲ減
 スヘキ趣意ナリトス

(參照) 重罪輕罪ヲ犯スコトヲ知テ器具ヲ給與シ又ハ誘導指示シ其他豫備ノ所爲ヲ以
 テ正犯ヲ幫助シ犯罪ヲ容易ナラシメタル者ハ從犯トナシ正犯ノ刑ニ一等ヲ減ス但正
 犯現ニ行フ所ノ罪從犯ノ知ル所ヨリ重キ時ハ其知ル所ノ罪ニ照シ一等ヲ減ス(刑法第
 九條)

第一審 札幌地方裁判所

第二審 函館控訴院

被告人 伊東 敬

辯護人 黒須龍太郎

右火藥密造被告事件ニ付明治三十年六月十九日函館控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ服セス被
 告ヨリ上告ヲ爲シタルニ依リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ辯護士黒須龍太郎ノ
 辯論檢事藤堂融ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

上告趣意第一點ハ被告ハ植村初藏外五名ハ硝石硫酸ヲ賣渡スニ方リ彼等カ火藥ヲ密造スル事
 實ハ知ラサリシコトナルニ原院カ被告ニ於テ密造ノ情ヲ知テ硝石等ヲ供給シタリト認定シタ
 ルハ違法ナリト云フニ在リテ○原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ批難スルニ過キサルヲ以テ
 上告ノ理由ト爲スヲ得ス第二點ハ原判決ニ據レハ被告ノ所爲ハ火藥密造ノ從犯ナルヲ以テ正
 犯ノ刑ニ一等ヲ減シタル範圍内ニ於テ處斷セラルヘキ筈ナルニ單ニ刑法第五十七條ノ刑期
 範圍内ニ於テ處斷スヘシト説明シタルハ違法ナリト云フニ在リ第三點ハ從犯ヲ罰スルニ方リ
 テハ先ツ其正犯ノ刑ヲ示シ而シテ之ニ一等ヲ減シタルコトヲ明示セサルヘカラス然ルニ原判
 決ノ茲ニ出テサリシハ違法ナリト云フニ在レトモ○原判決ハ火藥密造ノ正犯ノ刑即刑法第百
 五十七條及ヒ從犯ハ正犯ノ刑ニ一等ヲ減スヘシトノ法條即同法第九條ヲ明示シ右第百五十
 七條ノ刑ニ一等ヲ減シタル範圍内ニ於テ被告ヲ重禁錮五月罰金四十圓ニ處斷スヘキコトヲ説
 明シタルニ依リ法律ノ理由ニ於テ欠ケル所ナキヲ以テ上告論旨ハ其理由ナシ辯護士黒須龍太
 郎ノ辯明第一點ハ原判決ハ被告ニ對シ本件第四ノ所爲乃チ村上熊八ニ硝石等ヲ賣渡シタル罪
 ニ付重禁錮五月罰金四十圓ニ處斷セラレナカラ其第四ノ犯罪ノ正犯者タル熊八ニ對スル刑罰

從犯ノ減刑

六十三

ノ程度ヲ示サス又火藥密造ノ正犯者タル初藏ヨリ重キ刑罰ニ處セラレタルハ如何ナル理由ナ
 メヤ之ヲ解スル能ハス畢竟原判決ハ法律ノ理由分明ナラサル違法アリト云フニ在レトモ○刑
 法第九條ニ從犯ハ正犯ノ刑ニ一等ヲ減ストアルハ正犯カ現ニ受ケタル刑ヨリ一等ヲ減スル
 ハ法意ニアラスシテ法律ニ定メタル正犯ノ刑期ヨリ一等ヲ減スヘキモハナリ故ニ本件ノ場合
 ニ於テ從犯タル被告ヲ處分スルニハ火藥密造ノ正犯ノ刑即刑法第一百五十七條二月以上二年以
 下ノ重禁錮二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヨリ一等ヲ減シタル範圍内ニ於テ其刑期ヲ定ムヘク
 第四ノ所爲ノ正犯タル熊ハナル者ノ實際受クヘキ刑ノ程度ヲ定ムルヲ要セス又相被告初藏カ
 處斷ヲ受ケタル火藥密造罪ハ被告カ處斷ヲ受ケタル本件第四ノ所爲ニ關係ナキヲ以テ固ヨリ
 刑ノ輕重ニ付論争スルヲ得ヘキ理由ナシ原判決ハ上告趣意第二點第三點ニ對シテ説明セシ如
 ク法律ノ理由ニ於テ缺クル所ナキヲ以テ上告論旨ハ適法ノ理由ナシ第二點ハ被告カ差押ヲ受
 ケタルニアラスシテ任意ニ提出シタル證據品ニ付還付ノ言渡ヲ爲シタルハ違法ナリト云フニ
 在レトモ○押收シタルト被告カ任意ニ提出シタルトニ論ナク裁判所ニ領置シタル證據品ニシ
 テ沒收ニ係ラサルモノハ之ヲ還附スヘキコト勿論ナルヲ以テ原院カ被告ヨリ任意ニ提出シタ
 ル手控書ニ付還附ノ言渡ヲ爲シタルハ違法ニアラス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十年八月三十一日大審院休暇部公廷ニ於テ檢事藤堂融立會宣告ス

大審院刑事判決錄

大審院刑事判決錄

第三輯 第八卷

○官吏侮辱等ノ件

明治三十年第七二〇號
明治三十年九月十日宣告

○判決要旨

明治十四年布告第七十二號第五條ニ所謂法律規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ再犯加重及ヒ數罪俱發ノ例ヲ用ヒストハ刑法施行以前ノ法律規則ヲ指シタルモノトス

(參照) 法律規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ再犯加重及ヒ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス
(明治十四年布告第七十二號第五條)

第一審 橫濱地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 島村太郎吉

辯護人

(岸) 小三郎
毛登馬

刑法施行前ノ法律規則

右官吏侮辱及ヒ曳船制限令違犯被告事件ニ付明治三十年六月二十五日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決コ服セス被告ヨリ上告シタルニ依リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ辯護士岸小三郎石原毛登馬ノ辯論檢察廳堂融ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

上告ノ趣意ハ原院カ斷罪ノ資料ニ供シタル證據物件ヲ被告ニ示シ辯論ヲ爲サシメサリシハ違法ナリト云フニ在レトモ○原判決ニ證據トシテ採用シタルハ證據書類及ヒ被告ノ供述ニシテ證據物件アルコトナシ而シテ一切ノ證據書類ニ付證據調ノ手續ヲ爲シタルコトハ公判始末書ニ明記スル所ナルヲ以テ上告論旨ハ適法ノ理由ナシ」擴張第二點ハ原判決ニ本件神奈川縣令第三十六號曳船制限令違犯ノ罪ヲ官吏侮辱罪ト數罪俱發例ニ照シ又疊ニ同令違犯罪ヲ犯シタルコトアリトテ官吏侮辱罪ヲ再犯加重例ニ照シテ處斷シタルハ明治十四年第七十二號布告ニ違背シタル不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○同布告第五條ニ法律規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ハ再犯加重及ヒ數罪俱發ハ例ヲ用ヒストアルハ刑法施行以前ハ法律規則ヲ指シタルモハナルヲ以テ神奈川縣令第三十六號曳船制限令ハ如キ刑法施行以後發布ハ規則違犯ニ付テハ刑法ハ再犯加重及ヒ數罪俱發ヲ適用スヘキモハトス故ニ原判決ハ適法ニシテ上告論旨ハ其理由ナシ」

第三點ハ已ニ第一審ニ於テ確定シタル曳船制限令違犯罪ト控訴シタル官吏侮辱罪トハ同時ノ起訴ニ係ルヲ以テ原院カ之ニ對シ刑法第二百一條第一項ヲ適用シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○本件曳船制限令違犯罪ト官吏侮辱罪ト同時ニ起訴アリタリト雖トモ該制限令違犯罪ニ付第一審判決確定シタル上ハ第二審ニ於テ官吏侮辱罪ヲ判決スルニ方リ其確定シタル該制限

令違犯罪ヲ刑法第百條ニ所謂未タ判決ヲ經サル罪ト爲スヘカラサルコト論ナキヲ以テ原判決ニ已ニ判決ヲ經タルモノトシテ刑法第百二條ヲ適用シタルハ相當ニシテ上告論旨ハ適法ノ理由ナシ」第四點ハ原判決ニ官吏侮辱罪ヲ認定シテ其理由中ニ侮辱ノ意思アリタルコトヲ說明セサルハ違法ナリト云フニ在リ第五點ハ原判決ニ再犯タル理由ヲ示サシテ再犯加重例ヲ適用シタルハ違法ナリト云フニ在リ○然レトモ被告カ巡查ヲ侮辱スルノ意思アリタルコトハ原判決ニ掲載セシ被告ノ言語ニ依リ之ヲ認メ得ヘク又再犯ノ理由ハ原判決ニ被告ハ疊ニ屢々明治二十九年神奈川縣令第三十六號曳船制限令違犯ニ因リ罰金ニ處セラレ云々ト説明シアルヲ以テ明瞭ナリ故ニ原判決ハ適法ニシテ上告論旨ハ總テ其理由ナシトス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十年九月十日大審院休暇部公廷ニ於テ檢察廳堂融立會宣告ス

○約束手形變換行使ノ件

明治三十年第七三四號
明治三十年九月二十日宣告

○判決要旨

手形保證人ヲシテ其債務者ト連帶シテ義務ヲ負擔セシムルノ規定商法第七百五十一條ハ單ニ債權者ニ對シ連帶責任ヲ負ハシメタルニ止マリ主タル債務者ト保證人トノ權利關係ハ毫モ變更ヲ受クヘキモノニアラス是故ニ保證人名義ヲ純然タル連帶債務者ノ如ク變更シタル所爲ハ手形變換行使罪ヲ構成ス

(參照) 爲替手形ニ於テ爲替債務者ノ署名ニ自己ノ署名ヲ添フル第三者ハ其債務者ト連帶シテ義務ヲ負フ(商法第七百五十一條)

爲替手形其他裏書ヲ以テ賣買スヘキ證書若クハ金額ト交換スヘキ約定手形ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ者ス(刑法第二項九條第一項)

第一審 長野地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 瀧澤龜次郎 辯護人 上原鹿造

右約束手形變換行使被告事件ノ控訴ニ付明治三十年六月三十日東京控訴院ニ於テ審理ノ末本件控訴ハ之ヲ棄却スト言渡シタル判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ

上告趣意書ノ要旨ハ約束手形ニ署名シタル者ハ連帶ノ責任ヲ以テ債務ヲ辨償スヘキモノナルコトハ商法ノ規定ニ處ナルヲ以テ其署名者ノ一人ニ保證人ノ肩書アルト否トハ手形ノ實體ニ影響スルコトナシ故ニ假リニ原院ノ認ムル事實ニ依ルモ犯罪ヲ構成スヘキモノニ非サルニテ有罪トナシタルハ不法ナリト云フニ在リテ被告ハ尙ホ辯明書辯明追申書ヲ提出シテ前掲論旨ヲ敷衍辯明セリ○因テ審案スルニ手形ニ署名シタル第三者ハ其債務者ト連帶シテ義務ヲ負擔スヘキコトハ上告論旨ハ如ク商法ノ規定ニ處ナルモ此規定タル單ニ右第三者ヲシテ債權者ニ對シ連帶責任ヲ負ハシメタルニ止マリ主タル債務者ト第三者即チ保證人トノ權利關係ハ爲之ニ毫モ變更ヲ受クヘキモノニ非ス故ニ本件被告ノ所爲ニ因リ債權者ハ害ヲ受クルコトナキモ保證人トシテ署名シタル高木伴十郎ハ債務者義ヲ變換シ恰モ純然タル連帶債務者ノ如ク爲シタル上ハ同人ニ對シ害ノ生シ得ヘキコト言テ啖タス左レハ原院カ被告ノ所爲ニ對シ刑法第二百九條第一項等ヲ適用シ處斷シタルハ固ヨリ相當ニシテ本論旨ハ其理由ナシトス辯護士上原鹿造カ上告理由追加ノ要旨ハ原院判決カ斷罪ノ證據トシテ採用シタル瀧澤友治ノ證言ハ龜次郎ノ被告事件ノ爲メ取調ヲ受ケタル陳述ニ非サルコトハ原院判決ノ說明ニヨリ明了ナリトス隨テ友治カ龜次郎ノ被告事件ニ對シ刑事訴訟法第二百一十一條第二百二十三條以下ノ抵觸ナキヤ否之ヲ知ルニ由ナシ然ルニ原院判決カ漠然右證言ヲ採用シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○訴訟記録ヲ査閱スルニ瀧澤友治カ證人トシテ陳述ヲ爲シタルハ被告龜次郎カ未タ本件ノ被告トシテ訴追ヲ受ケサル以前ニ在リ左レハ當時豫審判事カ問料セサリシハ當然ニシテ隨

保證人名義ノ變更

テ原院カ右友治ノ豫審調書ヲ證據ニ採用シタルハ決シテ違法ニ非ス
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ則リ本件上告ハ之ヲ棄却ス
明治三十年九月二十日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス

○刑ノ執行ニ對スル異議ノ件

明治三十年抗告第一〇號
明治三十年九月二十四日決定

○決定要旨

大審院ニ於テ甲控訴院ノ判決ヲ破毀シテ乙控訴院ニ移送シタル場合ニ於テ其
後ノ上訴正當ナラサル以上ハ大審院ノ破毀ノ判決ヨリ乙控訴院ノ判決マテノ
日數ハ刑期ニ算入スヘキモノニアラス

原審 名古屋控訴院

抗告人 松谷 東岳

右刑ノ執行ニ對スル異議ノ申立ニ付明治三十年七月七日名古屋控訴院ニ於テ棄却ノ決定ヲ爲
シタルニ對シ被告ヨリ抗告ヲ爲シタルニ依リ刑事訴訟法第二百九十七條ニ則リ決定スルニト

左ノ如シ

抗告ノ趣旨第一ハ本件ハ富山地方裁判所ノ第一審判決ニ對シ大阪控訴院ニ控訴ヲ爲シ同院ハ
明治二十九年十二月五日控訴棄却ノ旨渡ヲ爲シ之ニ對シ上告ヲ爲シ大審院ニ於テ明治三十年
一月二十二日原判決ヲ破毀シテ事件ヲ名古屋控訴院ニ移送シ該控訴院ハ明治三十年二月二十
六日ニ於テ控訴棄却ノ判決ヲ爲シ其判決ニ對シ更ニ上告ヲ爲シタル末明治三十年三月二十六
日大審院ハ上告棄却ノ判決ヲ爲シタリ然ルニ本刑ヲ執行スルニ當リ大審院ヨリ名古屋控訴院
ニ移付セラレン日數ヲ刑期ニ算入セラレンサルニ由リ異議ノ申立ヲ爲シタルニ之ヲ棄却シタル
ハ違法ナリト云フニ在レトモ ○明治三十年一月二十二日大審院ニ於テ大阪控訴院ノ判決ヲ破
毀シタル以後ハ本件ハ富山地方裁判所ノ判決ニ對シ控訴事件トシテ名古屋控訴院ニ繫屬シ
タルモノハニシテ其間ハ日數ハ上告日數ニ非サルヲ以テ其後ハ上訴正當ナラサル以上ハ大審院
ハ破毀ノ判決ヨリ名古屋控訴院ノ判決ハ日迄ヲ刑期ニ算入セサルハ當然ニシテ原決定ハ相當
ナリトス第二ハ原院カ本件異議ノ申立ニ對シ刑事訴訟法第二百二十二條ニ依リ決定ヲ爲シタ
ルハ不當ナリト云フニ在レトモ ○決定原本ニハ刑事訴訟法第三百二十二條ニ依リ決定スル云
々トアリテ第二百二十二條ハ謄本ノ誤寫ニ外ナラサレハ原決定ヲ不當ナリトスルノ理由ト爲
スニ足ラス要スルニ本訴抗告ハ一モ理由ナキヲ以テ刑事訴訟法第三百條ニ依リ之ヲ棄却ス
明治三十年九月二十四日大審院第二刑事部ニ於テ決定ス

○故殺ノ件

明治三十年第七〇五號
明治三十年九月二十七日宣告

○判決要旨

重罪事件ノ公判ニ於テハ其辯護人ハ開廷ノ初ヨリ立會フコトヲ要ス

第一審 甲府地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 保坂清作 辯護人 高木益太郎

右清作ニ對スル故殺被告事件ニ付明治三十年六月二十八日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ服セス被告ヨリ上告ヲ爲シタルニ依リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審理スル左ノ如シ

辯護人高木益太郎辯明ノ第一ハ第一審公判始末書ヲ閱スルニ訴訟記録ノ第六十五葉目ヨリ第七十七葉目迄ノ記載事項中辯護人ノ出廷アリタルコトノ記載ナキヲ以テ視レハ本件被告人ノ訊問及證據調ノ際ニハ辯護人ノ立會ナシテ公判ヲ開廷シタルモノト云ハサルヘカラス然ルニ本件ハ重罪事件ナルヲ以テ辯護人ノ立會ナキニ公判ヲ開キタルハ不法ナルノミナラス如此違法ノ審理ニ基ク被告ノ供述ハ又之ヲ有効ノモノト云フ可ラス從テ第一審判決カ其供述

ヲ有罪ノ證據ニ採用シタルハ失當ノ裁判ナリ故ニ右二個ノ違法ニ就テハ被告ノ控訴其理由アリト云フヘキ者ナルニ原院ハ之ヲ棄却シタルハ法則違反ノ裁判ナリト云フニ在リ○依テ第一審公判始末書ヲ查閱スルニ公判審理ノ際辯護人ハ出廷シ居リタル事跡ヲ認ムヘキモノハ本件ハ事實訊問證據調結了ノ後被告等ニ於テ檢事ノ論告ニ對スル辯論ヲ辯護人ニ讓ル旨ハ答及ヒ藤田辯護人島田辯護人ノ辯論ヲ筆記シタル事項アルハ此事項ニ依レハ事實ハ訊問及ヒ證據調結了ノ後檢事ノ論告ニ對シ辯論ヲ爲スヘキ時期ニ於テ藤田島田ハ兩辯護人ハ出廷シ居リタルコトハ認ムルコトヲ得ヘキモ其以前如何ナルトキニ出廷シタルヤヲ確認スルニ由ナシ辯護人ノ辯論ニシテ實際開廷ハ當初ヨリ審理ニ立會ハサレハ爲シ能ハサルモノナルニ於テハ辯護人等ニ於テ異議ナク辯論ヲ爲シ居ルヲ以テ其當初ヨリ立會フタルコトヲ推論シ得ヘキモ本件ハ如ク豫審ヲ經タル事件ハ如キニ在テハ辯護人ハ開廷審理ノ前既ニ記録等ニ依リ辯論ノ材料ヲ聚集スルヲ以テ審理ハ全部ニ立會ハサルモ實際辯論ヲ爲スコト能ハサルニアラズ殊ニ輕罪事件ハ如ク辯護人ハ立會ヲ以テ裁判ノ構成ニ關係ナキ場合ニ於テハ審理半ヲ過キ初メテ出廷スルモ而モ被告人ハ爲メ出來得ル丈ク利益ノ辯護ヲ爲スカ如キハ實際ニ於テ其例少ナシトモ且ツ被告事件ノ有罪無罪若クハ犯情ノ輕重ヲ辯論スルニ當テハ被告人ノ住所氏名等ノ訊問ハ其材料トナルコト甚々稀ナリ故ニ檢事ノ論告ニ對シテ辯護人ニ於テ辯論ヲ爲シタリト雖トモ之ヲ以テ事實訊問證據調結了立會フタリトハ論證ト爲スコト能ハサルハミナラス公判開廷ハ當初ヨリ立會フタリトハ事實ニ至テハ殊更之ヲ推定スルニ由ナシ本件ハ重罪事件ナルヲ以テ

公判中ノ受命判事○不法手續ノ費用

辯護人ハ立會カ裁判ノ構成ニ關スル協合ナレハ公判開廷ノ初ヨリ辯護人ハ立會ヲ必要トスルニ其事實ハ右ノ如ク公判始末書ヲ以テ論定スルコト能ハサル以上ハ本件第一審ハ公判ハ適法ナリシト否ヲ確認スルコト能ハサル不法アリト云ハサルヘカラス然ルニ原院ハ第一審判決ヲ取消サス被告ノ控訴ヲ理由ナシトシテ棄却シタルハ不法ニシテ其判決ハ全部破毀ヲ免カレザルモノトス既ニ此點ニ於テ原判決ノ全部破毀スヘキ理由アリト認ムル以上ハ他ノ上告論旨ハ一々説明スルノ要ナシ

右ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第二百八十六條ノ規定ニ從ヒ判決スル左ノ如シ
原判決ノ全部ヲ破毀シ更ニ審判セシムル爲メ本件ヲ名古屋控訴院ヘ移送ス
明治三十年九月二十七日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事藤堂融立會宣告ス

○私訴訴訟費用確定決定ニ對スル抗告ノ件

明治三十年抗告第九號
明治三十年九月二十七日決定

○決定要旨

公判進行中被告事件錯綜ノ故ヲ以テ受命判事ヲ選任シ其取調ヲナサシムルハ不法ナリ從テ其受命判事ノ爲シタル處分ハ法律ニ違背シタルモノトス

裁判所自ラ爲シタル手續ノ不法ヨリ生シタル費用ハ之ヲ相手方ニ負擔セシムルコトヲ得ス

原審 東京控訴院

抗告人 村田信十郎

被抗告人 森 彌吉

右中里村々長ノ私訴訴訟費用確定決定ニ對スル抗告ニ付明治三十年七月二日東京控訴院ニ於テ爲シタル決定ニ服セス右村田信十郎ヨリ抗告ヲ爲シタルニ依リ刑事訴訟法第二百九十七條ノ規定ニ從ヒ審理スル左ノ如シ

抗告理由第一ハ原院決定ノ理由ニ曰ク(上尋)合計金五十六圓二十七錢ハ横濱地方裁判所及ヒ名古屋控訴院ニ於テ公訴ノ審理中計算上頗ル錯雜ノ廉アリトシ受命判事ヲシテ被告事件ノ取調ヲ爲サシムル旨ノ決定ヲ爲シ公判ヲ中止シタルヨリ再ヒ開廷スル迄ノ間ニ(中尋)受命判事ノ取調ヲ受ケタル旅費日當ナリ而シテ右二個ノ裁判所カ爲シタル決定及其決定ニ因リ受命判事ノ爲シタル處分ハ共ニ法律ニ違背シタリトハイヘ凡ソ民事原告人タルモノハ私訴審理ノ際ノミニ限ラス公訴審理ノ際ト雖トモ民事原告人トシテ公判ニ參坐スル權利アルハ勿論苟モ民事原告人タル資格ニ於テ裁判所ノ呼出ヲ受ケ出頭シタル以上ハ云々抑モ民事原告人カ公訴ノ審理ニ關シテ受命判事ノ審問ニ應シタルハ法律ニ違背シタル不法ノ手續ナリトテ本案ノ公訴審理

公判中ノ受命判事○不法手續ノ費用

ノ緊關中ニアリテ大審院ノ判決シタル處ナルノミナラス原院ノ決定ニ於テモ其不法ナルコトハ亦認ムル處ナリ然ラハ民事原告人カ呼出ニ應シ出頭シタル事由ハ法律上何等ノ効果ヲ生セサルノミナラス其手續ノ消滅ニ歸シ初メヨリ實行ナカリシモノト見ルヘキナリ果シテ然ラハ民事原告人タル呼出ヲ受ケテ出頭シタルモ私訴審理ノ爲メニハ何等ノ行爲モ爲サリシモノト云ハサル可カラス是レ法律ニ違背シタル手續ノ自然ノ結果ナリ然ルチ本決定ハ單ニ民事原告人タル資格ニ於テ出頭云々ノ理由ヲ以テ其費用ヲ被告人ノ負擔スヘキモノト決定セラレタリ是レ始メニハ民事原告人タル出頭ハ無効ナルヲ認メ作ラ後ニハ之ヲ有効ナルモノトナシタルハ同シク明カニ理由ノ矛盾シタルモノト謂ハサル可ラスト云フニ在リ○依テ案スルニ公判中ハ被告事件カ如何ニ錯雜チ極ムルモ受命判事ヲシテ之カ取調ヲ爲サシムハ決定ヲ爲シ其決定ニ基キ受命判事ハ爲シタル處分ハ法律ニ違背シタルモノハナルコトハ原院モ已ニ其決定ハ理由ニ於テ認ムル處ナリ果シテ然ラハ其違法手續ヨリ生シタル費用ハ之ヲ相手方ニ負擔セシムルコト能ハサルハ當然ナリ殊ニ受命判事ヲシテ取調ヲ爲シタル決定ハ公訴ノ審理中計算上頗ル錯雜ノ際アリトシ受命判事ヲシテ被告事件ヲ取調ヘシメタルモノナレハ少クモ其取調ヨリ生シタル費用ハ私訴訴訟費用ト云フコト能ハサルハ明カナリ然ルニ原院ハ單ニ民事原告人トシテ出頭シタリトノ理由ヲ以テ之ヲ民事被告人タル抗告人ノ負擔スヘキモノト爲シタルハ不法ニシテ抗告ハ其理由アリ

右ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第二百一條民事訴訟法第四百六十四條ノ規定ニ從ヒ決定スル左ノ

如シ

原決定ヲ廢棄シ更ニ相當ノ決定ヲ爲スコトヲ原院ニ委任ス

明治三十年九月二十七日大審院第一刑事部ニ於テ

○私印盜用私書偽造行使ノ件

明治三十年第六六九號
明治三十年九月二十八日宣告

○判決要旨

沒收ノ言渡ハ物件ヲ主眼トス

第一審 水戸地方裁判所 第二審 宮城控訴院

被告人 小林 千代次郎 辯護人 江 木 衷
小林 龍太郎

右私印盜用私書偽造行使被告事件ニ付明治三十年六月三日宮城控訴院ニ於テ控訴棄却ノ言渡ヲ爲シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シ原院檢察事長代理檢察事正木昇之助ハ答辯書ヲ差出シタルニ依リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ檢察事安居修藏辯護士江木衷ノ辯明ヲ聽キ判決スルコト左ノ如シ

沒收ノ言渡

被告千代次郎ノ上告趣意ノ要旨ハ本件ハ高柳源七ト合意上ノ賣買證書ヲ作成シタルモノナルニ私印盗用私書偽造ノ罪アリトシタルハ違法ナリト云フニ在リテ○要スルニ本論旨ハ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ論難スルモノニシテ上告ノ理由ナシ被被告龍太郎ノ上告趣意ノ要旨ハ被告等ハ源七ト合意上真正ニ登記ヲ經由シ賣買手續ヲ了シタルモノニシテ罪科ヲ犯シタルコトナキニ有罪ノ宣告ヲ爲シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ批難スルモノニシテ上告ノ理由ナシ辯明書ノ要旨第一ハ原院公判ニ於テ證據ヲ總テ被告ニ告示シ及ヒ辯解セシメサリシハ不法ナリト云フニ在レトモ○判決ニ證據トシテ採用セサルモノハ之ヲ被告ニ示シ辯解セシムルヲ要セス而シテ原院ニ於テ其採用シタル一切ノ證據物ヲ示シ辯解ヲ求メタルコトハ其公判始末書ニ依リテ明瞭ナレハ論旨ノ如キ不法ノ點ナシ第二ハ原院カ法律適用ニ付檢察ノ意見ヲ聽カスシテ判決ヲ與ヘタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○原院公判始末書ニ依レハ檢察ハ第一審判決ハ適當ニ付控訴ハ理由ナキヲ以テ棄却ヲ請求スル旨ヲ論告シアレハ第一審判決ニ適用シタル法律ヲ適用スヘシト論告シタルモノニシテ法律適用ニ付檢察ノ意見ヲ聽カサルノ不法アリト云フヲ得ス第三ハ委任狀ハ源七自カラ筆記シタルモノナレハ委任狀偽造ノ罪アリトセハ不法ナリ好シ有罪ナリトスルモ委任狀ハ權利義務ニ關スルモノニ非サルヲ以テ刑法第二百十條第一項ニ間擬シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○源七名義ニテ登記出願方ヲ委任スル旨ノ委任狀ヲ偽造シ之ニ同人ノ實印ヲ捺捺シタル事實ハ原院ノ認定シタル所ナレハ偽造罪アリトシテ處斷シタルハ相當ナリ而シテ右委任狀ハ共有

權賣主ノ權利行爲ヲ證スル證書ナルヲ以テ其偽造行使ノ所爲ヲ刑法第二百十條第一項ニ間擬シタルハ相當ノ判決ニシテ上告ハ理由ナシ第四ハ原院カ被告ニ利益ノ證據提出ノ告知ヲ爲サハリシハ不法ナリト云フニ在レトモ○裁判長ヨリ反證トシテ差出スヘキモノ及ヒ利益ノ申立ハナキヤト問タルコトハ公判始末書ニ依リ明カナレハ毫モ不法ノ點ナシ第五ハ第一審裁判所ハ刑及理由沒收ヲ言渡シ證據物ヲ明示シテ言渡ヲ爲サトリシ違法アルニ原院カ之ヲ是認シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○判決ヲ言渡スニハ主文及理由ノ要領ヲ告グルヲ以テ足レリトス而シテ第一審公判始末書ニ依レハ判決主文ヲ朗讀シ其理由ノ要領ヲ口述シタルコト明カナレハ第一審判決ノ言渡ハ違法ニ非ス從テ原院カ其判決ヲ相當ナリトシ控訴ヲ棄却シタルハ不法ニ非ス第六ハ第一審裁判所ハ證據書類ニ付意見ヲ問ハス隨テ被告ニ意見陳述ノ餘地ヲ與ヘサリシ不法アルニ拘ラス第二審ニ於テ第一審判決ヲ是認シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○被告等ニ證據書類ニ付辯解スルコトアリヤト問ヒタルコトハ公判始末書ニ明カナレハ若シ被告ニ於テ意見アレハ十分ニ陳述スルコトヲ得ヘカヤシテ以テ不法ノ點ナク從テ原院カ第一審判決ヲ相當ナリトシタルハ違法ニ非ス第七ハ證人喚問ノ申請ニ對シ原院裁判長ハ檢察ノ意見ヲ聽カス合議ヲ爲サスシテ却下シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○右申請ニ付テハ檢察ノ意見ヲ聽クヲ要セサルノミナラス原院公判始末書ニ依リ檢察ノ意見ヲ聽キ列席合議ノ上却下ヲ言渡シタルコト明白ニシテ違法ノ點ナシ第八ハ地所賣渡證書謄本ハ權利義務ニ關係ナキモノナルニ第一審ニ於テ右謄本ノ作製ハ偽造罪ヲ成スモノナリトシタルハ失當ニシテ原

院ハ其失當ヲ認めナカラ控訴ヲ棄却シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○本件ノ謄本ハ一ノ
 證書トシテ登記所ニ差出スモノニシテ單純ナル寫本ト異ナルヲ以テ之ヲ偽造行使シタル所爲
 ハ罪トシテ罰ス可キモノナレハ第一審判決ハ相當ナリ而シテ原判決ニハ該物件ヲ以テ共有ト
 爲ス旨ノ地所賣渡證書正副各一通ヲ作成シ云々又共有權賣渡證書ト題スル賣渡證書正副一通
 云云ヲ作成セシメトアリテ副本即謄本偽造ノ行爲ヲ認め相當ノ刑ヲ適用シアレハ原判決ハ此
 點ニ於テ第一審判決ノ失當ヲ認めタルニ非ス故ニ之ヲ相當ナリトシ被告ノ控訴ヲ棄却シタル
 ハ相當ノ裁判ナリトス第九ハ第一審判決ニ地所賣渡證書二通ヲ没収ストノミアリテ正本二通
 ノミヲ没収スルノ判旨ナルカ將々正本謄本二通ヲ没収スルノ判旨ナルカ理由ノ備ラサルニモ
 拘ラス原院ハ其第一審判決ヲ相當ナリトシ被告ノ控訴ヲ棄却シタルハ不法ナリト云フニ在レ
 トモ○没収ハ物件ヲ主眼トシテ言渡スモノナレハ其没収ヲ言渡シタル判決主文ニハ物體ヲ確
 示スルモノナリ然リ而シテ第一審判決主文ニ於テハ没収ノ物體ヲ掲ケ單ニ押收シタル地所賣
 渡證書二通ハ没収ストノミアリテ謄本ヲ没収スルノ明記ナシ斯ク没収ノ物體ヲ確示スルニ當
 リ賣渡證書トノミ掲ケタルトキハ本件ニ於テハ正本ノミヲ没収ナリト解スヘキハ當然ニシテ
 第一審判決ハ正本二通ヲ没収スルノ判旨ナルコト明白ナレハ一モ不備ノ廉ナク原院カ第一審
 判決ヲ相當ナリトシテ控訴ヲ棄却シタルハ違法ニ非ス第十ハ被告ニ對シ呼出ト公判トノ間ニ
 二日以上ノ猶豫ヲ與ヘスシテ僅カ二十餘時間ノ猶豫ヲ與ヘタルハ不法ナリト云フニ在レトモ
 ○呼出狀ノ送達ト出頭トノ間二日ノ猶豫ヲ與ヘサリシ事蹟ノ見ルヘキモノナキノミナラス辯

護人ニ對シ二日以上ノ猶豫ヲ與ヘタルコト明白ニシテ且被告ハ異議ナク出頭シ公判ヲ受ケタ
 ルモノナレハ本論旨ハ原判決ニ對スル上告ノ理由トナラス第二回辯明書ノ要旨第一ハ被告千
 代次郎カ金六十圓ヲ源七ニ貸與シタルハ尋常ノ貸借ナルコト小田倉ハル同アサ同鶴松ノ豫審
 調書ニ依リ明カナルニ第一第二審ニ於テアサヲ妾ト爲スヲ以テ貸借ノ原由トナシタルハ證據
 ニ抵觸スル不法ノ認定ナリト云フニ在リテ○事實ノ認定採證ノ當否ヲ批難スルニ外ナラサレ
 ハ上告ノ理由ナシ第二ハ第一審判決ニ於テハ本件賣渡證書ノ正本謄本四通ニ刑ヲ適用シアリ
 然ルニ第二審ニ於テハ單ニ正本二通ニ付テノミ處罰シ第一審ト意見ヲ異ニシナカラ控訴ヲ棄
 却シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○辯明第八點ニ對シ說明シタル如ク原判決ハ謄本偽造行
 使ノ事實ヲ認め法律適用ノ部ニハ地所賣渡證書地所共有權賣渡證書云々ハ各第二百十條第一
 項云云ト掲舉シアリ而シテ本件ノ謄本ハ賣渡證書ニ外ナラサレハ物體ヲ確示スヘキ没収言渡
 ノ判決主文ニ於ケルト異ナリテ法律適用ノ理由トシテハ判文所載ノ賣渡證書ノ中ニ謄本ヲモ
 包含スルモノト解シ得ヘケレハ原院ハ第一審判決ト判定ヲ異ニシタルニ非ス依テ被告ノ控訴
 ヲ棄却シタルハ不法ニ非ス第三ハ被告ハ判決謄本ノ下付ヲ原院ニ請求シタルニ出願ヨリ二十
 餘日間下付ヲ爲サトシハ被告ヲシテ上告ノ時機ヲ誤ラシメントシタルニ非サレハ判決ノ不
 正ナルニ依ルモノナリト云フニ在レトモ○謄本下付當否ニ付論議スルモ之ヲ以テ判決ニ對ス
 ル上告ノ理由ト爲スヲ得ス第四ハ第一審判決ニハ單ニ地所賣渡證書二通ヲ没収ストアリテ正
 本ナルヲ謄本ナルカ共有權賣渡證書ナルヲ分明ナラス又原判決未項ニ賣渡證書ノ正本ノミヲ

没収シ其副本委任状云云ヲ没収セサルハ失當ナリ云々トアリテ其副本トハ第一審判決ノ所謂
 謄本ナリトセハ原判決ヲ取消シ更ニ判決ヲ爲スヘキニ事茲ニ出テサルハ不法ナリ又委任状ト
 ハ何レノ委任状ナルヤ之ヲ知ルニ由ナク結局理由ノ不備ナリト云フニ在レトモ○第一審判決
 ナ以テ没収シタルハ原本ノミナルコトハ第一回辯明第九點ニ對シ説明スルカ如シ而シテ地所
 共有權賣渡證書モ亦々地所賣渡證書ニ外ナラサレハ右ノ賣渡證書ニ包含シ没収シタルモノナル
 コト明瞭ナリ又々謄本ト云ヒ副本ト云フモ物體ニ變更ナケレハ原院ハ副本ノ名稱ヲ付シタリ
 トテ第一審判決ノ失當ヲ認メタルニ非ス故ニ之カ爲メ第一審判決ヲ取消サ、リシハ當然ナリ
 又々原院ノ判決ニ委任状云々ヲ没収セサルハ失當云々ト記載シタルハ事實ノ理由ニ於テ偽造
 ト認メタル委任状ヲ指稱シタルモノナルコト明カニシテ理由ノ不備ナシ第三回辯明書要旨第
 一ハ原判決ニハ印形ヲ偽造シタルノ事實ナキニ刑法第二百八條ノ全部ヲ適用シタルハ法律ノ
 錯誤ナリト云フニ在レトモ○原判決法律適用ノ部ニハ源七ノ印影盗用ノ各所爲ハ刑法第二百
 八條第一項第二項云云ト記載シアリテ同條第一項ヲ適用シタルハ私印偽造ノ罪アリトシタル
 ニ非サルコト明白ナリ第二ハ本件五筆ノ地所ニ付テハ源七ニ縁故ナキコトハ登記簿根木千代
 吉源七妻ノ豫審調査ニ依リ明カナルニ第一審判決ハ源七ニ縁故アリシニ由リ源七ニ讓渡シタ
 ルモノト如ク認定シタルハ不法ナリ然ルニ原院ハ此事實ヲ否認シタルヤ否其理由ヲ附セサル
 ハ失當ナリト云フニ在レトモ○原院ハ事實ノ覆審ヲ爲シタルモノナルヲ以テ假令ヒ第一審ト
 事實ノ認定ヲ異ニスルモ其之ヲ異ニシタル理由ヲ判文ニ説明スヘキモノニ非ス況ンヤ右ノ事

實ハ犯罪構成ノ事實ニ非サルヲ以テ之ヲ省畧シタルモノナルニ於テオヤ第三ハアサカ夫婦別
 レヲ爲シタルハ明治二十五年舊十二月ナリ其以前ハ夫鶴松ト同居シタルコト明カナリ而シテ
 金六十圓ヲ源七ニ貸與シタルハ明治二十四年六月中ナリ左スレハ貸與ノ時アサカ公然妾ト稱
 スコトヲ得サルニ原院ハ源七ノ承諾ヲ得テ公然妾トナシタルニ付其縁故ヲ以テ源七ニ金六十
 圓ヲ貸與シタルモノト認定シタルハ理由ノ艱難ナリト云フニ在レトモ○事實ノ認定ヲ論難ス
 ルモノニシテ上告ノ理由ナシ第四ハ原院公判廷ニ於テ被告ニ最終ノ發言ヲナサシメサリシハ
 不法ナリト云フニ在レトモ○公判始末書ニ被告兩名ニ問最終ノ申立ハナキヤ答一切無之トア
 リテ論旨ノ如キ違法ナシ第五ハ第一審裁判所ニ於テ明治二十九年五月二十九日公判ノ際出廷
 シタル檢事ト其翌日ノ檢事ハ其人ヲ異ニシタルニ公判始末書ニハ同一檢事ノ出廷シタル如ク
 記載シ從テ不正ノ裁判ナルニ原院カ之ヲ是認シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○審理ト判
 決言渡ト其立會檢事ヲ異ニスルモ違法ニアラサルノミナラス公判始末書ニ依レハ同一ノ檢事
 立會タル旨ノ記載アリテ事實ニ反スル記載ヲ爲シタルノ事跡ナケレハ第一審判決ノ瑕疵トナ
 ルヘキ點ナク原院カ該判決ヲ相當ナリトシテ控訴ヲ棄却シタルハ違法ニ非ス第六ハ本件ノ地
 所ニ擴泉ノ湧出セサルコトハ明カナル事實ナルニ原院カ擴泉ノ湧出スルモノト如ク認定シタ
 ルハ失當ナリト云フニ在レトモ○事實ノ認定ヲ批難スルモノニシテ上告適法ノ理由ナシ第四
 回辯明書要旨第一ハ原判決ノ前段ニ於テハ二通ノ證書偽造ノミヲ開シナカラ後段ニハ四通ヲ没
 収シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○原判決ハ賣渡證書ノ正副四通ノ偽造行使ヲ處罰シタ

ルモノナルコトハ第二回辯明第二點ニ對シ説明シタル如クナルヲ以テ四通ノ證書ヲ沒收シタルハ相當ナリ第二回原判決ノ理由前段ニハ被告千代次郎カ正シク買受タルモノト認メナカラ後段ニ源七ノ買印ヲ盗用シ龍太郎ハ源七ナリト詐稱シ云々ト認メタルハ理由ノ齟齬ナリト云フニ在レトモ○前段ハ被告カ恰モ源七ヨリ千代次郎ニ正當ニ賣渡タルモノ、如キ賣渡證書ヲ偽造シタルノ事實ヲ認メタルモノニシテ正當ノ賣買アリシモノト認メタルニ非ス故ニ後段ノ私印盗用及ヒ源七ナリト詐稱シタル事實ト齟齬スル所ナシ第三回原判決ニハ公訴費用ハ被告兩名ヲシテ負擔セシムトノミアリテ其全部ナルカ一部ナルカ明カナラス且控訴費用ノ負擔ヲ言渡サルヲ以テ不明ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○原判決ニハ公訴費用ハ被告兩名ヲシテ連帶負擔セシムルコトノ明示アリ又々其公訴費用ニハ若シ第二審ニ於テ生シタル費用アレハ其中ニ包含スルコト勿論ナリ第四回第一審判決理由ノ部ニ前段ニハ原本トアリ後段ニハ正本トアリテ不明ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○本件ノ事實ニ於テハ原本ト云ヒ正本ト云フモ其意義同一ナルヲ以テ前後文字ヲ異ニスルモ理由齟齬等ノ不法アルコトナシ第五回本件偽造文書ニ對シ刑法第四十三條第一號ヲ適用シ沒收シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○偽造文書ハ法律ノ禁止ヲ犯シ作製シタルモノナルヲ以テ法律ニ於テ禁制シタル物件ナリトシテ沒收シタルハ相當ノ判決ナリ第五回辯明書ノ要旨第一ハ被告ニ不利益ナル源七ノ親屬縁故ノ言ヲ信シ原院カ妄想憶測ヲ以テ被告ハ區裁判所ニ出頭シ源七ナリト詐稱シタル者ト認定シ又富岡外之太郎カ名刺ヲ筆記シタル如ク認メタルハ不法ナリト云フニ至リテ○事實ノ認定探證ノ當否

ヲ論難スルモノニシテ上告ノ理由ナシ第二回本件地所ノ登記ノ際金六十圓ノ證書ニハ登記ヲ取消シ返濟ノ裏書ヲ爲シ金十五圓ノ借用證書ニモ同ク裏書ノ上源七ニ返戻シタリ依テ豫審ニ於テ速ニ家宅搜索ヲ爲シ該證書ヲ發見シタランニハ被告カ無罪ナルコト分明ナルヘキニ豫審判事カ之ヲ爲サリシハ不當ノ處置ナリ又第一二審共有十五圓ノ證書其他ノ金員ニ付理由ヲ附セサルハ不法ナリト云フニ在レトモ○前段ハ豫審處分ニ對スル論難ナルヲ以テ判決ニ對スル上告ノ理由ト爲ラサルハ勿論後段ハ原判決ニ認定セサル事實ヲ掲ケテ漫然批難ヲ試ムルニ外ナラスシテ上告ノ理由トナフス

江木辯護士ノ擴張論旨ヲ要スルニ第一ハ關朝次郎ノ豫審調書ヲ見ルニ被告龍太郎ト朝次郎ノ關係ヲ訊問シタルモノト認ムルヲ得サル違法ノ證人調書ナルニ之ヲ採用シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○證人關朝次郎ノ豫審調書ヲ査閱スルニ被告小林千代次郎外一名ト刑事訴訟法第二百二十三條第二百二十四條ニ記載ノ關係ナキ旨申立タルノ記載アリ而シテ其調書ニ附添セル宣誓書ニ小林千代次郎小林龍太郎私印盗用私書偽造行使被告事件云云トアルニ依レハ龍太郎ニ對スル關係ヲモ問查シタルコト明白ニシテ證人調書ハ適法ノモノナレハ原院カ之ヲ採用シタルハ不法ニ非ス第二ハ被告人若クハ民事原告人トノ關係ヲ問查セスシテ宣誓セシメタル證人小田倉アサノ豫審調書ヲ採用シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○右證人ト被告兩名トノ關係ニ付尋問シ抵觸ノ點ナキコトヲ認メ宣誓セシメタルコトハ其調書ニ依リ明カナリ而シテ本件ニハ私訴ノ提起ナキヲ以テ民事原告人トノ關係ヲ問查セサリシハ當然ナリ要スルニ右

證人調査ハ適法ノモノナルヲ以テ原院カ之ヲ採用シタルハ適法ニ非ス第三第四ハ被告兩名カ當公廷ノ供述ノ幾部ニ依リ證據充分ナリトシタルハ不法ナリト論斷スルモ○原判決即宮城控訴院ノ第二審判決ニハ被告兩名カ公廷ノ供述ヲ以テ證據トナシタルコトナケレハ上告ハ其理由ナキモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本案上告ハ之ヲ棄却ス
明治三十年九月二十八日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事安居修職立會宣告ス

○詐欺取財ノ件

明治三十年第六七九號
明治三十年九月二十八日宣告

○判決要旨

(判旨第十點) 豫審請求書ニ一定ノ法式ナシ

(判旨第十一點) 不法ニ拘留シタル事實アルモ之カ爲メニ適法ノ訊問及ヒ供述

ヲ打破スルヲ得ス

第一審 京都地方裁判所 第二審 大阪控訴院

公訴私訴上告人 谷口文治郎 辯護人 谷山和夫 岡澤龍也

私訴被上告人 六條眞照

右文治郎カ詐欺取財被告事件ニ付明治三十年六月八日大阪控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタルニ付刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ
上告趣意第一點ハ原院ノ認メタル事實ニ依レハ被害者カ上告人ニ金千二百五十拾圓ヲ交付シタルハ執達吏市村進明等ノ言ヲ容レ任意ニ出タルモノニシテ上告人ハ進明等ニ仲裁ヲ託シタルコトナク又被害者ニ對シ詐欺手段ヲ用ヒタルコトナキハ明白ナルニ原院カ詐欺取財ノ法條ヲ適用シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○原判文ニハ上告人等ハ名ヲ八條家ノ家政整理ニ托シ以テ六條眞照ヨリ金圓ヲ騙取センコトヲ謀リ眞照ヲ欺キ同人ヲシテ金四百圓借入ノ承諾ヲ爲サシメ且四通ノ委任狀ニ署名捺印セシメ其委任狀ニ基キ金二千五百圓貸與シタル旨ノ虚偽ノ公正證書ヲ作成シ更ニ執行文ノ付與ヲ受ケ眞照ノ有體動産ヲ差押ヘ遂ニ金千二百五十圓ヲ騙取シタル旨ヲ掲ケリ故ニ原院カ此事實ニ對シ詐欺取財ノ法條ヲ適用シタルハ相當ナリ同第二點ハ假リニ詐欺ノ所爲アリトスルモ被害者カ四百圓ノ辨濟義務ヲ明認スル所ナルハ記録ニ徴シ明瞭ナルカ故ニ騙取ニ係ル金額ハ一千二百五十圓ニ非スシテ該金額ヨリ四百圓ヲ控除シタル殘額ナルヘキニ之ヲ控除セス且其控除セサル點ニ對シ何等ノ理由ヲ付セサルハ不法ナリ

ト云フニ在リ○而シテ原判文ニ眞照方ニ到リ有體動産ヲ差押ヘタル處同人ハ金四百圓ノ借用
 ヲ承諾シタルモ金二千五百圓ノ公正證書ヲ以テ財産ノ差押ヲ受ケタルノ意外ナルニ驚キトア
 リテ此文詞ニ依レハ四百圓ニ付テハ眞照ニ於テ其義務ヲ認メタルカ如シト雖モ右第一點ニ付
 キ辯明セシ如ク上告人等ハ眞照ニ對シ詐言ヲ以テ四百圓借入ノ承諾ヲ爲サシタルモノナレハ
 原院ハ眞照ニ於テ信實四百圓ノ債務アリト認メタルニ非ス故ニ原院カ該金額ヲ控除セサルハ
 相當ニシテ且其理由ノ如キハ判文上自ラ明瞭ナル所ナリ上告趣意擴張書第一點ノ要旨ハ本件
 共犯ノ三人カ如何ナル行爲ヲ爲シタルカ故ニ如何ナル犯罪トシテ擬律シタルヤ之ヲ知ルニ由
 ナク即チ原判決ハ理由不備ノ不法アリト云フニ在レトモ○原判文ニハ上告人ハ外二名ト共謀
 シ金圓ヲ騙取シタル事實ヲ詳記セルヲ以テ上告論旨ノ如キ不法ナシ同第二點ハ原院ハ眞照ニ
 於テ金四百圓借入ノ承諾ヲ爲シタルコトヲ認メナカラ「金貳千五百圓貸借シタル旨ノ虚偽ノ公
 正證書ヲ作成シ」ト云ヒ其承諾シタル分アルヲ顧ミス二千五百圓全部ニ對シ犯罪行爲アリタル
 カ如ク判定シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○右四百圓ノ承諾ニ付テハ前ニ辯明セシ如ク
 ナルノミニナラス原院ハ該公正證書作成ノ行爲ヲ以テ犯罪ト認メタルニ非ザルカ故ニ本論旨ハ
 原判決ニ對スル理由トナラス同第三點ハ原判文ニ六條眞照ヨリ金員ヲ騙取センコトヲ謀リト
 アルノミニシテ三人商議一致シタル日時場所及ヒ相謀リタル事實ヲ明示セサル不法アリト云
 フニ在レトモ○共謀ノ日時場所ハ本件犯罪ノ構成ニ關係ナク其他必要ノ條件ニ非サルヲ以テ
 之ヲ記載セサルモ不法ニ非ス而シテ金員ヲ騙取センコトヲ謀リトアル以上ハ共謀ノ事實ヲ明

示セサルモノト謂フヲ得ス同第四點ハ原判文上欺罔ノ手段方法ヲ明示セスト云フニ在リテ○
 上告論旨第一點ト同一論旨ニ歸スルヲ以テ重テ説明ヲ與フル要ナシ
 辯護人岡崎正也上告趣意擴張書第一點ハ公正證書ハ判決ト等ク當然執行力ヲ有スヘキモノナ
 レハ公正證書ニ依リ債務者ノ地位ニ立チタル者ハ確定判決ニ依リ債務者ノ地位ニ在ルモノノ
 如ク實際ノ事實如何ニ拘ラス債務履行ノ責ヲ免ルコトヲ得ス加之合意上債主トナリタル者
 ハ其金員授受ノ如何ニ關セス債務履行ノ責ニ任セサルヲ得サルハ契約法ノ原則ナリ故ニ本件
 被害者ニ於テ隆次等ノ依頼ニ應ジ債務者ノ地位ニ立ツヘキコトヲ約諾シ公正證書ヲ作成セシ
 メタル以上ハ上告人等ニ於テ其公正證書ノ効力ニ基キ執行ヲ求メタルハ法律上當然ノ結果ナ
 ルヲ以テ之カ爲メ示談上金員ヲ受領シタルハトテ之ヲ詐欺取財ノ罪アルモノト謂フヲ得ス然
 ルニ原院ニ於テハ適法ニ成立シ偽造ニ非サル公正證書ノ執行ニ基キ示談上金員ヲ受取タル事
 實ヲ以テ詐欺取財罪ヲ構成スヘキモノト如ク判決シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○被告
 ノ上告論旨ニ付キ辯明セシ如ク上告人等カ公正證書ヲ作成セシメ遂ニ金員ヲ受領スルニ至リ
 タルハ上告人等ノ詐欺ニ因リタルコト原判文ノ明示スル所ナレヲ以テ原院ノ認メタル事實ニ
 對シ詐欺取財罪ト斷定シタルハ相當ナリ同第二點ハ若シ又假リニ原裁判ニ於テ初メ隆次等カ
 金四百圓ノ貸借證書ヲ作成ス可シト稱シ委任狀ヲ收受ケナカラ金二千五百圓ノ證書ヲ作成シ
 タリトノ點ニ於テ詐欺取財罪ヲ構成スヘキモノト認メタルモノトセンカ即チ理由ノ不備抵觸
 アル不法ヲ免レスト云フニ在レトモ○原院ハ千二百五十圓ヲ騙取シタル所爲ヲ以テ詐欺取財

罪トナシ委任狀ヲ受ケ及ヒ公正證書ヲ作成セシメタルハ其目的ヲ行フ可キ手段方法ト認メタルモノニシテ上告論旨ノ如キ認定ヲ爲シタルニ非ス從テ理由不備若クハ抵觸ノ不法ナシ辯護人谷澤龍藏上告趣意擴張ノ要旨ハ原院公判始末書ニ本件記録ハ讀聞カス可キヤ答承知ニ付夫ニ及ハストアルノミニテ其書面ノ趣意ヲ熟知スルヲ以テ朗讀ヲ要セスト申立タルモノナレハ其朗讀ヲ省畧スルハ差支ナシト雖トモ其記録中ノ調書ニシテ斷罪ノ證據トセンニハ其證據ノ取調終リタル毎ニ被告人ニ意見ヲ尋問セサル可ラス然ルニ其事ナクシテ該調書ヲ斷罪ノ證據ニ供シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○原院公判始末書ニハ前掲朗讀省畧ニ關スル問答ノ次ニ問右ハ如何共ニ答一審申立ノ通外ニ辯スルコトナシトアリテ即チ朗讀ヲ省畧シタル調書ニ付テモ被告人ノ意見ヲ聽キ而シテ被告人ニ於テ辯スルコトナキ旨ヲ答ヘタルコトヲ知ルニ足レリ故ニ原院カ該調書ヲ證據ニ供シタルモ不法ニ非ス

判旨第十點

辯護人鳩山和夫上告追加理由第一點ハ谷口文治郎ニ對スル檢事ノ起訴狀ヲ閱スルニ其表題ニハ豫審請求書トアレトモ其文中ニハ谷口文二郎ニ拘引狀ヲ發シ直ニ同人家宅ニ臨ミ諸帳簿并ニ書類ヲ引揚ケ取調相成度云々トアリテ通常ノ起訴狀トハ全ク其趣ヲ異ニセリ尤モ拘引狀ヲ發シ家宅搜索ヲナシ證據ヲ蒐集スルハ何レモ豫審處分ノ一方法タルニ相違ナキモ法律カ豫審判事ニ與ヘタル職務權限ハ以上ノ二三ノ方法ニ止マラス故ニ前記書面ノ如キハ起訴狀ト認ムルコトヲ得ス從テ谷口文治郎ニ對シテハ檢事ノ起訴ナキモノナレハ之ニ對シ有罪ノ判決ヲ與ヘタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○豫審請求書ニ付テハ一定ハ法式ナキヲ以テ既ニ豫審請求書ト云ヒ且取調相成度云々トアル以上ハ豫審ハ請求ヲ爲シタル事明白ナリトス而シテ拘引云々ノ事ヲ掲ケタルハ刑事訴訟法第六十六條ニ從ヒタルモノニシテ一部ノ豫審處分ヲ求メタルニ非サルヲ勿論ナリ故ニ原判決ハ上告論旨ノ如キ不法ナシ同第二點ハ谷口文治郎ニ對シテハ豫審以來拘留狀ヲ發シタルモノニ非サルニ引續キ監倉ニ繋留シ豫審處分及ヒ公判ノ訊問ヲ爲シタルモノナリ果シテ然ラハ此拘留タル全ク不法ノ監禁ニシテ此監禁中ニ爲シタル訊問及ヒ供述ノ如キハ共ニ不法タルヲ免レストス然ルニ原院カ斯ル不法ノ手續ニ出タル訊問及ヒ供述ヲ證據トシテ採用シタルハ不當ナリト云フニ在リ○依テ案スルニ假令不法ニ拘留セラレタリトスルモ其拘留ハ爲メ適法ニ爲シタル訊問供述ニ影響ヲ及ホスヘキモノニ非サルヲ以テ該訊問及ヒ供述ヲ證據ニ供シタルモ不法ニ非ス同第三點ハ被告ノ上告趣意第二點ト同一論旨ニ歸スルヲ以テ重テ説明ヲ與フル要ナシ

判旨第十一點

被告ノ第二回上告趣意擴張書第一點ハ原院公判始末書ヲ閱スルニ證據調ノ最終ニ被告兩人ニ對シ利益ノ反證アルヤ否ヤヲ訊問シタルノミニテ進テ差出シ得ヘキ事ヲ告知シタル事蹟ナシ右ハ刑事訴訟法第九十八條ニ違背セル不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○既ニ利益ノ反證アルヤ否ヤヲ問ヒ而シテ被告ニ於テ其反證ナキ旨ヲ答ヘタル以上ハ更ニ差出スコトヲ得ヘキ旨ヲ告知スルノ要ナク則チ刑事訴訟法第九十八條ノ手續ヲ書シタル事蹟ハ該問答ニ依リ明白ナリトス同第二點ハ原院ノ判決言渡ハ之ヲ公行セサル不法アリ何トナレハ該公判始末書ハ明治三十年六月三日及ヒ六月八日ノ分チ合綴シアリテ三日ノ分ニハ判決言渡ハ之ヲ公行セリ

トアレトモ是言渡チ爲サ、ル以前ノ記載ニシテ且活字ニテ印刷シタルモノナルヲ以テ書記ニ於テ之ヲ抹殺スルヲ忘レタルモノナリ而シテ八日ノ分ニハ公行シタル旨ヲ記載セサルカ故ニ同日ニ於ケル言渡ハ公行セサルモノナレハナリト云フニ在リ○然レトモ本件ノ公判始末書ハ一通ニシテ判決言渡後即チ六月八日ニ於テ整頓シタルモノナレハ其冒頭ニ判決言渡ハ之ヲ公行セリトアル以上ハ即チ公行シタル事蹟明白ナリトス

私訴上告趣意ハ私訴判決ハ公訴判決ヲ根據トナシタルモノナレハ公訴上告趣意書ニ陳述セシ如ク私訴判決モ不當ニシテ要スルニ不當ニ事實ヲ確定シタルモノナリト云フニ過キス○然レトモ公訴上告趣意ノ理由ナキコトハ前ニ辯明セシ如クナルヲ以テ私訴上告ニ於テモ亦理由ナキモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件公訴私訴ノ上告ハ共ニ之ヲ棄却ス私訴上告費用ハ上告人ノ負擔トス

明治三十年九月二十八日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○詐欺破産ノ件

明治三十年第六九五號
明治三十年九月二十八日宣告

○判決要旨

共犯人ノ一人ニ對スル不法ノ證據ハ他ノ共犯人ニ付テモ不法ノ證據ナリ

第一審 高知地方裁判所 第二審 大阪控訴院

公訴私訴上告人 濱崎 中島 武内 中 宮地 石天 音利 慶助 吉郎 吉慶

辯護人 中村 熊治

私訴被上告人 竹村 齋藤 齋藤 種雄 齋藤 種雄

右濱崎園吉外四名カ詐欺破産被告事件ニ付明治三十年六月十二日大阪控訴院ニ於テ高知地方裁判所ノ公訴私訴ノ判決ニ對スル被告人ノ控訴ヲ審判シ原判決中被告音吉ニ關スル部分ヲ取消シ更ニ被告音吉ヲ重監錮四年ニ處ス被告音吉ニ關スル公訴裁判費用ノ負擔及押收物件ノ處分ハ第一審判決ノ通トス被告園吉太郎天ノ助利慶ノ控訴ハ何レモ之ヲ棄却スト言渡シタル第二審ノ判決ニ服セス被告五名ハ各上告ヲ爲シタルニ因リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ被告園吉利慶音吉三名辯護士中村熊治ノ辯論及ヒ立會檢事安居修藏ノ意見ヲ聽キ判決ヲ爲スコト左ノ如シ

被告園吉カ上告趣意聲明書第四點ノ要旨ハ原判決ハ第一審ニ於テ小原林兵衛ノ豫審調書ヲ證

共犯事件ノ證據

人ノ調書ト爲シ斷罪ノ資料ニ供シタルヲ不法ナリトシ相被告音吉一人ノ判決ヲ取消シ他ノ被告四名ノ控訴ヲ棄却シタルハ不當ナリ何トナレハ原判決ニ認メタル如ク音吉ノ所爲ハ別個ノ罪ニ非ス被告等共謀シテ犯シタルモノナルヲ以テ音吉ニ對シ不法ノ點アル上ハ被告五名共ニ原判決ヲ取消サルヘキニ音吉一人ノ控訴ヲ理由アリトシ他ノ被告ノ控訴ヲ棄却セラレシハ違法ナリト云フニ在リ被告天助上告趣意第六原院ハ探證法ノ報復ヲ以テ被告音吉ニ對スル原判決ヲ破毀シタリ然レモ判決ニ掲ケタル如ク上告人等カ假ニ共謀シテ財産ヲ脱漏シ其金員ヲ小原林兵衛ニ預ケタルモノトセハ林兵衛ノ陳述ハ等シク各上告人ニ關係アルモノナルニ音吉ノミノ控訴ヲ理由アリトシ他ハ何レモ棄却ヲナシタルハ不法ナリ私訴ニ對シテハ公訴ノ事實理由ヲ援用セラレタレハ私訴上告ノ趣意モ亦公訴上告ノ趣意ヲ引用スト云フニ在リ立會檢事安居修藏ハ右被告二名ノ上告趣意ヲ以テ被告太郎利慶ノ判決ニ對シ附帶上告ヲ爲シ共ニ破毀ヲ請求スル旨ヲ陳述シタリ○依テ之ヲ審案スルニ原判決未段ニ被告音吉ニ對スル證據ト認ムル小原林兵衛ハ豫審調書ハ單ニ參考人トシテ訊問シタル調書ナルニ之ヲ證人ハ調書トシテ斷罪ノ資料ニ供シタルハ失當ハ判決ニシテ被告音吉ノ控訴ハ其理由アルニ歸スルモノハト記載シ被告音吉ニ對スル第一審判決ヲ取消シタリ然レトモ豫審判事カ林兵衛ヲ訊問シタルハ本件被告五名共犯ノ事實ニ付取調ヲ爲シタルモノハニシテ單ニ被告音吉一人ノ犯罪ニ付取調ヲ爲シタルニ非サルコトハ其調書ニ徴シ明白ナルヲ以テ其調書ヲ證據ニ採用シタルヲ不法ナリト認ムル上ハ被告五名ニ對スル第一審判決ハ全部ヲ取消サハルヘカラサルモノナルニ單ニ被告音

吉一名ハ控訴ヲ理由アリトシ其他被告圍吉天助太郎利慶四名ハ控訴ヲ棄却シタルハ上告論旨ハ如何違法ハ判決ニシテ破毀ノ原因アルモノトス而シテ本件私訴ノ判決ハ公訴判決ノ事實理由ヲ援用シタルモノナレハ公訴ノ判決ヲ破毀スル上ハ私訴判決モ共ニ之ヲ破毀スヘキモノトス既ニ此點ニ付破毀ノ原因アリト認メタルヲ以テ被告圍吉太郎天助利慶四名カ其他ノ上告趣意及ヒ擴張辯明書等ノ論點ニ對シ一々説明ヲ與ヘス
被告音吉カ上告趣意ハ原判決ハ法律ニ違背シタル不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○如何ナル點ヲ指シテ不法ト爲スヤ其理由ヲ舉示セサルヲ以テ之ヲ審理スルニ由ナク從テ上告ノ理由ナキモノトス其擴張書ノ要旨ハ第一本件破産管財人竹村與右衛門ハ民事原告人ナルニ豫審ニ於テ證人トシテ訊問ヲ爲シ其調書ヲ斷罪ノ證據トセラレシハ不法ナリト云フニ在レトモ○豫審判事カ與右衛門ヲ證人ト爲シ訊問シタルハ明治二十九年十月二十日ニ在リ其後同年十一月十七日ニ於テ與右衛門ハ私訴ヲ提起シ民事原告人ト爲リタルモノニシテ其原告人ト爲ラサル前證人トシテ訊問シタル調書ヲ以テ斷罪ノ證據ニ供シタルハ相當ナリ第二久保平三郎ナル者ハ會社ノ職員ナルニモ拘ハラズ豫審廷ニ於テ證人トシテ陳述セシ調書ヲ斷罪ノ證據トセラレタル違法ナリト云フニ在レトモ○平三郎カ濟成合資會社ニ關係ナキ者ナルコトハ其調書ニ記載シアル所ナレハ毫モ違法ノ點ナキモノトス第三高知濟成合資會社ハ明治二十七年五月十六日ニ始マリ上告人カ該會社ニ雇ハレタルハ同年八月七日ナルコトハ一件書類中ニ明カナルニモカハラ上告人ハ五月十六日ヨリ社務ニ從事セシモノトシテ判決セラレタルハ理由ノ顯

歸アルモノナリト云フニ在レトモ○被告園吉太郎天之助利慶等ハ會社創設ノ際ヨリ業務ヲ擔當シタルモ被告音吉ハ會社設立ノ後社務ニ從事シタルモノナルコトハ原判文ニ明記スル所ニシテ違法ト認ムヘキノ點ナシ依テ被告音吉カ公訴私訴ノ上告ハ總テ適法ノ理由ナキモノトス右ノ理由ナルヲ以テ被告音吉ノ上告ハ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ之ヲ棄却ス私訴上告ノ費用ハ上告人ノ負擔タルヘシ

被告園吉太郎天之助利慶四名ノ上告ニ付刑事訴訟法第二百八十六條ニ依リ右四名ニ對スル公訴私訴ノ原判決ヲ破毀シ本件ヲ名古屋控訴院ニ移シ更ニ審判セシム

明治三十年九月二十八日大審院第二刑事部公庭ニ於テ檢察安居修藏立會宣告ス

○詐欺取財ノ件

明治三十年第七四八號
明治三十年九月三十日宣告

○判決要旨

他人ヨリ質入ノ委託ヲ受ケ質入ヲナシタル後ニ於テ其物品ヲ受出シ自己ノ所有品トシテ賣却シタル所爲ハ冒認販賣罪ヲ構成ス

(參照) 他人ノ動産不動産ヲ冒認シテ販賣交換シ又ハ抵當典物ト爲シタル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス(刑法第三百九十一條第一項)

第一審 東京地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 小川和吉 辯護人 阿部清道 高橋庄之助

右和吉カ詐欺取財被告事件ニ付明治三十年六月二十九日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ服セスシテ被告辯護人阿部清道ヨリ上告シタルニ依リ本院ハ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ

上告ノ趣旨ハ原判決ハ本件ニ付事實ヲ列舉セル而已ニシテ更ニ被告人ニ對シ有罪ナルヘキ理由ヲ付セルヲ以テ刑事訴訟法第二百六十九條第九號前段ノ規定ニ違背セル判決ナリト云フニ在レトモ○原判決ニハ事實ノ理由ト法律ノ理由トヲ掲ケアリテ即チ有罪ノ理由ヲ付シアレハ又他ニ理由ヲ付スヘキノ要ナシ本論旨ハ漫ニ辭ヲ作スニ外ナラスシテ上告ノ理由ナシ

辯護人高橋庄之助カ擴張論旨第一ハ原判決第一事實ノ前段ニ於テ「質入方ニ托セラレ云々」ト入質ノ爲メ委託セラレタル事實ヲ認メ其後段ニ至リ「右抵當トシテ預リタル云々」ト前後反對ノ事實ヲ認メタリ被告人ノ手元ニ預リタル事實ハ同一ナルヘキモ其入質ノ爲メナルト抵當ノ爲メナルトハ大ニ異ナルナリ是レ事實齟齬理由不備ノ不法アル判決ナリト云フニ在レトモ○原判文事實ノ後段ニ「右抵當トシテ預リタル二十八品云々」トアルハ典物ノ爲メ預リタル物品ノ謂ニ

シテ其前段ニ計二十八點ノ入質ヲ托サレ云々トアル物品ヲ云フニ在ルコト原判文上自ラ明カニシテ原判決ハ所論ノ如キ不法アルニ非ス同第二ハ第二事實モ入質ヲ委託セラレタル物品ヲ入質シ爾後之ヲ受ケ戻シ己レノ所有品トシテ賣却シタル事實ナリ而シテ原院ハ之ニ刑法第三百九十三條及七關係ノ法條ヲ適用セラレタリ抑モ本件ハ他人ノ物件ヲ自己ノ所有トシテ賣却シタル事及其物件ハ他人ノ監理權内ニ在ラスシテ被告方入質ノ爲メ委託セラレタル事モ確定ノ事實ナリ然レハ委託ニ因リ自己占有中ノ物件トレハ之ヲ他人ニ賣却スルモ直チニ他人ノ物件ヲ販賣シタルモノトナラザルヘシ故ニ本件ニ於テハ委託者ヨリ返還ヲ要求シ之レニ應スルヘシ若シ又本件ノ事實ニシテ委託人即チ被害者ノ名義ヲ以テ入質方ヲ委託セラレタルモノトセハ或ハ刑法第三百九十三條ノ犯罪ヲ構成スヘシ然ルニ本件事實ハ被告ニ於テ買入物ヲ受戻シタルニ依レハ當初被告名義ニテ入質シタルモノト如シ果シテ然ラハ前段所論ノ如ク歸着スヘシ故ニ何レニ問擬スルモ買入名義ヲ審理シタル後ニアラサレハ其當否ヲ鑑査スルニ由ナキ事實理由ノ不備アル判決ナリト云フニ在レトモ

○原判文ニ依レハ被告ハ田島祐作ヨリ物品ノ買入方ヲ委託セラレテ之カ買入ヲ爲シ且ツ其金員ヲ同人ニ交付シタリトハ事ナレハ其委託條件ハ茲ニ完ク終了シタルモノニシテ其買入ニ委託者ノ名ヲ以テシタルト被告ハ名ヲ以テシタルトハ之ヲ聞フコトヲ要セサルナリ何トナレハ其買入レハ其被告ハ名ヲ以テシタルトモ此場合ニ於テハ被告ハ買取主ニ對シ買置主ノ名ヲ有スルハミニシテ委託者ト被告ハ間ニ在

リテハ被告ハ既ニ其物品ニ對シ何等ハ權利ヲ存セザレハナリ而シテ被告ハ其委託ハ終了後竊カニ右物品ヲ受戻シ自己ノ所有品ナリト冒認シテ之ヲ他人ニ賣却シタルニ在レハ原院カ此所爲ニ對シ刑法第三百九十三條ヲ適用シテ處斷シタルハ相當ニシテ擬律ハ錯誤ニアラス又事實理由ノ不備アルニアラス

上告人阿部清道カ擴張要旨ハ原院ハ被告ノ第一ノ所爲ヲ委託物費消罪トナシ第二ノ所爲ヲ冒認罪トナシタリ然ルニ原院ノ認メタル事實ニ因ルトキハ二者其性質ヲ同フシ更ニ其事實ノ差異アルヲ發見スル能ハス即チ二者共ニ入質方ヲ託セラレタルモノヲ賣却シタリト云フニ在レハ共ニ委託物費消罪ヲ構成スヘキモ冒認罪ヲ構成セザルコト明晰タリ原院ハ第二ノ所爲ニハ賣却ノ際特ニ冒認アルモノ、如ク冒認シ云々ノ文詞ヲ挿入シタルモ賣却ハ費消ト言フヘキモノニシテ冒認シタリト言フヘキモノニアラス要スルニ原判決ハ第二ノ所爲ノ純然委託物費消罪ヲ冒認罪ト爲シタルハ擬律ノ錯誤アル判決ナリト云フニ在レトモ

○被告カ第一ノ所爲ハ買入方ノ委託ヲ受ケ未タ之カ買入ヲ爲サル前即チ受託中ニ於テ之ヲ賣却費消シ又第二ハ買入ノ委託ヲ受ケ買入ヲ爲シタル後即チ委託終了ノ後ニ於テ其物品ヲ取出シ自己ノ所有品トシテ賣却シタル事實ニシテ二者ノ間大ニ其差異アルコトハ原判文上明白ニシテ原院カ被告ノ第二ノ所爲ヲ冒認罪ト爲シ處斷シタルハ相當ニシテ擬律ノ錯誤ニアラス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ則リ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十年九月三十日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事藤堂融立會宣告ス

○持兇器強盗ノ件

明治三十年第七七五號
明治三十年九月三十日宣旨

○判決要旨

(判旨第二點) 強盗ノ見張ヲナシ其實行ヲ幫助シタル所爲ハ強盗ノ正犯ナリ

(判旨第四點) 豫備檢事ハ職務ヲ執行スル檢事ノ代理ニアラス

第一審 浦和地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 山田惣次郎 辯護人 高木益太郎

右惣次郎ニ對スル持兇器強盗被告事件ニ付明治三十年六月三十日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ服セス被告ヨリ上告ヲ爲シタルニ依リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審判スル左ノ如シ

被告惣次郎上告趣意ハ本件ハ原院ニ於テ公判審理ノ際必要ナル證據書類ヲ一々朗讀シテ之ヲ取調ヘナシタル事蹟ナシ即チ刑事訴訟法第二百十九條ニ違背シタル不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○原院ノ公判始末書ヲ閱スルニ裁判長ハ被告人等ノ異議ナキヲ認メ證據書類ノ朗

讀チ審署シ而シテ其辯解ヲ促シタル事蹟明白ナレハ現ニ一々朗讀ヲ爲サシメサルモ之ヲ不法ナリト云フヘカラス

判旨第二點

辯護人高木益太郎辯明書ノ一ハ原判決ニ被告ハ戶外ニ在リテ見張ヲ爲シトノミアリテ此見張ハ他ノ共犯者ヲ幫助シ又犯罪ヲ容易ナラシメタルニ過キサルモノナルカ又ハ此見張アリテ始メテ共犯者強盗ヲ遂ケ得タル者ナルカ明亮ナラス然ルニ此點ノ事實ヲ明確ニセサルトキハ果シテ強盗ノ正犯ナルヤ從犯ナルヤヲ鑑別スルニ由ナキモノトス故ニ原判決ハ此事實ヲ明示シタル事ナクシテ上告人ニ刑法第三百七十八條第三百七十九條第一號第二號ヲ適用シタルハ違法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○原判決ヲ閱スルニ被告惣次郎ハ住所氏名不詳二名ハ男ト共謀シ云々トアリテ被告ハ戶外ニ見張ヲ爲スコト他ハ二名ハ住宅内ニ擲入り強盗ハ所爲アリタルコト共ニ共謀ニ出テタルモノト認メタルコト明瞭ナレハ被告ハ即チ強盗ハ實行ヲ幫助シタルモノナルコト疑ツテ明白ナレハ此ハ所爲ヲ刑法第三百七十八條第三百七十九條第一第二號ヲ適用處斷スヘキ理由明亮ナルヲ以テ本論旨ハ上告適法ノ理由ナシ○證人新井辰之助ノ訊問調書中此時被告入山田惣次郎ヲ呼入レ證人ニ熱視セシメテ直チニ退廷セシムト揭ケアリテ乃チ豫審判事ハ惣次郎ヲ呼出シ證人辰之助ニ之レヲ實見セシメタル上人違ナキヤ否ヤヲ陳述セシメタルモノナレハ其調書ニ惣次郎ヲ署名捺印セシムヘキハ當然ナリトス然ルニ同人ノ署名捺印ナキノミナラス辰之助ノ署名スラ其調書及ヒ宣誓書(二者ノ間契印ナシ)共ニ「自署スル能ハス」ト記載アリテ何人カ之レヲ代書シタル乎其記載ヲ缺キ要スルニ不適法ノ調書

強盗ノ見張○豫備檢事ノ職務執行

ナルモ拘ハラス原判決ガ之レヲ斷罪ノ資料ニ供シタルハ不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○
 右ノ場合ニ於テ被告ハ單ニ實見セラレタルノミナレハ證人訊問調書ニ連署セシムルノ必要アリトスレハ單ニ證人ニ實見セラレタルノコトヲ承認セシムルノミニシテ塞末モ斯ノ如キ必要アルコトナシ證人新井辰之助ノ宣誓書ノ署名ハ何人ノ代署ナルヤ其記載ヲ欠キタルハ不法ナリト云フモ刑事訴訟法第二百二十三條第二項ニハ裁判所書記ハ云々若シ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其旨ヲ附記ス可シトアリテ自署スルコト能ハサル旨ヲ附記スレハ充分ニシテ其附記スル者ハ裁判所書記ノ記載シタルモノト認ムルコト當然ナリ旁本論ノ如キ不法アルコトナシ其三ハ本件ノ起訴狀ニハ熊谷支部檢事局豫備檢事執行軌正トアリテ同人ニ檢事代理ノ資格アルコトヲ記載セス乃チ相當ノ職權アルモノト提起シタル訴追も認ムヘカラス依テ原院カ適法ノ起訴ト看做シテ裁判シタルハ不當ナルニ付本院ニ於テ公訴不受理ノ判決アラントナラズト云フニ在レトモ○豫備檢事カ職務ヲ執ルハ之カ代理ト云フヘカラス故ニ代理ノ資格アルコトヲ記載スヘキ場合ニアラス故ニ本件ノ起訴ハ専モ不法ノ點アルコトナシ
 右ノ理由ニ因リ刑事訴訟法第二百八十五條ノ規定ニ從ヒ判決スルコト左ノ如シ
 本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十年九月三十日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事藤堂融立會宣告ス

判官第四點

○囚徒逃走ノ件

明治三十年第八五六號
 明治三十年九月三十日宣告

○判決要旨

未決囚徒逃走罪ノ構成ニハ一旦入監シタル事實ヲ必要トス

(參照) 未決ノ囚徒入監中逃走シタル者ハ第四百四十二條ノ例ニ同シ但シ原犯ヲ判決スル時ニ於テ數罪俱發ノ例ニ照シテ處斷ス(刑法第百四十四條)

未決ノ囚徒逃走シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス若シ獄舎獄具ヲ破壞シ

又ハ暴行脅迫ヲ爲シテ逃走シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス(刑法第百四十二條)

第一審 福岡地方裁判所小倉支部 第二審 長崎控訴院

被告人 佐伯岩助

右囚徒逃走被告事件ノ控訴ニ付明治三十年七月二十七日長崎控訴院ニ於テ審理ノ未本控訴ハ棄却スト言渡シタル判決ニ對シ原院檢事長大島貞敏ハ上告ヲ爲シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ

上告ノ要旨ハ刑法第四百四十四條ノ規定ハ一般ニ未決囚徒ノ逃走ヲ制裁スルモノナレハ刑事被告人ニシテ苟モ身籍ヲ監内ニ置キタル以上ハ其身體ノ現ニ監中ニ在ルト否トハ勿論其一旦監ニ入リタルト否トニ拘ハラズ同條ノ制裁ハ免カルヘカラス本案被告人ノ如キハ其逃走前勾留狀

未決囚徒逃走罪ノ構成

ノ執行ヲ受ケタルモノナレハ假令身體其モノハ監外ニ在ルモ業已ニ入監中ノ囚徒タルモノナ
リ然ルニ原院カ入監以前ニ係ルトノ理由ヲ付シ逃走罪ヲ構成セスト判定シタルハ即チ擬律ニ
錯誤アル不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○刑法第四百十四條ニハ未決ノ囚徒入監中逃走シ
タル者ハ云々トアリテ本條ノ罪ハ現實在監中又ハ一旦入監シタル後逃走シタル場合ニ成立ス
ルモノニシテ未ダ入監セサル前ハ逃走ニ對シ本條ヲ適用スヘカラサルコト固ヨリ言チ俟タス
今原判決ノ認メタル事實ニ依レハ被告ハ福岡地方裁判所小倉支部カ發シタル勾留狀執行ノ爲
メ福岡縣小倉警察署ヨリ同縣小倉監獄支署ニ護送セラレ途中ニ於テ逃走シタルモノナレハ
原院カ入監以前ニ係ルヲ以テ囚徒逃走罪ヲ構成セスト判決シタルハ相當ニシテ決シテ擬律錯
誤ノ不法アルモノニ非ス因テ上告論旨ハ相立タス
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ則リ本件上告ハ之ヲ棄却ス
明治三十年九月三十日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事藤堂融立會宣告ス

大審院刑事判決録

大審院刑事判決錄

第三輯 第九卷

○船舶覆没ノ件

明治三十年第六六三號
明治三十年十月一日宣告

○判決要旨

借主ノ故意若シハ過失ニ原因セサル借用物ノ喪失毀損ニ關スル賠償ノ責任ハ
特約アルニアラサレハ借主ニ於テ之ヲ負擔スヘキモノニ非ス

第一審 山口地方裁判所 第二審 廣島控訴院

公訴私訴上告人

和田與太郎
田村國藏
山口庄太
工藤松
西角佐兵衛

辯護人

磯部四郎
齋藤孝治
高木益太郎

借用物毀損ノ賠償

私訴被上告人

廣中梅次郎
紙田作左衛門
向野利吉
八坂兼助
古谷和助

右與太郎外四名カ船前覆没被告事件ニ付明治三十年五月二十六日廣島控訴院ニ於テ言渡シタル公訴私訴ノ裁判ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタルニ付刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

公訴上告趣意第一點ハ原判文ニ「各自該船へ積載シアル五六貫目若クハ三四貫目許ノ石ヲ把テ船底又ハ船縁ニ投ケ付テ之ヲ破壊シテ遂ニ沈没セシメタリ」トアレトモ右ノ事實ハ證人廣中梅次郎等ノ豫審調書ニ記載セル陳述ニ適合セス若シ其陳述アルニ拘ハラス被告等一同右ノ行爲ニ對スル責任アリトスルニ於テハ其理由ヲ詳記セサル可ラスト云フニ在レトモ○是全ク原院ノ職權ニ屬スル探證ノ當否事實ノ認定ヲ非難スルニ外ナラサルヲ以テ上告理由トナスヲ得ス同第二點ハ原院ニ於テ本件ノ事實ヲ認メテ刑法第四百十五條末段ニ依リ處斷セラレタルモ同條ノ人ヲ乘載シタル船舶トハ人ヲ乘載シテ運送セル船舶ヲ指シタルモノニシテ本件ハ被害者五名共同シテ石ヲ積載シタル船舶ナリ故ニ五名ノ人ハ即チ船手ニシテ人ヲ運送シタルモノニアラサルナリ左レハ本件ノ如キ船舶ヲ覆没サセタル場合ノ如キハ刑法第四百十六條ニ同擬スヘキモノナリト云フニ在レトモ○原判文ニハ「被告五名ハ相俱ニ梅次郎外四名ノ乘リ居ル船ヲ沈没セシメント謀リ云々之ヲ破壞シテ遂ニ沈没セシメタリ」トアリテ被告カ沈没セシメタル船

船ニ梅次郎外四名ノ乘リ居リタルコト明白ナリ而シテ刑法第四百十五條ニハ人ヲ乘載シタル船舶トアルノミニシテ其乘載スル所ノ人ニ付キ何等ノ區別ナキヲ以テ本件ニ付キ原院カ該條ヲ適用シタルハ相當ナリトス
辯護人磯部四郎齋藤孝治上告趣意擴張書ノ要旨ハ起訴狀ニハ西角佐兵衛外ニ姓名不詳國三郎トアリ然ルニ勾引狀ニハ西角佐右衛門ト云フ者アレトモ西角佐兵衛ナルモノナシ又田村國藏ノ勾引セラレタル書類アレトモ姓名不詳國三郎ノ勾引セラレタル事實左レハ四檢事ハ本件ノ被告人ナリト認メタル西角佐右衛門田村國藏ニ對シ公訴ヲ起スニ非サレハ其豫審處分ヲ爲スコトヲ得サルモノナルニ其事ナク漫然豫審處分ヲ爲シタルモノナレハ其書類ニ基ク第一審判決ハ不法ノモノナルヲ以テ原院ハ該判決ヲ取消スヘキ筋ナルニ控訴ヲ棄却シタルハ不當ナリト云フニ在レトモ○起訴狀ニハ當時知り得タル氏名ヲ掲ケタルモノナレハ假令氏名ニ相違アルモ被告人其者ニ變更ナキ以上ハ起訴ノ効力ニ影響ヲ及ホス可キモノニ非ス而シテ本件ノ被告人其者ハ終始同一ナルヲ以テ其豫審處分ハ適法ニシテ從テ原院カ第一審判決ヲ取消サリシハ當然ナリトス
辯護人高木益太郎上告事件辯明第一點ハ第一審判文證據列記ノ部ニハ沈ク被告ノ供述ト掲ケ其全部ヲ有罪ノ證據ニ採用シタリ左スレハ被告カ檢事廷ニ於ケル供述ヲモ之ヲ心證ニ供シタルモノト看做サトルヲ得ス云々ト云フニ在レトモ○右ノ供述トハ被告カ公廷ニ於テ供述シタルモノヲ指シタルコト明白ナリ何トナレハ該判文ニハ「被告ノ豫審調書並ニ其供述」トアリテ均

ク被告ノ供述シタルモノタルニ拘ハラズ其書面トナリタルモノニ付テハ則チ豫審調書ト云ヒ
 特ニ區別ヲ設ケタルヲ以テナリ同第二點ハ證人八坂兼介ノ豫審調書ヲ視ルニ此時被告赤崎松
 次郎和田鐵之助和田與太郎溝口庄藏工藤植松西角佐兵衛田村國藏ノ七名ヲ呼入レ證人ニ示ス
 云々トアリテ即チ豫審判事ハ被告人ヲ呼出シ之ヲ證人ニ示シ加害者ノ何人ナルヤヲ確メタル
 ニモ拘ハラズ右調書ニハ其呼出テ受ケ取調ヲ經タル被告人ヲシテ署名捺印セシメサリシハ刑
 事訴訟法第九十九條ニ違反スルモノナリ依テ該調書ハ無効ノモノナルニ原院カ之ヲ證據ニ供
 シタル第一審判決ヲ取消サルハ不法ナリト云フニ在レトモ○刑事訴訟法ニ所謂對質トハ被
 告人ト他ノ被告等トチ對席セシメ其雙方ヲ取調フルノ謂ニシテ本件ノ如キ單ニ一方ノミヲ訊
 問シ他ノ一方ニ對シテ何等ノ取調ヲモ爲サル場合ヲ謂フニ非ス故ニ本件ノ場合ニ於テ對質
 調書ノ方式ヲ履行セサルハ當然ナルヲ以テ第一審判決ハ無効ノ調書ヲ證據ニ供シタルモノト
 謂フヲ得ス從テ原院カ之ヲ取消サルハ相當ナリトス
 辯護人高木益太郎私訴上告辯明書ハ原判決書ヲ見ルニ上告人ノ抗辯即チ被告人等ハ該漁船ヲ
 角野七藏ヨリ借受居タルニ止リ其所有者ニ非サルヲ以テ自ラ控訴人ニ對シ本訴ヲ提起スル權
 利ナキモノナリトノ爭點ニ對シ原院ハ該漁船ハ被控訴人カ角野七藏ヨリ借受居タルモノニ
 シテ自己ノ所有ニ非サルモ其借用中控訴人トノ關係上ヨリ之ヲ破壞シ沈没セシメラレタル上
 ハ被控訴人ニ於テ角野七藏ニ對シ其損害ヲ賠償スヘキ義務ヲ免レサル筋合ナルニ付之ヲ自己
 ニ被リタル損害ト爲シ其非行者控訴人ニ對シ更ニ賠償ヲ要求シ得ヘキ權利アルヲ論テ俟タス

ト說明シタルハ不法ナリ何トナレハ被控訴人ハ船舶ノ所有者ニ對シ他人ノ犯罪ニ原因スル損
 害ニ付テモ尙ホ之ヲ賠償スヘキ責任ヲ生スヘキ筋ナキヲ以テナリト云フニ在リ○依テ案スル
 ニ原判文ニハ控訴人五名カ被控訴人ト爭論ノ末協力シテ本件ノ漁船一艘ヲ不法ニ破壞シ其傷
 ニ沈没セシメタルコトハ控訴人ニ對スル船舶沈没事件ノ公訴判決中ニ明示スル各證據ニ懲シ
 テ事實明白ナリトストアリテ其破壞沈没ハ控訴人即チ上告人ノ不法行為ニ基キタルモノニシ
 テ被控訴人即チ被上告人ノ行為ニ因リタルニ非サルノミナラス又其過失ト認メタルニ非サル
 ヤ明カナリ尤モ判文中被控訴人カ借用中控訴人トノ關係上ヨリ之ヲ破壞シ云々トアレトモ右
 關係トハ控訴村ト被控訴村トノ間ニ軋轢アリ之カ爲メ控訴人ト被控訴人トノ間ニ爭論ヲ生シ
 タルコトヲ指シタルモノニシテ之ヲ以テ被控訴人ノ過失ト認メタルモノト謂フヲ得ス而シテ
 借用物ノ喪失毀損ニシテ借主ノ故意若クハ過失ニ原因セサル場合ニ於テハ別段ハ契約アルニ
 非サレハ借主ニ於テ之カ賠償ハ責任ヲ負擔スヘキモノハニ非サルハ條理ノ當ニ然ルヘキ所ナリ
 故ニ原院カ被上告人ハ單ニ借主ナリトノ事實ヲ認メタルノミニシテ當然貸主ニ對シテ賠償ノ
 責ヲ免レサルモノトシ該責任ヲ原因トシテ被上告人ヨリ上告人ニ對シテ損害賠償ヲ求ムル權
 利アリト判定シタルハ法則ヲ不當ニ適用シタルモノニシテ上告論旨ノ如ク不法ノ裁判タルヲ
 免レス
 右ノ理由ナルヲ以テ公訴判決ニ付テハ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ其上告ヲ棄却ス私訴
 判決ニ付テハ同法第二百八十六條第二百八十七條ニ依リ之ヲ破毀シ直チニ本院ニ於テ判決ス

ルコト左ノ如シ

原院ノ認メタル事實ハ前ニ辯明スル如クナルヲ以テ被告上告人ハ上告人ニ對シテ本訴損害賠償ヲ請求スルヲ得サルモノトス

私訴裁判費用ハ總テ被告上告人ニ於テ負擔ス可シ

明治三十年十月一日大審院第二刑事部公延ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○恐喝取財ノ件 明治三十年第六二二號 明治三十年十月四日宣告

○判決要旨

第一審判決ノ刑期輕キニ失ストノ檢事ノ附帶控訴ヲ理由アリトシテ第一審判決ヲ取消シタル場合ニ於テ被告ノ控訴モ亦理由アリト説明シタル判決ハ法則

ヲ不當ニ適用シタル不法アルモノトス(第三輯第四卷十九丁登載明治三十年第三〇〇號墮胎ノ竹參看)

第一審 青森地方裁判所 第二審 函館控訴院

被告人

新盛村島柿 上西崎 忠源 兵衛 五郎

右恐喝取財被告事件ニ付明治三十年五月二十九日函館控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ原院檢事長代理檢事武田乙次郎并ニ被告等ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ本院ハ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ

原院檢事長ノ上告趣旨ノ第三ハ被告人ノ控訴ハ自己ノ所爲ハ自己ニ利益ナル判決ヲ受ク可キ答ナルニ第一審判決ハ自己ニ一層重キ刑ヲ科シタルモノナリトテ其失當ヲ訴フルモノナレハ其控訴ハ第一審判決ノ失當ヲ訴フルニハ相違ナキモ其間自ラ區域ナキニ非ス即チ被告人自己ニ受クル利益ノ判決ヲ限度ト爲シタルモノナリ故ニ第二審判決カ此限度ヲ越ヘテ第一審判決ハ輕キニ失シタルモノト爲シ他ニ取消スヘキ理由ナキニ單ニ此一理由ヲ以テ之ヲ取消シ一層重キ刑ヲ言渡ストキハ則チ被告人ノ控訴ハ全然成立セザリシモノナリ然ルニ當院ノ判決ハ被告人ノ控訴ノ趣旨ノ限度以外ニ出テ、第一審ノ判決ハ輕キニ失シタルモノナリトノ一理由ニ依リ之ヲ取消シ更ニ重キ刑ヲ言渡シナカラ被告人ノ控訴モ亦理由アルモノト爲シ原院判決ヲ取消シタルハ則チ刑事訴訟法第二百六十八條ニ規定アル違法ノ裁判ナリト云フニ在リ○因テ審按スルニ原院ハ第一審裁判所ニ於テ言渡シタル刑期ハ輕キニ失シタリトシテ其判決ヲ取消シ更ニ重キ刑ヲ科シタルハハ此理由ハ被告ノ控訴中ニ包含スヘカラサルモノニハテ單ニ檢事一致セサル控訴

ハ附帶控訴ノミニ基クモハナルヲ以テ被告ハ控訴ハ理由ナキニモ拘ハラズ被告ハ控訴モ結局理由アルモノハニ歸スルトシ原判決ヲ取消シタルハ法則ヲ不當ニ適用シタル不法ハ判決ニシテ破毀スヘキモノトス既ニ此點ニ付原判決ヲ破毀スヘキモノト認ムル上ハ其他ノ論旨并ニ各被告等ノ上告趣旨ニ對シ逐一説明ヲ要セス

右ノ理由ニ付刑事訴訟法第二百八十六條ニ從ヒ原判決ノ全部ヲ破毀シ更ニ審判ヲ爲サシムル爲メ本件ヲ宮城控訴院ニ移ス

明治三十年十月四日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事藤堂融立會宣告ス

○私印盜用私書偽造行使ノ件

明治三十年第六六八號
明治三十年十月四日宣告

○判決要旨

偽造證書ヲ呈出シテ登記ヲ出願シタル所爲ハ私書偽造行使罪ヲ構成ス

第一審 甲府地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 奈良寅吉

辯護人 〔岡村輝彦
久保田與四郎〕

右寅吉ニ對スル私印盜用私書偽造行使詐欺取財未遂被告事件ニ付明治三十年六月十一日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ服セス被告ヨリ上告ヲ爲シタルニ依リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審理スル左ノ如シ

被告寅吉上告趣旨ハ原院ノ判決ハ事實ヲ不當ニ認メ從テ法則適用ヲ誤リタルモノナリト云フノミニシテ○其趣旨ヲ了解スル能ハサルヲ以テ説明スル能ハス

辯護人岡村輝彦久保田與四郎上告趣旨擴張ノ第二點ハ原判決ヲ見ルニ其證據ヲ列記セルノ點ニ於テ以上ノ事實ハ被告人寅吉由次郎及相被告人山本萬作原哲吉證人奈良登廻母〔以下證人列記〕トアリ然レトモ奈良登廻母ハ哲吉ノ實父ナルヲ以テ哲吉ニ對シテハ證人タル能ハサルモノナリ從テ哲吉カ被告トナルヲ登廻母ニ於テ證人トシテ尋問セラレタルコトアルナシ然ルニ原判決ハ前記ノ如ク答セルヲ以テ一見シテ被告寅吉由次郎及ヒ萬作哲吉等カ共同ノ事件ニ關シ登廻母カ證人トシテ尋問セラレタル如ク而シテ右調書ハ斷罪ノ料ニ供セラレタルカ如ク見ユルト雖トモ右被告共同ノ件ニ關シ證人奈良登廻母ナルモノハ調書アラサルナリ若シ又原判意ハ其謂ユル證人奈良登廻母云々ト以下證人ノ名ヲ列記シアルヲ以テ其間寅吉由次郎萬作等ニ對シテハ證人奈良登廻母及ヒ其他ヲ言ヒ又哲吉ニ對シテハ殊ニ登廻母ノ證言ヲ除キタルノ意ヲ見ルニ雖カラント云フ者アラント雖トモ其特ニ哲吉ニ對シテハ登廻母ノ調書ヲ除キタリト見ル可キモノナキノミナラス却テ證人トシテ之ヲ尋問シタル調書ヲ斷罪ノ資ニ供シタルノ跡歴然タリ而シテ其證人タル登廻母ハ被告寅吉ニ取テハ敵手ニシテ哲吉諸共被告ノ對手ナリ故

ニ哲吉カ被告ト共ニ共同ノ被告人タルニ於テハ登題母ハ證人タル能ハサルモノナリ從テ原院
 カ之ヲ證人ト心得テ判決ノ材料ニ供シタルハ探證法ニ反キタル判決ナリト云フニ在レモ○奈
 其登題母カ證人トシテ訊問ヲ受ケタルハ其實子哲吉カ本件共同被告人トナル以前ニアレハ其
 證人調書タルニ於テ毫モ不法ノ點アルコトナキヲ以テ從テ本件全體ニ對シ證據ト爲シ得ヘキ
 チ以テ原院ハ其調書ヲ被告ヲ除キタル他ノ被告人ニ對シテノミ證據トシタルニアラス而シテ
 探證法ニ反キタル廉ナシ其第三點ハ公判始末書ヲ見ルニ原院ニ於テハ其審理ニ際シ被告人ニ
 示シ辯解ヲ求ム可キ證據ヲ辯解ヲ求メスシテ判罪ノ資料ニ供シタルノ不法アリ即谷村區裁判
 所二九(ハ)六七號民事訴訟法記録ハ一ノ證據物ナリ而シテ本件ノ如ク偽造行使ノ罪ニ在テハ最
 モ其因スル處ノ重キモノナリ然ルニ原院カ之ヲ被告人ニ示シテ辯解ヲ求メサシメハ刑事訴訟
 法第九十八條ニ反キタル不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○原院ノ公判始末書ヲ見ルニ問
 是ヨリ證據物ヲ示ス故辯解アラハ申立ヘシコノ時押收ノ證據物悉皆ヲ示シタリトアリテ各證
 據物ニ付一々其辯解ヲ促サスト雖トモ既ニ悉皆ノ證據物ヲ示シ辯解セシメタル以上ハ其手續
 ニ於テ刑事訴訟法第九十八條ノ規定ニ違背シタル廉アルコトナシ其第四點ハ原院カ第一ノ
 所爲ニ對シ單ニ明治二十九年三月中奈其登題母ヨリ被告實吉ニ宛タル金五十圓ノ借用證書ヲ
 偽造シ原哲吉及被告由次郎ハ其保證人ト爲リテ署名捺印シテ該證書ノ登題母名下其他ノ要部
 ニハ哲吉ヲシテ其實家登題母ノ宅ニ就キ同人ノ實印ヲ捺捺セシメ置キト判示シ又第二ノ所爲
 ニ對シテハ明治二十九年五月上旬奈其登題母所有ノ同縣同郡七保村字下和田ニ在ル地所數筆

ヲ代金三四百圓ニテ賣却スル旨ノ賣渡證書並ニ奈其登題母ヨリ被告由次郎ニ宛タル右地所賣
 賣登記簿類ノ委任狀ヲ偽造シ登題母名下其他ノ要部ニハ靜岡縣田方郡三島町印刷業小田吉太
 郎ニ依頼シテ偽造シタル奈其登題母ノ實印ヲ捺捺シト判示シ何レモ私書偽造ノ點ニ對シテハ
 犯罪ノ場所ヲ明示セス是理由不備ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○私書偽造ノ罪ハ行使ニ因テ
 成立スルモノナレハ偽造ノ場所ノ何ナルヲ問ハス其行使ノ場所ヲ以テ犯罪地トナス今原判決
 チ見ルニ其行使ノ場所ハ第一ハ谷村區裁判所第二ハ谷村區裁判所大原出張所ナルコトヲ明示
 シアルヲ以テ犯罪ノ場所ヲ示サスト云フヘカラス其第五點ハ私書偽造行使罪ノ要素タル行使
 ナルモノハ單ニ登記役場ニ出願シタルノミニテハ未タ以テ行使ト云フコトヲ得ス加之呈出シ
 タル偽造證書ノ正當ニ谷村區裁判所大原出張所ニ於テ受理サレタルヤ否ノ點ニ至リテハ原判
 決並ニ原院公判始末書中記載ナキヲ以テ未タ正當ニ受付ラレサル前被告ニ於テ任意中止シタ
 ルモノト云ハサルヲ得ス尙又原判決末尾ニ至リ賣渡證書若クハ書入證書ヲ作成シタルニ止リ
 「其證書ヲ作成シタルノミニテハト記シタル所ヨリ推考スレハ原院ニ於テモ亦行使ノ事實ナシ
 ト認定サレタルモノト見ルコト肯テ不當ナラサルヘシ果シテ然ラハ第二ノ犯罪ハ行使ノ事實
 チ欠クモノニシテ犯罪ノ成立ナキコト明白ナリトス然ルニ原院カ行使ノ未遂ニタモ問擬セス
 直チニ刑法第二百十條一項同第二百十二條行使既遂ヲ適用シタルハ擬律錯誤ノ甚ダシキモノ
 トスト云フニ在レトモ○偽造證書ヲ呈出シテ登記ヲ出願シタル所爲ハ其行使タルコト勿論ニ
 シテ結局受理セラルタルヤ否ヤハ如キハ偽造行使罪成立ニ關係ナキ處又未タ正當ニ受付ラレ

サル前任意中止シタルモハ云々ハ如キハ原判決ハ認メサル處ナリ原判決ノ末尾ニ至リ其證書ヲ作成シタルノミニテハトアルモ此點偽造證出チ行使シタルマテニテ未タ詐欺取財ノ着手ニモ至ラサル旨ヲ說示シタル趣旨ニシテ行使ノ事實ナカクシコトヲ認メタルニ非サルコトハ行文全體ヨリ之ヲ確認スルニ充分ナリ既ニ偽造證書ヲ行使シタル事實ヲ認メタル以上ハ之ヲ刑法第二百十條第一項第二百十二條等ヲ適用シタルハ相當ニシテ原院判決ハ擬律錯誤ノ不法ナシ其第六點ハ裁判所ノ判斷權ハ現ニ審廷ニ顯ハレタル事實ノ範圍ニ制限サルモノニシテ審理上顯ハレサル事實ヲ採リテ判決ノ資料ニ供スルハ失當ノ甚シキモノナリ原院ハ偽造證書行使ノ事實ヲ述フルニ當リ第一ニ付テハ同年十月十五日口頭辯論ノ際辯護士加賀美明ヲ以テ訴訟代理人ト爲シ右ノ偽造證書ヲ呈出シテ其元利金圓ヲ騙取セント爲シタルトモト第二點ニ付テ同年同月二十三日被告兩名ハ原哲吉ノ代人タル山本萬作ト共ニ谷村區裁判所大原出張所ニ出願シ前顯地所賣買證書登記委任狀及書入證書ヲ呈出シテ其登記ヲ出願シタルモノナリト判示シタリト雖トモ試ニ原院公判始末書ヲ査閱スルニ原院中事實ノ要部ヲ摘讀シタリトノミ記載シテ何レノ要部ヲ摘讀シタルカ親ヒ知ルニ由ナキノミナラス同始末書中原院ノ此點ニ付テ事實上ノ推問ヲナシタル記載ナシ果シテ然ラハ此等ノ事實ハ原院ニ於テ顯ハレサリシ事實ナルコトハ公判始末書自體ニ依リテ證明サルトモノト云ハサルヘカラス從テ原院ハ此等ノ事實ニ對シ審査判決ノ權ヲ有セサルモノナルヲ以テ原院ハ違法タルヲ免レスト云フニ在レトモ

○裁判長カ被告事件事實取調ノ冒頭ニ於テ第一審判決事實理由ノ要部ヲ摘讀シテ訊問スル處

アル以上ハ本件ノ事實ヲ構成スル部分ハ全部之ヲ示シテ其眞否ヲ問查シタルコト明カナレハ原利決ハ審理上顯ハレサル事實ヲ審査判決シタリト云フヘカラス

辯護人久保田與四郎ハ明治三十年六月十四日上告申立ヲ爲シ同月十七日其趣意書ヲ提出セシモ其以前即同月十二日ニ在テ既ニ被告人ヨリ上告ノ申立アリタルヲ以テ辯護人ノ上告申立ハ當然無効ナルカ故ニ其趣意及布演トシテ上告趣意擴張書ニ記載スル第一點ハ自ラ無効ニ歸スヘキモノナルヲ以テ說明スル限リニアラス

右ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第二百八十五條ノ規定ニ從ヒ判決スル左ノ如シ

本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十年十月四日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事藤堂融立會宣告ス

○賄賂收受及恐喝取財ノ件

明治三十年第七二一號
明治三十年十月四日宣告

○判決要旨

(判旨第二點) 上奏ニ關スル書類ハ上奏ヲ爲シタル當局大臣ノ手ニ保存スヘキ

上奏ノ書類ノ想像上ノ認定ノ證據ノ列記

モノニシテ訴訟記録ニ添付スヘキモノニアラス

(判旨第三點) 裁判官ノ想像ヲ以テ漫ニ事實ヲ認定スルハ法律ノ許容セサル所ナリ

(同上) 實體上證明ノ効力ナキモノヲ以テ形式上證據トシテ列記スルハ適法ノ處措ニアラス

第一審 東京地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 森 順正 辯護人 佐々木茂三郎

城田法馬

右賄賂收受及恐喝取財被告事件ノ控訴ニ付明治三十年六月十五日東京控訴院ニ於テ審理ノ末本件控訴ハ之ヲ棄却スト言渡シタル判決ニ對シ被告及ヒ辯護人佐々木茂三郎ハ上告ヲ爲シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ
被告カ上告趣意書ノ要旨ハ被告ノ所爲ハ原判決ニ認定シタル如クナリトスルモ刑法第三百九十條第二百八十六條等ヲ適用處斷スヘキ犯罪ノ要素ヲ欠クニ拘ハラヌ該條等ヲ適用處斷シタルハ法律ノ錯誤アルモノナリト云フニアレトモ○被告ノ所爲カ是等犯罪ノ要素ヲ具備スルコトハ原判決ニ照シテ明瞭ナレハ本論旨ハ相立タス

判旨第二點

上告趣意擴張書ノ要旨ハ奏任官ニ對シ起訴ヲ爲スニハ現行犯ノ場合ノ外上奏ヲ爲シ上裁ヲ經ルヲ要ス否ヲサレハ起訴ハ無効ニシテ公訴受理スヘカラサルナリ一件記録ヲ案スルニ際モ上奏ヲ爲シタルコトナキナリ本件ニ付テハ起訴無効タルモノナリ故ニ豫審并ニ第一審ノ判決共ニ不法ノモノナレハ被告ノ控訴ハ理由アルモノナリシニ原院カ之ヲ棄却シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○上奏ニ關スル書類ノ如キハ固ヨリ其上奏ヲ爲シタル當局大臣ハ手ニ保存スヘキモノニシテ訴訟記録ニ添付スヘキモノニ非サルヲ言テ後ハ不故ニ本件記録中其書類ノ存在セサル事ヲ以テ直チニ本件ハ起訴ハ上奏裁可ヲ經サル不適法ハモノナリト論スルコトヲ得ス因テ本論旨モ亦相立タス

辯護人飯田宏作城數馬佐々木茂三郎カ上告趣意擴張ノ要旨第一點ハ原判決ハ敬次郎ハ豐次郎ニ向ヒ手指ヲ以テ圓形ヲ作り之ヲト云ヒ金圓ヲ被告人ニ與フヘキコトヲ命シタルハ豐次郎ハ其命令ニ從ヒ四月二十三日夜東京牛込區市ヶ谷田町三丁目二十一番地被告人ノ住居ニ赴キ被告ニ面會シ金千圓ヲ交付セシニ被告人ハ前顯敬次郎ニ約セシ金圓ノ一部トシテ收受シタリトノ事實ヲ認メ其證據トシテ被告ノ調書及供述兩宮敬次郎古屋豐次郎淺野鏡一野崎キミ岩田作兵衛寺島直ノ豫審調書ヲ明示シタルモ被告及敬次郎豐次郎ヲ除キ鏡一以下ノ人々ハ認定事實ノ場合ニ關係ナシ被告ハ金千圓交付其他認定ノ事實ヲ絕對ニ否認スルカ故ニ一モ之ヲ徵スヘキ陳述ナシ敬次郎豐次郎ノ證言中亦認定事實ノ徵影ヲモ徵證スヘキモノナク却テ認定事實中ノ金千圓ハ同判決ニ於テ收賄ナリト認メタル金千圓ト同性質ナルコトヲ證シテ明白ナリ然

上奏ノ書類○想像上ノ認定○證據ノ列記

ルニ前掲ノ如ク事實ヲ認定シタルハ全ク證據ナキニ裁判官ノ想像事實ヲ認定シテ而シテ實體ニ於テ全ク證明ノ用ヲ爲サ、ルモ形式上ノ證據ヲ列舉シタル不法ノ判決ナリ即チ第一實體ニ於テハ認定事實ノ證據ト爲リ得シテ形式ノミ證據ト稱シ得ヘキモノヲ列記スレハ刑事訴訟法第二百三條ノ規定ニ反セサルヤ否若シ反セストセハ即チ已ム然ラサレハ第二列記ノ證據ハ形式ニ止マリ其實體ハ認定事實ノ證據トナリ得ストノ上告理由ニ對シテハ御院ハ其論旨ニ從ヒ認定ノ事實ト證據ノ實體トニ就キ適法ナリヤ否ヲ判斷セストセハ則チ已ム然ラサレハ第三本件判決明示ノ證據ハ上告理由ノ如ク其實體上認定事實ノ證據ト爲リ得サルヤ否ノ三點ニ付判斷アラントテ請求スト云フニ在リ

〇因テ案スルニ裁判官ノ想像ヲ以テ没ニ事實ヲ認定スルハ固ヨリ法律ノ許容スル所ニ非ス又實體上證明ノ効ナキモノハ形式上證據トシテ列舉スルカ如キ是亦適法ノ措置ニ非サルヤ言テ俟タス然レトモ法律上證據ト爲リ得ヘキ事物ニ就キ一々其證明ノ効力如何ヲ考覈シ彼此取捨判斷テ下シ以テ事實ヲ認定スルハ獨リ事實裁判官ノ能クスル處ニシテ亦法律上事實裁判官ノ職權ニ專屬ス殊ニ本件原判決ニ明示シタル各證據ハ因果ヲ證明ノ効力ヲ有スルヤ否ハ法律上ノ問題ニ非サルカ故ニ到底本院ニ向テ之カ鑑査ヲ求ムルコトヲ得サルモノトス要スルニ本論旨ハ原院ノ職權ニ屬スル證據ノ取捨事實ノ認定ヲ非難スルモノニシテ適法上告ノ理由ト爲ラス

同第二點ハ原判決先ツ「事ヲ稱ヘテ其希望ヲ杜絶スヘキノ狀ヲ示シ之ヲシテ金員ヲ交付セシメント企圖シ云々」被告ニ於テ豫期ノ結果ヲ得ル能ハスニ止ムニ至レリトノ事實ヲ認め更ニ「是

判旨第三點

ニ於テ云々」ト收賄ノ事實ヲ説明シ以テ被告カ目的ヲ達セスシテ一旦中止シタルヲ認定サレタリ而シテ其後段然レトモ被告人ハ敬次郎ヲ恐喝シ巨額ノ金圓ヲ得ントスルノ目的ナレハ以下ニ於テハ被告ノ目的敬次郎ノ意思ヲ明示シ其目的及意思ト金圓交付トヲ關聯セシムル行爲トシテハ「敬次郎ヲ審廷ニ呼ヒ入レ切ニ豫審免訴十萬圓公判無罪五萬圓宜敷ヤト耳語シ以テ金圓ノ交付ヲ迫リ敬次郎ハ——ハイ金ニテ濟マスコトナラハト答ヘ之ヲ承諾シ——豐次郎ヲ入廷セシメ——敬次郎ハ豐次郎ニ金圓ヲ被告人ニ與フヘキコトヲ命ジタルハ豐次郎ハ其命ニ從ヒトノ數事ニ止マリ一モ恐喝ノ行爲ヲ認定セラレス故ニ中止以前ノ恐喝手段アリシカ爲メ敬次郎ニ於テ恐怖心ヲ有シテ金圓ヲ交付シタリトスルモ一旦中止シタル後再ヒ金圓ノ交付ヲ迫ルニ際シ恐喝ノ行爲ナキ以上ハ恐喝取財ヲ以テ論スルヲ得ス然ルニ原判決之ニ刑法第三百九十條ヲ適用シタルハ擬律ノ錯誤ナリト云フニ在レトモ

〇原判決前段ニ「豫期ノ結果ヲ得ル能ハスシテ止ムニ至レリ」トアルハ豐次郎ヲシテ敬次郎ニ面會セシメ敬次郎ヨリ金圓交付ノ意ヲ豐次郎ニ傳ヘシメントシタルモ敬次郎カ當時未タ其意ヲ決セザリシカ爲メ結果ヲ得ルニ至ラザリシ事實ヲ叙シタルニ止マリ被告カ犯罪ノ意思ヲ中止シタルコトヲ認めタルモノニ非ス其後段ニ然レトモ被告ハ敬次郎ヲ虛喝シ巨額ノ金圓ヲ得ントスルノ目的ナレハ未タ之ヲ以テ足レリトセス既ニ二十二日ニ於テ敬次郎ニ對シ被告人ノ意思ニ從ハサレハ永ク獄裏ノ愁苦ヲ受クヘシトノ意ヲ示シ暗ニ其畏怖心ヲ生セシメタルヲ以テ此機ニ乘シ當初ノ目的ヲ達スルニ如スト思惟シトアルニ依ルモ被告ノ意思始終繼續シタルヲ明ナリ又敬次郎カ仍ホ畏怖心ヲ有セシコトハ同

ク其後段ニ「敬次郎ハ前日來ノ成行ニ依レハ到底被告ノ意ヲ滿タスニアラサレハ出獄ノ期ナキニ至ラント思慮シ竟ニ其意ヲ決シ云々」トアルニ照シテ明ナリ左レハ再ヒ金圓ノ交付ヲ迫ルニ際シ更ニ恐喝ノ行爲ナキモ以前ヨリ繼續シ來レル恐喝畏怖其効ヲ生シ金圓ノ交付ヲ受クルニ至リタル以上ハ恐喝取財ノ罪コトニ成立スルヲ以テ原判決刑法第三百九十條ヲ適用シタルハ相當ニシテ毫モ疑律錯誤ノ廉アルコトナシ

同第三點ハ假ニ一步ヲ讓リ「金圓ヲ得ントスルノ目的ナレハ云々此機ニ乘シ當初ノ目的ヲ達スルニ如スト思惟シ」トアルハ承前起後ノ文章ニシテ前段ノ關聯ヲ認メタリトスルモ第一審判決ハ「然レトモ被告力當初ノ目的ハ敬次郎ヲ恐喝シ巨額ノ金錢ヲ得ントスルニ在リシカハ未タ之ヲ以テ足レリトセス同月二十一日豐次郎云々前日來被告ノ言語舉動ニ徴シ云々一層畏怖心ヲ増シ云々」トアリテ前段中止以前ト後段トヲ截然區分シ而テ後段ニ恐喝ノ行爲ヲ認メサルハ第一審判決ニ異ナラス即チ原判決ハ第一審ト事實ノ認定ヲ異ニスルニ拘ラス控訴ヲ棄却シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○原判決ヲ以テ第一審判決ニ對照スルニ字句ノ顛倒其他疎密ノ別アルモ事實ノ認定ハ同一ニシテ彼此ノ間毫モ差異アルヲ見ス故ニ原判決被告ノ控訴ヲ理由ナシトシ之ヲ棄却シタルハ決シテ不法ニ非ス

同第四點ハ刑法第二百八十六條ニ「刑事ノ裁判ニ關シテ賄賂ヲ收受シ」トアレハ裁判ニ關スルコトハ犯罪構成ノ一要素ナリ而シテ保釋ハ勿論豫審終結ハ裁判ヲ以テ爲スヘキモノニ非ス然ルニ原判決ヲ適用シタルハ疑律ノ錯誤ナリト云フニ在レトモ○裁判ト稱スルハ判決々定命令ヲ包含スルモノナレハ保釋及ヒ豫審終結ノ言渡ハ裁判ニ非スト謂フヘカラス本論旨ハ畢竟法律ノ誤解ニ出タルモノトス

同第五點ハ原判決ニ「酒間敬次郎ノ保釋ヲ許可セラレ度キ事并ニ敬次郎ヲ免訴セラレ度キ事ヲ請托シ以テ賄賂ノ意ヲ表シタリ云々」トアリ即チ請托ニ係ル保釋ヲ許可スル事并ニ免訴ノ決定ハ豫審判事ノ職權ニシテ被告ノ職務ニ非サルハ論ナシ原判決モ亦保釋ノ許否并ニ豫審ノ終結ニ關シテハ己ノ意見ヲ表示ス可キ職務ニ在ルニ拘ハラスト云フテ請托承諾ノ事柄ハ其職務ニ非サルコトヲ認メタリ故ニ意見ノ表示ニ付請托ヲ承諾スレハ格別職務外ナル保釋ノ許可免訴ノ決定ニ付請托ヲ受クルモ罪トナルコトナシ然ルニ原判決第二百八十六條ヲ適用シタルハ疑律ノ錯誤ナリト云フニ在レトモ○原判決ハ文字稍正確ナラサル所アルモ其意ハ被告ノ職務外ナルニ拘ハラス被告ニ於テ保釋ヲ許可シ又免訴ノ決定ヲ與フヘキコトヲ約諾シタリト云フニ在ラスシテ被告ニ於テ最モ敬次郎ニ利益ナル意見ヲ表示シ同人ヲシテ保釋ノ許可及ヒ免訴ノ決定ヲ受ケシムルコトニ盡力スヘシトノ意ヲ以テ豐次郎ノ請托ニ應シタルモノト認メタルコト自ラ明瞭ナリ因テ本論旨モ亦原判決破毀ノ理由ト爲スニ足ラサルモノトス

同第六點ハ原判決ニ「金千圓ヲ其傷ニ於テ之ヲ收受シタリ」トアルカ故ニ犯罪ノ日時場所ヲ知リ得ヘシト雖モ第一審判決ニ「單ニ金千圓ヲ收受シタリ」トアリテ犯罪ノ日時場所ヲ明示セサル瑕疵アリ然ルニ原院ハ此點ニ付テモ被告ノ控訴ヲ理由アリト爲スヘキニ之ヲ棄却シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○第一審判決ニ「翌十九日夜東京市牛込區下宮比町二番地待合君

川亭事野崎キミ方ニ至リ使テ遣シテ被告ヲ招致シ云々贈賄ノ意ヲ示シタリ而シテ被告ハ云々直ニ之ヲ承諾シ豐次郎カ其報酬トシテ贈與セシ金千圓ヲ收受シタリトアリテ犯罪ノ日時場所共ニ明示シアレハ本論旨ハ其謂レナキモノトス

同第七點ハ原判決ハ恐喝ノ行爲トシテ假令汝ニ於テ無罪ノ裁判ヲ受クルモ我之ヲ控訴スヘキヲ以テ爾後汝ハ一二年在獄ノ覺悟ヲ爲サル可カラスト申聞ケ云々トアリ然レトモ檢事タリシ被告ニシテ實ニ控訴スルノ理アリテ又其意アリシナラハ之ヲ言ニ發スルハ不眞實ニ非ス又不當ニ非ス好シ金員ヲ供スレハ控訴セサルノ意アルコトヲ通スルモ是レ賄賂ヲ得レハ職務ノ正當執行ヲ爲サトルヘキヲ暗示シテ賄賂ヲ促シタルニ過キス未タ恐喝ト云フヲ得ス故ニ恐喝ナリトスルニハ尙ホ控訴スルノ理ナク其意ナキコトヲ明示スルヲ要ス原判決之ヲ看過シタルハ理由ノ明示ヲ缺キタル不法アリト云フニ在レトモ○檢事ニ於テ控訴スルノ理アルヤ否ヤ又其意アルヤ否ヤハ未タ無罪ノ判決アラサル豫審中ニ於テ定マルヘキ事柄ニ非サレハ原判決之ヲ明示セサルハ固ヨリ當然ナリ而シテ前掲判決ノ前段ニ豫審進行ノ模様ニ徴スルニ敬次郎ハ結局豫審ニ於テ免訴タルカ否ヲサレハ公判ニ於テ無罪トラント推斷シ寧ロ之ヲシテ免訴若クハ無罪トラシメンニハ彼レカ久シク獄窓ノ下ニ愁苦シ夙ニ出獄センコトヲ切望シ居ルヲ幸ヒ事ヲ構ヘテ其希望ヲ杜絶スヘキノ狀ヲ示シ之ヲシテ金圓ヲ交付セシムルニ如カスト企圖シ云々トアリテ其後段ニ暗ニ金圓ヲ提供スルトキハ已ノ處置ヲ以テ免訴又ハ無罪ノ裁判ヲ受ケシムルヘキモノ否ヲサレハ永ク獄裏ノ愁苦ヲ脱スル能ハサラシメントノ意ヲ通シ云々トアルニ依レ

ハ被告ハ單ニ賄賂ヲ促シタルニ非スシテ金圓ヲ騙取スル爲メ敬次郎ヲ恐喝シタル事實明瞭ナレハ原判決ハ理由不備等ノ瑕疵ナシ

同第八點ハ原判決ハ敬次郎ハ豫審中ナル事實ヲ認メ又敬次郎ニ犯罪行爲ナキ事即チ敬次郎ノ豫審ニ於テ免訴ト爲ルヘキ事實ヲ認メラレタリ而シテ控訴ス可シトノ言ヲ以テ恐喝ナリト認メラレタリ然ルニ豫審ニ於テ免訴サルヘキ者ニ對シ控訴シ得ルノ理ナキヲ以テ假ニ其言語ハ恐喝ナリトスルモ是レ不能ノ事ニ屬ス不能ノ事ヲ以テ恐喝スルモ普通人ニアリテハ畏怖心ヲ生セシムルニ足ラスト推定スヘキヲ以テ此ノ如キ行爲ハ罪トシ論スルヲ得ス然ルニ恐喝取財ノ罪ナリトシタルハ疑律ノ錯誤ヲ免レスト云フニ在レトモ○原判決ハ敬次郎ニ犯罪行爲ナキ事ヲ認メス唯前段説明中ニ掲出シタル如ク被告ニ於テ敬次郎カ豫審ニ於テ免訴タルカ否ヲサレハ公判ニ於テ無罪トラント推斷シタルコトヲ認メタルニ過キス而シテ公判ニ於ケル無罪ノ言渡ニ對シテハ檢事ヨリ控訴ヲ爲スコトヲ得ルヲ以テ被告カ敬次郎ニ對シ假令汝ニ於テ無罪ノ裁判ヲ受クルモ我之ヲ控訴スヘキヲ以テ云々ト申聞ケタルハ決シテ不能ノ事ヲ以テ恐喝シタルモノト謂フヘカラス因テ本論旨モ亦相立タス

同第九點ハ原判決ニ暗ニ其畏怖心ヲ生セシメ以テ此機ニ乘シ當初ノ目的ヲ達スルニ如カスト思惟シトアリ即チ畏怖心ヲ生セシメ以テ其機ニ乘シトアルモ畏怖セシムル行爲ヲ明示セサルヲ以テ所謂此機ナルモノハ如何ナル事柄ヲ指示スルヤ之ヲ知ルニ由ナシ而シテ此一段承前起後ノ文章ナリトスレハ其所謂機ナルモノハ前段後段ヲ連結スル所ノ關鍵ナリ故ニ機ノ何タル

ヤ明示セサルハ理由ノ明示ヲ欠キタル不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○此機ニ乘シトハ右
 原判決ノ前段ニ掲ケタル豊次郎カ敬次郎ノ保釋ヲ許可セラレタキ事并敬次郎ヲ免訴セラレタ
 キ事ヲ請托シ金千圓ヲ被告ニ贈與セシコトヲ指シタルモノナルコト前後ヲ通讀シテ容易ニ之
 ナ知り得ヘシ原判決ハ此點ニ於テモ理由不備ノ瑕瑾ナシトス
 同第十點ハ原判決ニ「被告人モ亦盡力シテ免訴ニシテアル金ヲ幾ラカ出セト記シテ之ヲ示シ今
 免訴トナスニハ現ニ若干ノ金員ヲ要ス可キ意ヲ表セシカハ敬次郎ハ云々金圓ヲ被告人ニ與フ
 ヘキコトヲ命シタルハ豊次郎ハ其命ニ從ヒトアリテ豊次郎カ被告カ要望シタル若干ノ金圓ヲ
 與フヘキノ命ニ從ヒタル事實ヲ認メタルニ拘ハラヌ後段ニ至リ前顯敬次郎ニ約シタル金圓ノ
 一部トシタルハ理由齟齬アル不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○被告ハ先ツ敬次郎ニ對シ五
 萬圓又ハ十萬圓ヲ出スヘキ旨ヲ示命シ敬次郎ハ之ヲ承諾シ尋テ被告ハ敬次郎ニ對シ現ニ若干
 ノ金圓ヲ出スヘキ意思ヲ表示シタルヨリ敬次郎ハ豊次郎ニ命シ若干ノ金圓ヲ被告ニ與ヘシメ
 タル事實ナレハ被告カ敬次郎ニ約シタル金圓ノ一部トシテ豊次郎ヨリ之ヲ收受シタリトノ原
 判決ハ毫モ理由ニ齟齬アルモノニ非ス

同第十一點ハ第一審判決ハ其命ニ從ヒト云ハスシテ「豊次郎モ亦之ヲ諾シトアレハ自己ノ知ラ
 サルコトヲ諾スルノ理ナキヲ以テ其與フルヲ諾シタルハ若干ノ金圓ニシテ五萬圓又十萬圓ニ
 非サルコト明ナリ故ニ原判決ハ事實ノ認定ヲ誤リ且理由齟齬アル第一審判決ヲ取消スヘキニ
 被告ノ控訴ヲ棄却シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○第一審判決ニ之ヲ諾シトアルハ敬次

郎ノ命ニ從ヒ金圓ヲ被告ニ與フヘキコトヲ諾シタルノ意ニシテ原判決ニ「豊次郎ハ其命令ニ從
 ヒトアルト其義異ナルコトナシ故ニ第一審判決ハ事實ノ認定ヲ誤リ又其理由ニ齟齬アル等ノ
 瑕瑾ナキヲ以テ原判決之ヲ認可シタルハ相當ナリトス

同第十二點ハ第一審公判始末書ニ依レハ記錄朗讀ノ省畧ニ付被告ノ意見ヲ聞キタルモ岩田作
 兵衛淺野鏡一ノ調書ニ付辯解ヲ爲サシメスシテ之ヲ證據ニ採用シタル不法アリ故ニ原院ハ此
 點ニ付テモ被告ノ控訴ヲ理由アリト爲スヘキニ之ヲ棄却シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ
 ○被告ニ對シ記錄朗讀ノ省畧ニ付意見ヲ問ヒタルハ即チ辯解ノ機會ヲ與ヘタルモノナレハ若
 シ被告ニ於テ辯解スヘキコトアリハ此際進シテ辯解スヘキヲ當然トス然ルニ異存ナシト答ヘ朗
 讀ノ省畧ヲ承諾シ置キナカラ今更其手續ノ當否ヲ論難スルモ其効ナシトス假ニ第一審ノ手續
 ナ不法ナリトスルモ原院ニ於テ更ニ適法ノ手續ヲ履行シアルカ故ニ本論旨ハ到底適法上告ノ
 理由ト爲ラス

辯護人佐々木茂三郎ハ上告ヲ爲ス旨ヲ申立テ其趣意書ヲ差出シタルモ已ニ被告本人ニ於テ上
 告ヲ爲シタル上ハ右辯護人ノ上告ハ成立セス何トナレハ辯護人ハ被告本人カ上告ヲ爲サトル
 場合ニ於テ之ニ代リ上告ヲ爲スコトヲ得ルモ獨立シテ上告ヲ爲スコトヲ得ルモノニ非サレハ
 ナリ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ則リ本件上告ハ總テ之ヲ棄却ス

明治三十年十月四日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事藤堂融立會宣告ス

○刑ノ執行ニ對スル異議ノ件

明治三十年抗告第一二號
明治三十年十月五日決定

○決定要旨

故障ハ上訴ニアラサルヲ以テ(刑法第五十一條ニ關シ)故障ニ要シタル日時ハ刑
期計算ニ入ルヘキモノニアラス

(參照)

刑期ハ刑名宣告ノ日ヨリ起算ス若シ上訴ヲ爲シタル者ハ左ノ例ニ從フ(刑法第五
犯人自ラ上訴シテ其上訴正當ナル時ハ前判宣告ノ日ヨリ起算ス若シ其上訴不當ナル
時ハ後判宣告ノ日ヨリ起算ス(同條)

原 審 廣島控訴院

抗 告 人 佐藤良吉

明治三十年八月二十七日廣島控訴院ニ於テ右良吉ノ刑ノ執行異議申立ニ對シ本件異議ノ申立
ハ之ヲ棄却スト言渡シタル決定ニ服セスシテ良吉ハ抗告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百九
十七條ニ從ヒ檢事ノ意見ヲ聽キ決定スルコト左ノ如シ

抗告ノ趣意ハ自分カ原院ニ申立タル趣意ハ欠席判決ニ對スル故障ノ申立ハ上訴ト同様ノ性質
ナルニ依リ第一審以前ノ未決勾留日數ヲ刑期ニ算入セラレ度シト云フニアラスシテ名古屋控
訴院檢事カ執行指揮書ニ逮捕ノ日ヨリ起算スヘシト特書セラレタルハ法律上相當ノ指揮ナリ
ト確信シ且ツ自分カ疑ニ故障ノ申立ヲ爲サスシテ欠席判決ニ服從スル乎又ハ名古屋控訴院ノ
判決ニ服シテ刑ノ執行ヲ受ケタルトキハ必ヤ第一審判決以前ノ未決勾留日數モ刑期ニ算入セ
ラレタルヘシ故ニ廣島控訴院檢事カ第一審判決ノ日ヨリ起算スヘシト爲シタルハ不當ナルヲ
以テ之ニ對シ異議ノ申立ヲ爲シタルナリ然ルニ同院カ此異議ノ申立ヲ棄却シタルハ不當ナリ
ト云フニ在レトモ○本件ノ執行ハ廣島控訴院ノ確定判決ニ基クモノナレハ其管轄ハ同院ニ屬
スルヲ以テ名古屋控訴院檢事カ其判決ノ執行命令ヲ爲スヘキ理由ナシトス而シテ抗告申立人
ハ該ニ欠席判決ニ服セスシテ故障ヲ爲シタルモノナレハ欠席判決ニ服從シタル場合ニ對スル
刑期計算ハ方法ヲ用ユヘカラサルハ勿論ニシテ又故障ハ上訴ニアラサルハ刑法第五十一條若
シ上訴ヲ爲シタル者ハ云々トアルニ該當セサルヲ以テ原院檢事カ第一審對席判決ノ日ヨリ刑
期ハ起算ヲ爲シタルハ相當ナリ從テ原院カ之ヲ是認シ之ニ對スル異議ノ申立ヲ棄却シタルモ
正當トス

右ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第三百條末段ニ從ヒ本件抗告ハ之ヲ棄却ス

明治三十年十月五日大審院第二刑事部ニ於テ

○手形偽造詐欺取財ノ件

明治三十年第七五〇號
明治三十年十月七日宣告

○判決要旨

(判旨第二點) 預主名義ノ引出切手ヲ偽造シ銀行ヨリ當座預金ヲ騙取シタル場合ニ於ケル被害者ハ預主ニアラスシテ銀行ナリ

(判旨第四點) 當初輕罪トシテ地方裁判所支部ノ公判ニ付セラレタル事件ヲ立會檢事ニ於テ重罪トシテ訴追シタル爲メ地方裁判所へ移送セラレタル場合ト

雖モ其訴追以前ニ於ケル參考人調書等ハ無効ニ歸スヘキモノニアラス

第一審 横濱地方裁判所八王子支部 第二審 東京控訴院

被告人 高橋伸藏 辯護人 (宮古啓三郎 兒玉一英)

右手形偽造詐欺取財被告事件ニ付明治三十年六月二十四日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ本院ハ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ

上告趣旨ノ第一ハ被告ハ養父ニ代リ常ニ銀行其他ノ取引ヲ擔任シ來リタルヲ以テ銀行ニ對ス

ル引出切手作成ノコトハ勿論被告ニ於テ專斷シ來リタル先例ニテ現ニ養父カ旅行中實印其他取引上必要ノ物件ハ惣テ自宅ニ差置アリテ養母ニ相談スルト否トハ被告ノ勝手ニシテ本件ノ如キ手形作成ハ素ヨリ養父ノ認諾スル所ニ有之然ルニ本件ノ如ク圖ラサル不慮ノ災厄ニ罹リ意外ノ損害ヲ被リタルハ實ニ偶然ノコトナルヲ以テ當初ヨリ加害ノ惡意ナキコト明カナリ然ルチ原院ニ於テ被告ニ有罪ノ判決ヲ與ヘラレシハ不法ナリト云フニ在リテ○原院ノ職權ニ存スル事實ノ認定ヲ批難スルニ過キサレモナレハ本論旨ハ上告ノ理由トナルヘキモノニ非ス其第二ハ被告ハ被害者ノ嗣子養子ニシテ總テノ財産ヲ相續スヘキ權利ヲ有スルノナルノミナラス銀行ニ對シテハ辨償ノ義務ヲ負フヘキ契約アルヲ以テ養父ノ財産ニ害スルハ即チ被告自己ノ財産ヲ害スルト同一ナリ故ニ自己ノ財産ヲ害スヘキ惡意アルヘキ答ナク又結局其損害ハ他人ノ損害ニアラスシテ自己ノ損害ナルヲ以テ罪トナルヘキモノニ非スト云フニ在レトモ○原院ハ認めタル事實ニ依レハ養父源兵衛名義ハ引出切手ヲ偽造シ第三十六國立銀行ヨリ源兵衛ハ當座預金ヲ騙取シタルモノハナレハ其被害者ハ源兵衛ニアラスシテ第三十六國立銀行タルコト言テ俟タサルナリ要スルニ本論旨ハ原院ノ認めサル事實ヲ掲出シテ原判決ヲ論難スルニ過キサレモナレハ上告ノ理由トシテ採用スルヲ得ヘキモノニアラス

判旨第二點

當座預金ノ騙取○訴追以前ノ調査

ハ同人ノ陳述トハ之ヲ指スマ明ラケシ然ルニ明治二十九年十月ニ在テハ東京地方裁判所八王子支部ハアレトモ横濱地方裁判所八王子支部ナル裁判所ハ官制上アルコトナシ故ニ明治二十九年十月三十日ニ於テ茂手木津末丸山ノ三判事及ヒ彦坂檢事等ノ組織シタル法廷ハ決シテ適法ノ公廷ニアラス適法ノ公廷ニ非サル所ニ於テ訊問シタル參考人高橋ダイノ申立モ總テ法律上効力ナキモノトス然ルニ原院カ此陳述ヲ採テ斷罪ノ資料トセシハ不法ナリト云フニ在リ○依テ明治二十九年十月三十日附王子支部ノ公判始末書ナルモノヲ査閱スルニ其初葉ニ於テ横濱地方裁判所八王子支部裁判長云々ト印刷シアル界紙ヲ用ヒアリシコトハ上告所論ノ如クナレトモ其二葉以下ハ總テ東京地方裁判所八王子支部ノ界紙ヲ用ヒ其官印ニ於テモ適法ノ官印ヲ押捺シアルニ依レハ畢竟スルニ其印刷ニ係ル横濱ノ二字ヲ東京ノ二字ニ訂正スヘキヲ遺忘シタリト云フニ過キスシテ其訂正ヲ遺忘シタルカ爲メ官制上アル可カラサル横濱地方裁判所八王子支部ニ於テ公廷ヲ開キタリトノ論法ヲ生スヘキ謂レナシ故ニ本論旨ハ其理由ナシ其第二ハ本件ハ其初メ輕罪事件トシテ八王子支部ノ公廷ニ上リシモ立會檢事ヨリ重罪トシテ訴追アリ而シテ該八王子支部ノ公廷ハ假リニ適法ノ公廷ナリトスルモ是レ支部ニシテ重罪事件ヲ審判スルノ職權ヲ有セサルモノナルヲ以テ特ニ東京地方裁判所ヘ移送スルノ言渡ヲ爲シ更ニ同裁判所ニ於テ審理判決アリシモノナリ左スレハ本件ニ付八王子支部ニ於テ爲シタル公判手續ノ全ク無効ニ歸シ其際同廳ニ於テ審問シタル參考人高橋ダイノ陳述カ參考人ノ陳述トシテ効力ヲ有セサルコトハ勿論ナルニ原院ニ於テ該陳述ヲ斷罪ノ資料ニ供シタルハ失當ノ裁判ナ

判官第四點

リト云フニ在レトモ○八王子支部ノ公判始末書ニ據レハ同廳カ高橋ダイノ參考人トシテ取調ヘタルハ立法檢事カ本件ヲ重罪事件トシテ訴追セサル以前ニアレハ之ヲ取調ヘタル當時ニアリテハ素ヨリ違法ノ廉アリタルトシテ故ニ本件カ以後重罪事件トシテ判決セラレシト爲メニ該參考人ノ陳述カ無効ニ歸スヘキ謂レ非サレハ原院カ之ヲ斷罪ノ資料ニ供セシハ相當ノコトナリトス其第三ハ原院カ認メタル事實ニ依レハ被告カ金千貳百圓ヲ第二十六國立銀行ヨリ受取リタリト云フ其中金二百圓ハ被告カ正當ニ受取り得ヘキ權利ヲ有セシモノニ係ルヲ以テ其點ニ付テハ決シテ犯罪ノ成立スヘキモノニアラス唯々其承諾ヲ得サリシ金千圓ニ付テ責任ヲ負フヘキノミ然ルニ原院ハ一方ニ於テ金二百圓ニ付テ養母ノ承認ヲ得タリシ事實及此二百圓ハ養家ニ差置キタル事實ヲ認メタルニ拘ラス一方ニ於テハ同日右銀行ニ至リ前額偽造ノ切手ヲ差出シ金千二百圓ヲ騙取シト判示シ金二百圓ニ付テモ亦詐欺取財ノ罪アルモノト如ク認定シタルハ理由ニ齟齬アル失當ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○原判文ヲ査閱スルニ被告仲藏ハ明治二十九年二月十九日養父源兵衛ノ不在ニ乘シ養母ダイニ對シ砂石邊ニ購買ヒニ赴クニ付仕入レ金トシテ二百圓ヲ渡シ吳レト申立云々以下認ムル處ノ事實ニ依レハ被告カ養父源兵衛ノ不在ニ乘シ養母ダイニ對シ購買ヒニ赴クニ付仕入レ金トシテ二百圓ヲ渡シ吳レト申出タルハ真正ニ仕入金ヲ要シタルニアラスシテ言テ仕入金ニ托シ養母ダイヲ預ケ金引出シノ切手用紙ト源兵衛ノ實印トヲ差出サシメ以テ金千二百圓ノ引出シ切手ヲ偽造セントノ手段ニ出テタル事實ナルコトハ判文上自カラ知ルヲ得ヘシ既ニ然レハ其二百圓ニ付キテモ被告カ正當

當ニ銀行ヨリ引出シ得ヘキノ権能ヲ有セシモノニアラサルコトハ亦々知ルヘキナリ故ニ原院ニ於テ該二百圓ニ付テモ他ノ千圓ト同ク銀行ヨリ騙取シタルモノト判定セシハ相當ノコトナリトス而シテ本件詐欺取財罪ノ犯罪成立ノ時ハ被告カ金九百圓ヲ携帶逃走シタルノ時ニアラスシテ第三十六國立銀行ヨリ金千貳百圓ヲ引出シタル時ニアレハ該金ノ内金二百圓ヲ養家ヘ差置キタリシトテ之ヲ騙取金以外ノモノト云フテ得ス又金貳百圓ハ養母ノ承諾ヲ得タリトノ點ニ付テハ前掲説明ノ如クナレハ原判決ニ於テ被告カ金千貳百圓ヲ騙取シタルモノト判定セシハ毫モ理由ニ齟齬アルコトナシ其第四ハ前第三點ニ於テ論スルカ如キ次第ニシテ畢竟被告ハ金二百圓ノ切手ヲ作成スヘキニ金千貳百圓ノ切手ヲ作成シタルモノニシテ其行爲ハ二百圓ノ切手ニ「千」ノ一字ヲ増加シタルモノトモ異ナルコトナシ從テ被告ノ此行爲ハ或ハ文書變造行使罪ヲ構成スルコトアルヘキモ金千貳百圓ノ引出切手ノ偽造行使罪ヲ組成スヘキモノニ非ス原判決ハ即チ擬律錯誤アル違法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○金貳百圓ノ點ニ付テハ前項ニ就示セシ如キ理由ナルノミナラス凡ソ文書ノ變造トハ既成ノ文書ヲ増減變換スルノ謂ヒニシテ未タ成立セサル文書ニ付増減變換ヲ爲スヘキ場合アルコトナシ故ニ本件ノ如キ場合ニ於テ被告ハ假リニ金貳百圓ノ切手ヲ作成スルノ權利アルモノトスルモ之ヲ作成スルニ際シ擅ニ金千二百圓ノ切手ヲ作爲セハ切手偽造ノ所爲ト云フヘキモノニシテ變造ト云フテ得ス故ニ本論旨モ其理由ナシ

辯護人兒玉一英擴張書ノ要旨第一ハ原判決法律ノ理由ニ依レハ其手形ノ偽造ト認メラレタル

ハ千二百圓ノ全體ニシテ又銀行ヨリ騙取シタリト認メラレタルハ千貳百圓ノ金額ナルヤ否ヤ事實ノ明瞭ヲ次クテ以テ之ヲ判明スル能ハス何トナレハ金額金千貳百圓ノ手形偽造ト認メラレタルモノトスルトキハ假令ヒ養母ノ承諾有無ニ拘ハラズ養父ノ不在中ハ養母及被告共ニ絶對的手形作成ノ権能ナキモノト云ハサルヘカラサルヲ以テナリ然ルニ又事實ノ理由ニ付テ之ヲ見ルトキハ養父不在中ト雖トモ養母ト相談ノ上ニ於テハ手形作成ノ権能アルモノト如シ果シテ然ルトキハ二百圓ニ對シテハ正當ニ手形ヲ作成シ又銀行ヨリ之ヲ引出シ得ルヲ以テ千二百圓ノ全部ノ偽造又ハ騙取ニアラサルヤ明カナリ然ルニ原院ニ於テ其區別ヲ明瞭ニセス其事實ノ列序ト斷案トヲ異ニシタルハ是レ理由ノ不備若クハ齟齬ナリト云フニ在レトモ○金千貳百圓全部ニ對スル切手ノ偽造ナルコト及ヒ金千貳百圓全部ノ騙取ナルコトハ官古辯護人ノ辯明論旨ニ對シ就示スル如クナレハ原判決事實ノ理由及ヒ法律ノ理由ニ於テ不備若クハ齟齬アルコトナシ其第二ハ本件ノ事實ハ若シ果シテ原院ノ認メラレシ如ク金千貳百圓ヲ騙取シ源兵衛宅ニ立戻リ其内九百圓ヲ携帶シテ逃走シタリトノ事實トスルトキハ九百圓ノ携帶罪ニ過キサレモノト云ハサルヲ得ス既ニ携帶罪ナリトスルトキハ被告ト被害者トハ養父子ノ間柄ナルヲ以テ刑法第三百九十八條ニ從ヒ其罪ヲ論スヘカラサルモノナリ故ニ不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○原判文ニ於テ被告カ九百圓ヲ携帶シテ逃走シタリトノ事實ヲ扱ケタルハ被告カ金千貳百圓ヲ銀行ヨリ騙取シタル犯罪事後ノ所爲ヲ叙述シタルニ過キサレモノナレハ被告ノ所爲携帶罪ヲ以テ問難スヘカラサルハ勿論從テ刑法第三百九十八條ヲ適用スヘキモノニアラス

故ニ原判決ハ不法ニアラス其第三ハ上告趣旨第二ト其趣旨同一ニ歸スルニ付其説明ニ依リ了解スヘシ

右ノ理由ニ付刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之ヲ棄却ス
明治三十年十月七日大審院第一刑事部公庭ニ於テ檢事藤堂融立會宣告ス

○私印盜用等ノ件 明治三十年第七六六號
明治三十年十月七日宣告

○判決要旨

(判旨第三、四點) 甲者ノ地所ニ對シ賣渡證書ヲ偽造シ登記ヲ受ケ形式上自己ノ所有名義トナシタル後乙者ニ對シ自己ノ所有地ナリト信セシメ抵當ニ差入レ金圓ヲ受領シタル所爲ハ冒認罪ヲ構成ス

(參照) 他人ノ動産不動産ヲ冒認シテ販賣交換シ又ハ抵當典物ト爲シタル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス(刑法第三百九項九)

(判旨第五點) 判決ニハ主文及ヒ理由ヲ包含ス

(參照) 控訴ハ區裁判所又ハ地方裁判所ノ第一審ニ於テ爲シタル本案ノ判決及ヒ第八十七條ニ規定シタル本案前ノ判決ニ對シ之ヲ爲スコトヲ得(刑事訴訟法第(二百五十條) 被告人辯護人又ハ法律上代理人ノミ控訴ヲ爲シタルトキハ原判決ヲ變更シテ被告人ノ不利益ト爲スコトヲ許サス(刑事訴訟法第(二百六十五條)

第一審 新潟地方裁判所高田支部 第二審 東京控訴院
被告人 横田倉吉 辯護人 花井卓藏

右私印盜用私書偽造行使詐欺取財被告事件ニ付明治三十年七月一日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ
上告趣旨ノ第一點ハ被告ハ原院ニ於テ認定シタルカ如キ犯罪行為ヲ爲シタルコトナシ而シテ遺言證ニ關スル犯罪成立セサル限リハ被告ノ所爲ハ權利ノ實行タルニ過キス然ルニ有罪ノ言渡ヲ爲シタルハ擬律錯誤ナリト云フニ在テ○要スルニ本論旨ハ原承審官ノ職權ニ存スル事實ノ認定ヲ非難シ而シテ擬律錯誤ナリト論スルニ過キサレハ上告ノ理由トナル可キモノニアラス

同第二點ハ原院ハ一切ノ記録ヲ朗讀スルコトナク又證據物件ニ付被告ノ辯解ヲ聽クコトナクシテ直チニ斷罪ノ資料ニ供シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○原院ノ公判始末書ヲ査閱ス

冒認罪ノ構成○判決

ルニ證據書類ノ朗讀ヲ省略スルニ付被告ハ異議ナキ旨申立又證據物件ニ對シ被告ハ別ニ辯解
 ナシト申立テタル旨明記シアルニ付本論旨ハ其謂レナキモノトス
 辯護人花井卓藏カ擴張論旨ノ第一ハ原院ニ於テ被告カ中村傳作ニ對スル所爲ヲ以テ冒認罪ナ
 リトシ法律ノ適用ヲ爲シタレトモ理由由中明カニ冒認ニ關スル事實ヲ表彰シタル廉ナシ乃チ原
 判決ハ此點ニ於テ理由不備ナリト云フニ在レトモ〇原、判、文、ヲ、查、閱、ス、ル、ニ、被、告、ハ、武、藤、彦、左、衛、門
 ハ、死、亡、シ、タ、ル、ヲ、奇、貨、ト、シ、同、人、ヨ、リ、被、告、ニ、宛、テ、タ、ル、本、案、ノ、地、所、賣、渡、證、書、并、ニ、登、記、請、求、ノ、委、任、狀
 ナ、偽、造、シ、彦、左、衛、門、ノ、存、命、中、ニ、作、製、シ、タ、ル、體、ニ、裝、ヒ、之、ヲ、高、田、區、裁、判、所、ニ、提出、シ、テ、登、記、ヲ、受、ケ、乃
 チ、右、地、所、ヲ、被、告、ノ、所有、名、義、ト、爲、シ、然、ル、後、中、村、傳、作、ニ、對、シ、被、告、ノ、所有、地、ナ、リ、ト、信、セ、シ、メ、其、地、所
 ハ、内、二、筆、ヲ、傳、作、ニ、抵、當、ニ、差、入、レ、以、テ、同、人、ヨ、リ、金、百、圓、ヲ、受、取、リ、タ、リ、ト、ノ、事實、ヲ、明、示、シ、ア、リ、テ、即
 チ、他、人、ノ、不、動、產、ヲ、冒、認、シ、テ、抵、當、ト、爲、シ、タ、ル、ノ、理、由、明、瞭、ニ、シ、テ、毫、モ、間、然、ス、ル、所、ナ、シ、故、ニ、本、論、旨
 ハ、其、理、由、ヲ、キ、モ、ハ、ト、ス

判旨第三點

同第二點ハ右ノ如ク原院ハ被告カ中村傳作ニ對スル所爲ヲ以テ冒認罪ナリト判定シタレトモ
 其地所ハ判文前段ニ明示シアル如ク明治二十九年六月三日登記ノ上形式上一旦被告ノ名義ト
 ナリタルモノナレハ被告ト傳作トノ間ニ在リテハ法律上有効ナル抵當權設定セラレタルモノ
 ト云ハサル可カラズ左レハ犯罪當時ノ狀態ニ於テ冒認罪ト爲スハ其當ヲ得ス寧ロ單純ノ詐欺
 取財ト爲スナ至當トス故ニ原判決ハ疑律錯誤ナリト云フニ在レトモ〇已ニ前項ニ説明シタル
 如ク原院ノ認定シタル事實ニ依レハ本案ノ地所ハ被告カ冒認シタルモノハニ係ルヲ以テ詐欺ハ

判旨第四點

手取テ用ヒ登記ヲ經テ形式上一旦被告ノ所有名義トナルモ之カ爲メ被告ト傳作トノ間ニ於テ
 法律上有効ナル抵當權ヲ設定シ得ヘキモノニアラス故ニ原院カ冒認罪トシテ處斷シタルハ相
 當ノ判決ナリトス

判旨第五點

同第三點ハ刑事訴訟法第二百五十條及ヒ第二百六十五條ニ所謂判決トハ其基本タル可キ主文
 ノミヲ意味スルモノニシテ理由ヲ包含セサルコトハ法理先例ノ徵ス可キモノアリ是故ニ被告
 人ノ控訴ハ第一審ノ判決主文ニ掲ケタル刑罰自體ヲ不法トシテ控訴シタルモノト解ス可キハ
 當然ナリ隨テ此刑罰自體ニシテ輕キニ失シ更ニ重刑ニ處セラレタル上ハ縱令其他ノ理由ニ於
 テ不當ノ點アリトスルモ被告ノ控訴ハ結局理由ナキニ歸着セサル可カラズ乃チ本件ノ如キ場
 合ニ在テハ被告ノ控訴ハ之ヲ棄却シ檢事ノ附帶控訴ニ依リ主文ノ刑罰ヲ言渡ス可キ筋ナルニ
 原院ノ處措茲ニ出テサルハ違法ナリト云フニ在レトモ〇刑、事、訴、訟、法、第、二、百、五、十、條、及、ヒ、第、二、百、
 六、十、五、條、ヲ、按、ス、ル、ニ、本、案、ノ、判、決、又、ハ、原、判、決、ト、アル、其、判、決、ト、ハ、即、チ、判、決、全、部、ヲ、指、稱、ス、ル、ノ、謂、ニ
 シ、テ、獨、リ、其、主、文、ノ、ミ、ヲ、指、シ、タ、ル、モ、ハ、ニ、非、ス、其、理、由、モ、亦、之、ニ、包含、ス、可、キ、コ、ト、勿、論、ナ、リ、故、ニ、本、案
 ノ、如、ク、原、院、ニ、於、テ、檢、事、ノ、附、帶、控、訴、ニ、基、キ、第一審ノ判決主文ニ掲ケタル刑ヲ變更シ更ニ重キ刑
 ナ言渡シタル場合ニ於テモ其他ノ理由ニ於テ尙ホ失當ノ點アルコトヲ認メタル上ハ即チ被告
 ノ控訴モ亦理由アルモノナキ因テ原院カ被告ノ控訴ヲ理由アルモノトシ之ヲ棄却セサリシハ
 當然ノ判決ナリ

冒認罪ノ構成〇判決

ニ原院ハ之ヲ變更シテ實渡證書偽造行使ノ罪ニ從ヒ處斷ス可キモノトセリ而シテ此變更ハ有罪中處斷ノ證據タル可キ罪質ニ係ルヲ以テ頗ル重要ナル事項ニ屬ス然ルニ判文中至モ此點ニ關スル理由ヲ示サルハ不法ナリト云フニ在レトモ○已ニ原院ニ於テ被告ノ控訴及ヒ檢事ノ附帶控訴ニ依リ第一審判決ヲ取消シタル上ハ更ニ判決ヲ爲スニ付數罪ノ輕重ヲ比較シ之ヲ判決スルハ其職權ニ存セリ而シテ之カ輕重ヲ判定シタル理由ノ如キハ特ニ判文ニ明示スルコトヲ要スルモノニアラス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本案上告ハ之ヲ棄却ス
明治三十年十月七日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス

○監禁制縛毆打致死ノ件

明治三十年第七三九號
明治三十年十月八日宣告

○判決要旨

意思ノ繼續ト行爲ノ繼續トハ併存スヘキモノニアラス

意思繼續ノ認定ハ承審官ノ職權ニ屬ス

第一審 大津地方裁判所

第二審 大阪控訴院

被告人 信澤繁吉

右監禁制縛毆打致死被告事件ニ付明治三十年六月二十二日大阪控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタルニ付刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

上告趣意第一點ハ原判決事實ノ部ニ於テ繁八ト申合セ自宅ニ於テ兩人ニテ藁繩又ハ連着ヲ以テイトノ手足ヲ縛シ云々トアリテ制縛ノ用ニ供シタルモノハ藁繩ト連着ノ二品ナリ然ルニ探證ノ部ニ徴スルニ藁繩ノ連着タルコトハ明ナルノミナラス一件記録ニ徴スルモ藁繩ヲ以テ作製シタル連着ニシテ二品ニ非ス故ニ原判決ハ理由不備ノ不法アリト云フニ在レトモ○原判文探證ノ部ニ於テモ押収ノ藁繩連着トアルノミナラス押収目錄ニハ現ニ二品トシテ掲記セルヲ以テ原判文ニハ二品ト認メタルコト前後異ナルナク從テ理由ノ不備ト謂フヲ得ス同第二點ハ原判文ニ手又ハ或ル物件ヲ以テイトノ身體各所ヲ毆打シトアレトモ或ル物件トハ如何ナル物ナルヤヲ知ルヲ得ス是事實理由ノ不備ナル裁判ナリト云フニ在レトモ○該物件ノ何物タルカハ犯罪構成ニ影響ナキヲ以テ之ヲ明示セサルモ不法ニ非ス同第三點ハ原判決ハ發狂每ニ毆打シタル等ノ事實ヲ認メナカラ其行爲ヲ意思繼續シタルモノトナシタルハ事實齟齬ノ認定ナリ發狂ヨリ鎮定迄ハ意思ハ所爲ノ繼續スルト共ニ相連續スルト云フヲ得ルモ死ニ致ス迄意思ノ連續シタリト云フヲ得スト云フニ在レトモ○意思ハ繼續ト行爲ハ繼續トハ自ラ別物ナルヲ以

意思ノ繼續○行爲ノ繼續○意思繼續ノ認定

ハ二者ハ必スシモ併存スヘキモノニ非ス故ニ原判決ハ事實ハ顯赫アリト云フヲ得ス又意思ハ連續シタルト否トハ原院ノ職權ヲ以テ認定スヘキモノナルカ故ニ之カ認定ニ對シテ非難ヲ加フルモ以テ上告理由トナスヲ得ス同第四點ハ毆打創傷等ノ所爲ノ數個ノ犯罪ナルニ一罪トシテ處斷シタルハ不法ナリト云フニ在リテ○則チ一罪トシテ處斷シタルニ對シ數罪ノ處斷ヲ受クヘキモノナリト云フニ歸シ結局被告ノ不利益ニ屬スヘキ論旨ナルヲ以テ被告ノ上告理由トナスヲ得ス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス
 明治三十年十月八日大審院第三刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○私印盜用私書偽造行使ノ件

明治三十年第七五六號
 明治三十年十月八日宣告

○判決要旨

(判旨第七點) 事實ノ理由ニ於テ六個ノ所爲アルコトヲ認メナカラ法律ノ適用ニ至リ三罪トシテ處斷シタル判決ハ擬律錯誤ノ不法アリ然レトモ此場合ハ被告ノ不利益ニ歸スルヲ以テ破毀變更スルコトヲ得ス

(參照) 被告人辯護人又ハ法律上代理人ノミ控訴ヲ爲シタルトキハ原判決ヲ變更シテ

被告人ノ不利益ト爲スコトヲ許サス(刑事訴訟法第二項)
 (判旨第十點) 檢事ノ命ニ依リ犯罪ヲ搜查シタル事實ヲ記載セシ巡査ノ復命書

ニシテ巡査ノ意見ヲ記述シタル點アルモ之ヲ以テ不法無効ノ文書ナリトナスヲ得ス

第一審 神戸地方裁判所 第二審 大阪控訴院

公訴私訴上告人 大井駒藏

辯護人

磯部卓四郎
 花井卓藏
 高木益太郎
 中島孝太郎
 東長三郎

私訴被上告人 神田常七

代理人

飯田宏作

右大井駒藏カ私印盜用私書偽造行使被告事件ノ公訴ニ付明治三十年六月十七日大阪控訴院ニ於テ神戸地方裁判所ノ判決ニ對スル被告人ノ控訴ヲ審判シ公訴ニ付本件控訴ハ之ヲ棄却ス私訴ニ付原判決ハ之ヲ取消ス控訴人ノ被控訴人カ請求スル明治二十九年十月三日付神戸地方裁判所ニ於テ爲シタル神戸市相生町二丁目三十七番市街宅地百九十八坪八合五勺ノ賣買登記ヲ取消スヘキ手續ヲ爲スヘシ私訴ニ關スル一二審ノ訴訟費用三分ノ一ハ被控訴人ノ負擔他ノ二

擬律錯誤○巡査復命書ノ意見

分ハ控訴人ノ負擔トスト音渡シタル第二審判決ニ服セス被告人ハ上告ヲ爲シタルニ因リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ被告辯護人磯部四郎花井卓藏高木益太郎ノ辯論民事原告代理人飯田宏作ノ答辯及ヒ立會檢察事安居修藏ノ意見ヲ聽キ判決ヲ爲スコト左ノ如シ

上告要旨ハ原判決中以上ノ事實ハ證人神田幸吉同常七云々豫審調書云々證據十分ナリトアリ民事原告人カ證人ト爲ルコトヲ得サルハ刑事訴訟法第二百二十三條ノ規定ニ依リ明白ナルニ本件民事原告人タル神田常七神田幸吉ヲ證人トシテ取調ヘタル豫審調書ヲ以テ斷罪ノ資料ニ供セラレタルハ違法ナリ但法文ニ被害者ト云ハスシテ民事原告人トアルニヨリ豫審中民事原告人ノ有無ニ付疑ヲ容ルヘキモノアルカ如シト雖トモ同條ハ豫審ノ規定ニシテ單ニ公判ニノミ適用セラルヘキモノニ非サルヲ以テ日後民事原告人トシテ私訴ヲ提起スルニ至ラハ其證言タル直チニ其効力ヲ失却スルハ當然ノ結果タラサルヲ得サレハナリ而シテ本件私訴ノ原因タル公訴判決中右ノ不法アル上ハ私訴ニ關シテモ同一違法アルモノナリト云フニ在レトモ○神田常七同幸吉カ證人トシテ取調ヲ受ケタルハ未タ私訴ヲ提起シ民事原告人ト爲ラサルノ前ナルヲ以テ當然證人タル資格アルモノナレハ日後民事原告人ト爲リタルニ因リ其證言ノ効力ヲ失フヘキモノニ非ス故ニ右兩名ノ豫審調書ヲ斷罪ノ資料ニ供シタルハ相當ニシテ違法ニ非ス從テ私訴判決モ亦違法ノ點ナキモノトス其第一擴張書ノ要旨ハ原院第二回公判ノ際裁判官ニ異動ヲ生シタルニ付新ニ其手續ヲ爲スヘキニ拘ラス其手續ナクシテ單ニ證人訊問ニテ終結ヲ告ケタルハ刑事訴訟法第九十八條ニ違背セル不法ノ判決ナリ但第一回公判始末書ノ朗讀ヲ以

テ事實訊問ニ代用アリシモノトスルモ證據調ニ付テハ必ス其手續ヲ要スヘキハ勿論ニシテ現ニ原判決ハ告訴狀及證人數名ノ豫審調書其他ノ書類ヲ判定ノ資料ニ供セラレタルモ毫モ所斷證據物ノ存スルコトヲ告知セス被告入ニ之カ辯論ヲ爲サシメタルコトナク即チ手續ニ違背セル明瞭ナリ又第一回公判廷ニ於テハ記錄ヲ讀聞カスヘキヤトノ問アリ被告ハ夫レニ及ハスト答ヘテ證據調ノ手續ヲ省畧スルコトヲ承諾セシモ第二回公判廷ニ於テハ手續省畧ヲ承諾シタルコトナシ然ルニ勿々終結シタルハ證據ニ關スル被告ノ辯解ヲ杜塞シタル不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○第二回公判開廷ノ際裁判官ノ異動アリタルニ付前回公判始末書ヲ朗讀シ以テ審理ヲ更新シタル手續ニ代ヘタルモノナレハ之ヲ以テ違法ト爲スコトヲ得ス既ニ始末書ヲ朗讀シ審理更新ノ手續ニ代ヘタル上ハ前回公判廷ノ事實訊問及證據調等一切ノ手續ハ第二回公廷ニ於テ新ニ之ヲ爲シタルト同一ノ効アルモノナルヲ以テ重子テ證據調ヲ爲スノ必要ナシ而シテ第一回公判廷ニ於テ證據書類物件ニ付被告人ニ辯論ヲ爲サシメタル等ノ手續ヲ爲シタルハ其始末書ニ明記スル所ナレハ審理上違法ノ點ナキモノトス其第二擴張書ノ要旨ハ原判文ニ常七井ニ被告名義ノ登記請求願書ヲ代書セシメトアリ其後段ニ登記願書ノ幸吉名下ニハ同人ノ印影ヲ盜捺シトアリ此事實ハ互ニ齟齬セリ何トナレハ右登記願書ハ常七及被告兩名ノ署名ヲ要スルモノニシテ幸吉ノ署名ヲ要セサルコトハ判文常七井ニ被告名義ノ登記願書トアルニヨリ明カナレハ幸吉ノ署名ナキ願書ニ幸吉ノ印影ヲ盜捺シ得ヘキ答ナシ然ルニ原院ハ何等ノ理由ヲ示サス幸吉ノ印影ヲ盜捺シト説明シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○原判文ニ登記

出願ニ付神田幸吉サ代人トスル旨ノ常七名義ノ委任狀并ニ常七及ヒ被告ノ登記請求願書サ代書セシメトアリテ登記出願ニ付幸吉ヲ常七ノ代人ト爲シタルモノナレハ其登記請求願書ニ代
 入幸吉ノ捺印ヲ要スルハ當然ナリ第三擴張書ノ要旨ハ原判決ノ事實ハ被告ハ神田幸吉ト共ニ
 神戸區裁判所ニ出願シタル際土地賣買登記書類ヲ抵當登記取消書類ナリト詐ハリ同人及ヒ常
 七ノ印影ヲ捺捺シタリト云フニ在リ然ルニ右抵當登記ハ被告カ干與セサルモノナルノミナラ
 ス元來抵當登記ヲ取消ス場合ニハ必ス債權者ノ承諾且出願ヲ爲スニ非ラサレハ登記所ニ於テ
 決シテ採用スルモノニ非ス故ニ本件ニ付假リニ被告カ抵當登記取消ナリト詐ハリタリトスレ
 ハ債權者古塚宗吉モ其場所ニ立會居ラサルヘカラス若シ本件登記取消ニ付特ニ債權者ノ出願
 ヲ要セサリシモノトスルトキハ其理由ヲ示サトルヘカラス然ルニ原院ハ被告及幸吉ノ兩人ノ
 ミニテ抵當登記ヲ取消シ得ヘキ理由ヲ示サスシテ抵當登記取消ノ書類ナリト詐ハリタリト認
 メタルハ理由不備アル不法ノ判決ナリト云フニ在レモ○被告カ常七ノ抵當登記ヲ取消スト稱
 シタルハ常七ヲ欺罔スルノ手段ニ過キスシテ實際登記取消ノ手續ヲ爲シタルモノニ非サレハ
 債權者カ區裁判所ニ出願セサリシハ當然ニシテ從テ債權者ノ出願ヲ要セサルノ理由ヲ説示ス
 ルノ必要ナキモノトス
 辯護士中島孝叔東夏三郎カ上告理由擴張書ノ要旨ハ第一原判決中前記宅地一筆ヲ代金三千八
 百圓ヲ以テ常七ヨリ被告ニ賣渡シタル旨ノ賣渡證書及ヒ登記出願ニ付神田幸吉サ代人トスル
 旨ノ常七名義ノ委任狀云々代理セシメトアリ其後段ニ前記委任狀及賣渡證書中常七幸吉兩者

々下ニ兩人ノ印影ヲ捺捺シトアリ右前段後段ノ事實ハ五ニ組織セリ何トナレハ前段ニ掲ケタ
 ル常七ヨリ被告ニ對スル賣渡證書ハ幸吉ノ關與スヘキモノニ非サルハ勿論ニシテ又委任狀ハ
 常七ヨリ幸吉ニ對スル登記出願ノ手續ニ止マル委任狀ナレハ是亦幸吉ノ署名捺印ヲ要スヘキ
 モノニ非ス故ニ前段ニハ幸吉ノ署名アリシ事實ヲ掲ケタルコトナク單ニ常七ノ署名ヲ要スル
 ノミノ事實ヲ掲ケ後段ニハ前記賣渡證書并委任狀ニ右常七幸吉兩名ノ署名アルモノナリト事實
 ナ斷定シ兩名々下ニ兩人ノ印影ヲ捺捺シ云々ト掲ケタルハ前後ノ事實全ク抵觸シ幸吉ノ署名
 ナキ書類ニ同人ノ印ヲ盗用シタル如キ結果ニ歸着セリ若シ賣渡證書又ハ委任狀ニ幸吉ノ署名
 アリトセハ其署名アリシコト及ヒ其署名セル理由ヲ示スヘキハ當然ナルニ此事實ノ明示ナキ
 ノミナラス却テ常七單獨ノ署名アリシ證書ナルコトヲ認メナカラ常七幸吉兩人ノ署名捺印ア
 ルモノノ如ク説明シタルハ理由ノ組織ナリト云フニ在レモ○訴訟記録中被告カ偽造セシ地所
 賣渡證書ノ原本ヲ閱スルニ賣主神田常七證人神田幸吉ト記載アリ又委任狀ニハ必ス受任者ノ
 署名ナキモノナリト斷言シ難シ而シテ原判文ニ委任狀及ヒ賣渡證書中常七幸吉兩名々下ニ兩
 名ノ印影ヲ捺捺シ云々トノ事實ヲ認定シアリテ常七一一人ノ署名アルモノト認メタルコトナキ
 ニ依レハ右賣渡證書及ヒ委任狀中又常七幸吉兩人ノ署名アリタルコト明瞭ニシテ前ニ幸吉ノ
 署名アリシコト及ヒ其署名アリタルノ理由ヲ掲載スルノ必要ナシ要スルニ原判文前後事實理
 由組織ノ點ナキモノトス第二原院第一回公判ノ際本件記録ヲ讀聞スヘキヤトノ問ニ對シ被告
 ハ夫レニ及ハサル旨ヲ答ヘタルコト記載スルモ第二回公判ニ於テ毫モ證據ニ關スル取調ナク

シテ終結シタルコト公判始末書ニ依リ分明ナリ然ルニ判決書ヲ見ルニ櫻井一久ノ告訴狀證人
 數名及ヒ被告ノ豫審調書云々證憑十分ナリトアリ刑事訴訟法第九十八條ニ裁判長ハ各證憑
 ノ取調終リタル毎ニ被告人ニ意見アルヤ否ヤヲ問ヒ云々トアリテ前記ノ書類ヲ以テ本件犯罪
 ノ證憑ニ備リアルヤ否被告人ニ於テ該證憑ニ對シ一モ取調ヲ受ケス從テ意見ヲ聞カレタルコ
 トナシ然ルチ右書類ヲ採テ斷罪ノ證憑トセラレタルハ法律ノ規定ニ違背シタル裁判ナリ但第
 一回公判ノ際朗讀ニ及ハサル旨被告ニ於テ申立テシモ裁判官カ如何ナル書類ヲ證據ニ供スル
 ヤチ示サレタルヲ以テ此問答ハ刑事訴訟法第九十八條ノ規定ヲ有効ニ省署シタルモノト云フ
 ナ得サルノミナラス同條ハ被告人利益ノ爲メ定メタルモノナルヲ以テ嚴正ニ適用スヘキハ勿
 論ナレハ第一回公判ノ際其手續省署ノコトヲ被告カ承諾セリトスルモ第二回ニ於テ之ヲ承諾
 セサル限リハ該條ニ違背スルヲ當然ナリ何トナレハ第二回公判ノ際事實訊問ノ手續ヲ省署シ
 テ第一回公判始末書ノ朗讀ヲ以テ之ニ代フルコトヲ被告人ニ於テ承諾セシコトアルモ證據取
 調ノ手續省署ヲ承諾セシコトナキヲ以テ第一回ノ問答ハ有効ニ右法條ノ手續ヲ省署シタリト
 假定スルモ刑事交替ノ後ニ係ル第二回公判ニ於テ其手續ヲ履行セサル以上ハ違法ノ判決タル
 ナ免カレサルモノナリト云フニ在レトモ○本件第一回公判廷ニ於テ事實ノ訊問證據ノ取調チ
 爲シタル後辯護人ヨリ被告人ノ利益ノ爲メ證人呼出ヲ請求シタルヨリ其請求ヲ採用シ更ニ第
 二回公判廷チ開キ引續キ審理ヲ爲シタルモノナレハ再々ヒ證憑取調チ爲サレリシハ當然ナリ
 而シテ其第一回證據調ノ手續ハ公判始末書中ニ開本件ノ記録ハ讀聞カスヘキヤ答承知ナレハ

夫レニ及ハス此時押収ノ證據品一切ヲ示ス問此等ニ付辯解スルコトナキヤ答ナシトアリテ本
 件證憑書類物件ノ取調チ爲シ被告ノ意見ヲ聞ヒタルモノナレハ違法ト認ムヘキ點ナシ又裁判
 官ハ證據ニ供スヘキ書類ヲ豫定スヘキモノニ非サレハ其如何ナル書類ヲ證據ト爲スヤチ示ス
 コトヲ得サルモノナルヲ以テ之ヲ示サレハ當然ナリ又本件第二回公判ノ際列席判事ニ異動
 アリシニ付第一回公判始末書ヲ朗讀シ以テ審理更新ノ手續ニ代ヘタルモノナレハ事實ノ訊問
 證據ノ取調等現ニ第一回公判ニ於テ之ヲ終了シタル上ハ第二回公判ニ於テ重子ヲ其手續ヲ履
 行スルノ必要ナク且其手續ニ付被告カ承諾ノ有無ヲ問フコトヲ要セサルモノトス第三ハ列席
 判事ニ異動アリタル際其審理更新ノ手續チ爲サレタル違法ナリトシ被告カ第一擴張論旨ト同
 一ナルヲ以テ重子ヲ説明チ與ヘス

辯護士磯部四郎花井卓藏カ擴張書ノ要旨ハ第一原判決ノ理由ハ被告ノ所爲ハ委任狀渡證書
 登記願書ニ印影チ盜捺シ右書類ヲ神戸區裁判所ニ提出シ其登記ヲ受ケタルモノト判示セラレ
 之ニ對スル法律適用ヲ問スルニ三罪俱發セルモノトシ刑法第百條ヲ適用シ私印盜用ノ罪ニ從
 ヒ處斷セラレタルモノナリ因テ按スルニ本件私印盜用罪ハ實渡證書ノ委任狀登記願書ノ三通
 ニ係ル三個ノ所爲併發シタルモノト事實ヲ確定セラレタリ然ラハ刑ノ適用ニ於テモ明カニ實
 渡證書カ委任狀カ登記書類カ孰レノ私書ニ盜捺シタル所爲ヲ重シトセシカチ舉示スルニ非サ
 レハ刑法第百條ヲ適用スルノ實チ得サルヘシ即チ判決ノ理由ヲ備ヘサル違法アリト云フニ在
 リ○依テ原判決ヲ調査スルニ其事實理由ニ被告カ私印盜用ノ所爲三個アルコトヲ認メ從テ私

書偽造ノ所爲モ亦三個アルコトヲ認メタリ既ニ右ノ事實ヲ認メナカラ刑ノ適用ニ於テハ三罪俱發一ノ重キ私印盗用ノ罪ニ從フト爲シ即チ三個ノ私印盗用罪チ一罪ト認メ三個ノ私書偽造罪チ二罪ト認メタルハ擬律ノ錯誤アル違法ノ判決ニシテ破毀ノ原因アルモノハナリ然レトモ三罪ト爲シタル原判決チ更正シテ六罪ト爲スハ被告人ニ不利益ナルモノニシテ本件ハ被告ノ上告ニ係リ刑事訴訟法第二百六十五條ノ規定ニ依リ原判決チ變更シテ被告ノ不利益ト爲スコトヲ許サイルモノハナレハ原判決チ破毀更正スルコトヲ得サルモノトス

第二原判決ハ私印盗用ノ所爲ニ對シ刑法第二百八條二項ヲ適用セラレタルモ同條第一項ノ適用ナシ而シテ同條第一項ハ第二項ノ刑ヲ規定スル基本ナレハ同項ヲ適用セサル以上ハ刑ヲ科スルニ由ナキモノニシテ原判決ハ法律上ノ理由具備セサル違法アルモノナリト云フニ在レトモ

○刑法第二百八條第二項ニ若シ他人ノ印影ヲ盗用シタル者ハ一等ヲ減ストアリテ同條第一項ニ記載シタル刑ニ一等ヲ減スヘキモノナルヤ明瞭ナレハ更ニ其第一項ヲ舉示スルヲ要セサルモノニシテ原判決ハ違法ニ非ス

其追申書ノ要旨第一第二ハ結局擴張第一論旨ト同一ニ歸スルモノナルヲ以テ別ニ說明チ與ヘス

第三ハ本件第二次ノ公判ハ陪席判事ニ異動アリタルニ審理更新ノ手續ヲ履行セザリシハ違法ナリト云フニ在レトモ

○其違法ニ非サルコトハ被告カ第一擴張論旨ニ對シ說明シタルヲ以テ重子テ說明チ與ヘス

第四巡査復命書ハ其自體ニ於テ證據力ヲ有スヘキモノニ非ス況ンヤ本件ノ罪證タル巡査柳瀬幾之助復命書ニハ右ノ如キ事實ナルヲ以テ卑職ノ考ニテハ大非駭議ナル者ノ不當ノ所爲ナリト意思ス云々トアリテ全然意見ヲ記述シタルモノナルニ於テ

判旨第十點

オヤ意見ハ證據ニ非ストハ證據法一般ノ定期ナリ未タ曾テ刑事證據ニ制限ナシ又復命書ヲ證據ニ供スルヲ禁シタル法文ナシトノ法理原則アルヲ聞カス果シテ然ラハ原判決ハ不法無効ノ書面ヲ採テ斷罪ノ資料ニ供シタル不法アリト云フニ在レトモ

○本件巡査ノ復命書ハ檢事ノ命ニ依リ犯罪ヲ捜査シタル事實ヲ記載シタルモノニシテ其未段ニ巡査ノ意見ヲ記述シアルモノニ以テ不法無効ノ書類トナスヲ得ス而シテ法律ニ違反シテ作成シタルモノニ非サル以上ハ如何ナル書類ト雖モ之ヲ證據ニ採用スルコトヲ得ルモノニシテ右巡査復命書ノ如キハ違法ノ書類ト認ムヘキモノニアラサレハ之ヲ以テ斷罪ノ證據ニ供シタルハ違法ニ非サルモノトス

辯護士高木益太郎カ辯明書ノ要旨第一ハ磯部花井兩辯護士追申書第四ト同一ナルヲ以テ重子テ說明チ與ヘス

第二本件第二回公判ニ於テ其審理ヲ更新シタルニ拘ハラス被告ニ對シ反證提出ノ告知ヲ爲サトルハ違法ナリ殊ニ右公判ニ於テハ被告ニ不利益ノ證據トナリシ參考人神田幸吉ノ陳述アルニ於テオヤ此陳述ニ付テモ被告ニ反證提出ノ告知ヲ爲スノ必要アリ然ルニ原院ノ措置後ニ出テサリシハ失當ナリト云フニ在レトモ

○公判始末書ニ依レハ第一回公廷ニ於テ反證提出ノ告知アリタルニ付辯護人ヨリ被告人ノ利益ノ爲メ證人喚問ノ請求ヲ爲シ裁判長ハ其請求ヲ採用シ更ニ第二回公判ヲ開キ證人及ヒ參考人ヲ訊問シタルモノナレハ其陳述ニ付重子テ反證提出ノ告知ヲ爲スノ必要ナキモノトス

第三原院ハ押收ノ證據物件ヲ調査セスシテ輕スク判決ノ資料ニ供シタル違法アリト云フニ在レトモ

○本件押收ノ證據品一切ヲ被告ニ示シ辯解ヲ爲サシメタル事ハ公判始末書ニ明記スル所ナレハ違法ノ點ナシ

第四第一審公判始末